

KUMAMOTO ROSAI HOSPITAL ANNUAL REPORT 2019

熊本労災病院 年報 2019年度



独立行政法人労働者健康安全機構

熊本労災病院

理念

良質で信頼される医療の実践

基本方針

- 1 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
- 2 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
- 3 いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
- 4 人にやさしく優れた医療人を育成します。
- 5 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。



患者の権利と責務

【患者の権利】

- 1 全ての患者さまが良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 2 自身の病気や医療内容について、十分な説明を受けることができます。また、分からないことがあれば質問をすることができます。
- 3 詳しい説明を受け十分に理解した上で、検査や治療方法を自身で選ぶことができます。また、当院での治療計画を他院の医師に相談することができます(セカンドオピニオン)。
- 4 医療上得られた個人情報などのプライバシーは、法的あるいは治療上などの正当な要請のある場合を除き、保護されます。
- 5 手続きに則り、自身の医療上の記録や情報の開示を求めることができます。

【患者の責務】

- 1 自身の病状や健康に関する情報を詳しく正確に伝えてください。
- 2 社会的ルールを遵守し、自身と他の患者さまと共に良質な医療を受けられるよう、病院の規則、職員の指示を守ってください。

平成31年4月改訂



CONTENTS

理念・基本方針／患者の権利と責務／CONTENTS	1
---------------------------	---

■病院運営状況

院長 猪股裕紀洋	4
----------	---

■病院概要

病院概要	8	アクセス	11
病院行事	9	院内のご案内	12
研修・セミナー	10		

■各診療科・各部紹介

呼吸器内科	16	麻酔科	56
消化器内科	19	病理診断科	57
脳神経内科	21	初期臨床研修医	58
糖尿病・代謝内科	23	中央手術部	59
精神科	25	救急部	60
小児科	26	DMAT	61
循環器内科	27	医療安全管理室	63
心臓血管外科	30	感染制御部	65
消化器外科／一般外科	32	地域医療連携部	67
乳腺外科	34	看護部	69
呼吸器外科	36	認定看護師	71
小児外科・移植外科	37	がん相談支援センター	78
脳神経外科	39	看護師特定行為研修	79
整形外科	40	薬剤部	80
形成外科	43	中央リハビリテーション部	82
皮膚科	45	中央放射線部	84
泌尿器科	46	中央検査部	86
産婦人科	48	栄養管理部・栄養管理室	89
耳鼻咽喉科	50	中央臨床工学部	92
眼科	52	事務局	94
リハビリテーション科	53	ボランティア	95
放射線科	54		

■臨床業績

患者数等	98	高度医療	112
疾病構成	102	救急医療	114
院内がん登録データに係る統計	108	地域医療	115

■診療情報

患者紹介について	118	両立支援相談窓口	125
セカンド・オピニオン外来	123		





病院運営状況





2019年度 年報発行にあたって

熊本労災病院 院長

猪股 裕紀洋

熊本労災病院の2019年度の活動報告をまとめました。ご一読いただければ幸甚に存じます。年度代わりから少し時間が経過しましたが、院長の立場で簡単に1年を振り返ってみたいと存じます。

診療とは直接関連しませんが、大きな運営上のイベントとしては病院機能評価の更新があげられます。2013年に取得した認証が、本来2018年で更新予定でしたが、当院の電子カルテ更新時期と重なり、2019年での更新申請をお許しいただいていたものでした。病院理念もこれを機会に改訂し、地域での診療機能と政策医療の実践、そして経営基盤整備も謳いました。各部署の準備のもと、2日間の訪問審査をうけ、インタビューにも耐えて、めでたく更新の認可をいただくことができました。県の新たな医療体制として整備された熊本県地域医療拠点病院にも指定され、医師の育成や確保、県内医療体制整備に、今後も大学病院や他の拠点病院と連携してあたっていきたいと思えます。

法律が改正されて、働き方改革にも実行が求められました。当院でも、タイムカードを導入し、

医師の勤務実態の把握が始まりました。超過勤務時間管理も毎月行い、負担軽減策を常に念頭におく運営が求められるようになりました。年休取得最低年5日は、医師にはなかなか高いハードルですが、達成できています。

診療面ではいろいろな細かい拡充がありました。精神科の常勤医師を迎え、眼科が二人体制になり、身体科での一人診療科が無くなりました。救急では、内科系外科系に分けてはいますが救急隊からのホットラインを導入し、トリアージや収容の迅速化を図りました。また救急隊員を加えた症例検討会を定期的で開催し、院内職員を含めた対応能力向上や意思疎通の円滑化に寄与しています。DMATも増員され、今年度の水害では大きな活躍をしてくださいました。患者支援としては、入退院支援センターが発足し、入退院支援サービスの一元化の端緒が開かれました。この点は、他の基幹病院にかなり後れを取っている部分であり、職員を増員しながら、患者サービスと同時に病棟業務の効率化を図っていきたく思います。政策医療機関としては、治療就労両立支援

の研修会開催、産業医活動の再開に向けての努力、が成果としてあげられると思います。日常診療と「労災」の名前との齟齬、違和感も感じられるところですが、その設立意義は見失わずに、行うべきことを継続発展させたいと思います。

院内でいくつかの研修会を開きましたが、7月に開催された、四国の小児科医・木下あゆみ先生の小児虐待に関するものは非常に印象的でした。これをきっかけに、当院でも虐待対応チームを作り、組織的な対応ができる体制が作られました。以後も悲しいニュースは続きますが、当院としても、行政や警察との情報共有を通して、年齢を問わず虐待対応に努めたいと思います。

2019年度は、6名の研修医を送り出しました。研修修了式前の「印象に残った症例の発表」では、それぞれが、心と内容の詰まったりばな「まとめ」をしてくれました。ホスピタルギャラリーの銘板に記名していますが、みな、それぞれの道で活躍しています。新たな1年次基幹型研修医は4人とどまりましたが、多くの指導医のもと、のびのびと学び、今年はずでに新たに入った1年生の指導もしてくれています。このような研修指定病院である事を誇りに思いつつ、優秀な若手医師の育成を、職員一同その成長を楽しみに継続したいと思います。

患者さん関連としては、八代がんサロンが9周年を迎えました。これまでずっとお世話してくださっている患者代表や専門看護師のみなさんの御苦

労のたまものと存じます。がん患者の一人としてもさらなる継続発展を期待しております。アメニティーとしては、正面花壇が、八代南ロータリークラブのご協力もあり、1年中きれいな花で彩られるようになりました。また、白百合学園の写真部による、ホスピタルギャラリーの写真展示は非常に好評で、置かれた感想ノートには、感謝と感動の言葉が溢れます。コロナ禍で部活が自由にできない中ですが、これからも楽しみにしております。

病院の最大の課題と考える医療安全に関しては、決して満点といえる状況ではありません。毎週、手厳しいご意見をいただき、また、診療上のご不満とそれに対する対応もいくつかありました。毎月開かれる医療安全委員会でも多くのヒヤリハット事例が報告されています。できるだけ事故の芽を摘む努力とともに、接遇や患者説明の改善などにさらに真摯に対応していきたいと思います。

年度終わりから拡大したコロナ禍は、2020年度さらに燃えさかっています。直接関与する医療者の負担とともに、病院経営にも甚大な影響を及ぼしています。2019年度を振り返り、いろいろありましたが、総じて「昨年度は良かったな」、という印象です。この冊子を読まれた方の御評価もいただきつつ、大学や自治体、さらには関連医療機関すべてのご支援ご協力をいただき、地域や患者さんに信頼され求められる医療を追究する道を進んでいきたいと思っています。今後とも忌憚のないご意見やご批判のほど、よろしく願いいたします。



病院概要



病院概要

名 称	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院
所 在 地	〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670番地
電 話 番 号	TEL:0965-33-4151(代表) FAX:0965-32-4405
開 設 承 認	昭和29年2月8日
開 設 者	独立行政法人労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹
管 理 者	院長 猪股 裕紀洋
病 床 数	410床
職 員 数	741名 医師 103名(うち基幹型研修医 11名)、看護職 441名、医療職 107名、事務職 66名、その他 24名
診 療 科 (26診療科)	内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病・代謝内科、精神科、小児科、循環器内科、心臓血管外科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科
指定医療機関等に関する事項	地域がん診療連携拠点病院(国指定)、地域災害拠点病院(熊本DMAT指定病院)、救急告示病院(二次救急医療機関)、臨床研修指定病院、地域医療支援病院、脳卒中急性期拠点医療機関、心血管疾患急性期拠点病院、心血管疾患回復期医療機関、地域産科中核病院、小児地域医療センター、熊本県地域医療拠点病院、難病基幹協力病院、在宅療養後方支援病院、脳死下臓器提供が可能な施設
認 定 施 設	日本医療機能評価機構認定施設(3rdG:Ver.2.0) 日本内科学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 NCD参加施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会認定施設 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 日本胸部外科学会教育施設 胸部ステントグラフト実施施設 腹部ステントグラフト実施施設 浅大動脈ステントグラフト実施施設 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本脳神経外科学会連携施設 日本神経学会教育関連施設 日本皮膚科学会認定専門医教育研修施設 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設 日本産科・新生児医学会母体・胎児認定施設(補完施設) 日本産科婦人科学会専門医研修連携施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設 マンモグラフィ検診施設・画像認定施設 日本麻酔科学会認定施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設 日本脳ドック学会認定施設 熊本県認定肝臓病医療支援システム指定高次専門施設 認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設 日本理学療法士協会生涯学習制度臨床指導施設
施 設 概 要	敷地面積:26,681.86㎡ 延床面積:30,193.10㎡
駐 車 台 数	664台

令和元年度 病院行事

開催日	内容
4月1日	平成31年度辞令交付式
5月17日・18日	「看護の日」記念イベント
5月21日	地域医療連携の会
7月1日	健康と福祉の事業創設記念日
7月2日	禁煙啓発イベント(パールリボン)
7月9日	敷地内清掃活動
7月28日	市民公開講座「肝がんゼロを目指して」
7月1日	永年勤続者表彰式
7月31日	高校生の一日看護体験
7月31日	サマーコンサート
9月28日	院内防火・防災訓練
10月30日	乳がん検診普及啓発イベント(ピンクリボン)
11月1日	「いいお産の日」イベント
11月13日	八代がんサロン秋桜COSMOS 9周年記念イベント
11月13日・14日	全国糖尿病週間行事
11月15日	熊本労災看護専門学校戴帽式
11月26日～29日	医療安全推進週間
12月20日	くまモンがやってくる・小児科病棟クリスマス会
2月12日	バレンタインコンサート
2月27日	中堅看護師研修成果発表会
3月17日	臨床研修医症例発表会・修了証授与式



令和元年度辞令交付式



「看護の日」記念イベント



いいお産の日



サマーコンサート



小児科病棟クリスマス会



敷地内清掃活動



中堅看護師研修成果発表会

令和元年度 研修・セミナー

開催日	内容
6月26日	第1回救急症例検討会
7月5日	研修医 院外研修
7月8日	第1回クリニカルパス大会
7月12日	第1回院内医療安全研修会
8月24日	緩和ケア研修会
8月29日	AYA世代のがんに関する研修会
9月3日	認知症・せん妄ケア研修会
9月25日	第2回救急症例検討会
10月16日	熊本緩和ケアカンファレンス
11月14日	熊本労災イメージングカンファレンス
11月20日	第2回クリニカルパス大会
12月6日	保険診療に関する講習会
1月16日	第3回救急症例検討会
1月29日	院内漢方研修会
2月1日	労働者健康安全機構九州ブロック 放射線技師研修会
2月6日	第2回院内医療安全研修会
3月6日	第3回クリニカルパス大会
3月23日	保険診療に関する講習会



院内医療安全研修会



緩和ケア研修会



AYA世代のがんに関する研修会



第2回救急症例検討会



第3回救急症例検討会



熊本労災イメージングカンファレンス

アクセス

アクセスマップ



病院概要

交通機関

- 産交バス 新八代駅西口より八代市役所前行、又は、労災病院行に乗車、労災病院前下車(所要時間約5分)
- タクシー 新八代駅より乗車(所要時間約3分)
- 乗用車 八代インターより(所要時間約5分)
※新八代駅西口より徒歩約10分

診療時間

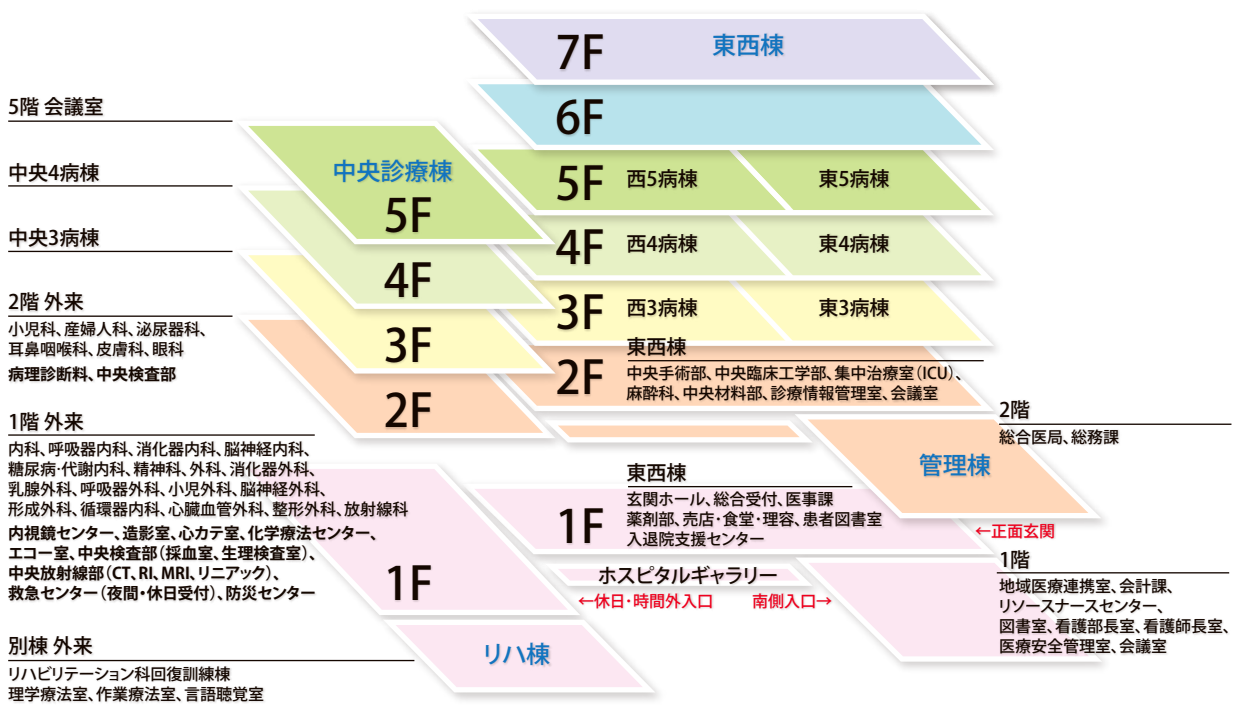
- 外来受付時間 午前8:15～11:00
- 休診日 土曜・日曜・祝日
年未年始(12月29日～1月3日)

院内のご案内

施設紹介



各階案内図



院内案内図

1階



病院概要

2階



各診療科・各部紹介

1. 初めての方

2. 2回目からの方



呼吸器内科

スタッフ紹介



呼吸器内科部長
(内科部長、緩和ケア科部長、がん
総合診療センター長、院長相談役、
熊本大学医学部臨床教授)

伊藤 清隆

【専門分野】呼吸器一般、感染症、職業性肺疾患
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医・指導
医、日本内科学会認定医・指導医、日本感染症学会・インフ
ェクションコントロールドクター、日本緩和ケア学会・ファシリ
テータ、日本医師会認定産業医



第二呼吸器内科部長
(アスベスト疾患センター長、
感染制御部長)

安道 誠

【専門分野】呼吸器一般、感染症、救急医療
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本
内科学会認定医・専門医・指導医、AHA-BLS/ACLSインス
トラクター、インフェクションコントロールドクター



第三呼吸器内科部長
山根 宏美

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本
内科学会認定医・総合内科専門医



腫瘍内科部長
(化学療法センター長)
丸山 広高

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・総合内
科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会

呼吸器内科医師
藤田 良佑

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】
日本内科学会認定医、日本呼
吸器学会専門医、インフ
ェクションコントロールドクター

呼吸器内科医師
清水 ゆかり

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】
日本内科学会認定医、日本
呼吸器学会

呼吸器内科医師

川口 紘矢

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】
日本内科学会認定医、日本
呼吸器学会

呼吸器内科の特色

常勤医師7名で、呼吸器感染症、肺癌、気管支喘
息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など呼吸器疾
患全般に関して、県南地域医療機関からの紹介・
救急患者に対応しています。2001年から2019
年の年度別呼吸器内科の入院患者総数は403名
→1,239名と大幅に増加し、高齢化社会を反映し
て肺炎・胸膜炎などの感染症が165名(40.9%)
→568名(45.8%)と最も多くの割合を占めてい
ます。肺癌は2019年度の当院初診患者数131
名と腫瘍別で最も多く、化学療法の進歩で延命
効果も高く入院患者数も97名(24.1%)→319名
(25.7%)と増加しています。昨年度は最新の超
音波気管支ファイバービデオスコープシステムを
導入しました。従来のTBLBやEBUS-GS法による
肺野の生検に追加して、EBUS-TBNAによる縦隔・
肺門リンパ節の質的診断も可能となり正診率の向
上が期待されます。気管支喘息・肺気腫などの閉
塞性肺疾患は外来での治療コントロールが良くな
り46名(11.4%)→77名(6.2%)と入院割合とし
ては減少し、殆どは救急や他院からの紹介入院で
す。自然気胸は7名(1.7%)→18名(2.0%)で、必要
時は当院呼吸器外科での手術も行っています。間
質性肺炎は特発性・膠原病関連・薬剤性等も含め
て12名(3.0%)→102名(8.2%)と増加していま
す。その他の疾患は膠原病・不明熱・感染症等で69
名(17.1%)→155名(12.5%)と入院数としては増
加して、総合内科的な役割も担っています。特殊外
来として、職業性肺疾患、特にじん肺、アスベスト関
連疾患に関しては数少ない専門医療機関として、診
断や手帳検診等で県外からも広く患者様の紹介を
受け入れアドバイスや労災疾病申請の援助を行っ
ています。

呼吸器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
(午前中)					
呼吸器内科	山根	安道	伊藤	安道	伊藤
総合内科/再診	藤田				藤田
再診		清水 川口	丸山	山根	丸山
腫瘍内科			丸山		丸山
(13:30~16:00)					
特殊外来			禁煙外来 山根	アレルギー 外来 出口	

診療実績

患者数等 (令和元年度年間患者数)

入院患者数 1,251人(3.4人/日)

延入院数 22,440人(61.3人/日)

割合	肺炎・胸膜炎	45.8%
	悪性疾患(肺癌など)	25.7%
	間質性肺疾患	8.2%
	喘息・COPD	6.2%
	気胸	1.5%
	その他	12.5%

平均在院日数 18.3日

外来患者数 11,734人(48.9人/日)

再掲	新患	2,051人(8.5人/日)
	再診	9,683人(40.4人/日)

検査実績 (令和元年度年間実績)

気管支鏡検査数 272件

再掲	TBLB	152件
	BAL	61件

CTガイド下肺生検 9例

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 地方じん肺審査医 安道 誠、伊藤清隆
- 県南結核審査会委員長 伊藤清隆
- 平成31年度 熊本県喀痰吸引等研修 伊藤清隆
- AHA-BLSインストラクター活動履歴 安道 誠
熊本労災病院2019年5月18日、2019年12月15日、

2020年2月8日

天草地域医療センター2019年11月23日

- AHA-ACLSインストラクター活動履歴 安道 誠
熊本赤十字病院2019年5月11-12日、6月8-9日、8月3-4日、10月12-13日、12月7-8日、2020年2月1-2日、3月14-15日
天草地域医療センター2019年9月21-22日
- JMECC(日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会)活動履歴 安道 誠
九州大学病院2020年1月10-11日

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 第326回日本内科学会九州地方会
会場・日程 令和元年8月、福岡
発表者 ¹⁾熊本労災病院消化器内科 ²⁾同呼吸器内科 ³⁾同病理診断科
蓑田美喜子¹⁾、家城宇希人¹⁾、瀬戸山博子¹⁾、佐々木雅人¹⁾、福嶋一晃²⁾、栗脇一三³⁾、伊藤清隆²⁾
題名 吐血を契機に診断された転移性胃腫瘍を伴う肺扁平上皮癌の1例
- 学会名 第326回日本内科学会九州地方会
会場・日程 令和元年8月、福岡
発表者 ¹⁾熊本労災病院脳神経内科 ²⁾同外科 ³⁾同脳神経外科 ⁴⁾同耳鼻咽喉科 ⁵⁾同呼吸器内科
原 靖幸¹⁾、村端秀映¹⁾、米持康寛¹⁾、藏元一崇²⁾、等 泰之³⁾、増田聖子⁴⁾、伊藤清隆⁵⁾
題名 肥厚性硬膜炎を呈した胃癌の硬膜転移の1例
- 学会名 第327回日本内科学会九州地方会
会場・日程 令和元年11月、佐賀
発表者 蓑田美喜子、山根宏美、清水ゆかり、川口紘矢、福嶋一晃、丸山広高、安道誠、伊藤清隆
題名 食道内ポリカルボフィルカルシウム製剤による気管狭窄の1例
- 学会名 第328回日本内科学会九州地方会
会場・日程 令和2年1月、福岡
発表者 眞名子聖史、福嶋一晃、山根宏美、清水ゆかり、川口紘矢、丸山広高、安道 誠、伊藤清隆
題名 アナジャコの生食により *Vibrio vulnificus* 敗血症を来した1例

呼吸器内科

- **学会名** 第328回日本内科学会九州地方会
会場・日程 令和2年1月、福岡
発表者 労働者安全機構熊本労災病院内科 坂井亜夕子、岩下晋輔、金子健吾、伊藤清隆
同 循環器内科 古川祥太郎、松村敏幸
同 皮膚科 丸田志野
同 脳神経外科 高木 寛、等 泰之
題名 圧挫症候群の加療中に指腹の Oslar 結節出現を契機に診断しえた感染性心内膜炎の1例
- **学会名** 第84回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会九州支部春季学術講演会
会場・日程 令和2年3月、福岡
※新型コロナウイルスの影響により中止
発表者 独立行政法人労働者健康安全機構熊本労災病院呼吸器内科 清水ゆかり、川口紘矢、福嶋一晃、丸山広高、山根宏美、安道 誠、伊藤清隆
題名 結節性硬化症に伴う小結節性肺胞上皮細胞過形成の経過観察中に巨大ブラが生じた1例
- **学会名** 第84回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会九州支部春季学術講演会
会場・日程 令和2年3月、福岡
※新型コロナウイルスの影響により中止
発表者 独立行政法人労働者健康安全機構熊本労災病院呼吸器内科 川口紘矢、清水ゆかり、福嶋一晃、丸山広高、山根宏美、安道 誠、伊藤清隆
題名 特発性器質化肺炎との鑑別を要した肺クリプトコッカス症の1例
- **学会名** 日本環境感染学会総会・学術集会
会場・日程 令和2年2月、神奈川
発表者 熊本労災病院ICT 和久田容子、菅原真澄、森口美琴、浜島智央、丸山久美子、安道 誠
題名 結腸手術における手術部位感染サーベイランスの結果とリスク因子の検討

講演会

- **講演会名** 第48回八代呼吸器懇話会
会場・日程 平成31年2月、熊本
発表者 清水ゆかり
題名 当科における肺炎スイッチ療法
- **講演会名** 気道疾患について考える会 in 八代
会場・日程 令和2年2月、熊本
発表者 丸山広高
題名 当院における気管支喘息発作入院患者の実態

- **講演会名** Lung Cancer Expert Meeting in 八代
会場・日程 令和元年10月、熊本
発表者 安道 誠
題名 当院におけるEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌治療の実際
- **講演会名** 八代薬剤師会学術講演会
会場・日程 令和2年2月、熊本
発表者 安道 誠
題名 小細胞肺癌の治療について

座長

- 気道疾患について考える会 in 八代
安道 誠 (令和2年2月、熊本)

講演会の開催

- 八代呼吸器懇話会
伊藤清隆 (令和元年6月11日、八代市)
伊藤清隆 (令和元年11月19日、八代市)
- COPD Network Seminar in 八代
伊藤清隆 (令和元年11月21日、八代市)
- 気道疾患について考える会 in 八代
伊藤清隆 (令和2年2月20日、八代市)

論文発表

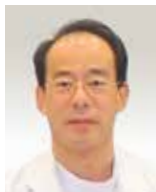
- 日呼吸誌2019; 8(5): 359-364.
自然軽快する病変が複数臓器に異時性に生じ、診断に難渋したリンパ腫様肉芽腫症の1例
山根宏美、清水ゆかり、坂本一比古、丸山広高、安道 誠、伊藤清隆

認定施設等

- 日本内科学会認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

消化器内科

スタッフ紹介



副院長
消化器内科部長
(肝疾患センター長、健康診断部長)
佐々木 雅人

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医・暫定指導医



第二消化器内科部長
(地域医療連携副室長)
瀬戸山 博子

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・専門医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、がん治療認定医機構認定医



内視鏡科部長
千代永 卓

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

消化器内科副部長
市川 亮

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医

消化器内科医師
家城 宇希人

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

消化器内科医師
日隈 ゆかり

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

消化器内科医師
黒岩 朋裕

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

消化器内科医師
米田 暁

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会

消化器内科の特色

当科は消化器疾患全領域を診療しています。スタッフ数は8名。水曜は大学病院から胆膵系専門医師の応援を頂いています

消化管系ではNBI・拡大内視鏡検査やEUS/FNA、カプセル内視鏡、CT colonographyなどの特殊検査も行います。上下部消化管のEMRやESD、食道胃静脈瘤治療(EVLやEIS)、イレウス管留置、消化管ステント留置、胃ろう造設術・交換などを行っています。胆膵系では、ERCPとIDUSを含む関連検査・処置のほか、EUS-FNAによる診断と治療を行っています。胆道閉塞性疾患にはERCPやPTCD・PTGBDを行っています。肝疾患では肝疾患センターを設け、ウイルス肝炎に対する最新の抗ウイルス療法を行い、肝癌撲滅のための市民公開講座や肝炎サロンなどによる啓発活動を通して肝炎の発見・治療、肝硬変・肝癌への進行阻止に力を入れています。

また、毎週胸腹部一般外科・移植外科、放射線科との合同カンファで治療方針を検討し、術後報告を共有することで、全員のレベルアップを図っています。その為、みな仲良く楽しい職場です。

外科との緊密な連携のもと、進行癌治療は、看護師・薬剤師など多数が参加するカンサーボードでの検討・方針決定を経て、ポート造設から包括的化学療法、緩和ケアまでを行っています。

消化器内科カンファレンス、内科・外科・放射線科病理との合同カンファレンス、放射線科との肝癌治療カンファレンスを定期的に行っており、連携が非常に緊密であることが、当科の特徴となっています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
外来	瀬戸山	千代永	佐々木	瀬戸山	佐々木
外来	千代永	市川	家城	市川	米田
			日隈		黒岩
PEG相談	黒岩／米田		黒岩／米田		

消化器内科

診療実績

患者数等 (令和元年度実績)

入院患者数 15,596人(42.6人/日)

外来患者数 12,183人(50.8人/日)

手術実績

(内視鏡)

症 例	件数
食道ESD	1件
胃EMR/ポリペクトミー	6件
胃ESD	20件
大腸EMR/ポリペクトミー	212件
大腸ESD	14件
胃ろう造設術	39件

(超音波)

検 査	件数
腹部超音波	3,969件
腹部造影超音波	23件
肝生検	45件
PTCD/PTGBD	18件
経皮的RFA/PEIT	5件

検査実績

症 例	件数
上部内視鏡検査	2,611件
下部内視鏡検査	1,482件
ERCP	237件
EUS	126件
EUS-FNA	24件

地域活動の実績

- 令和元年5月16日 「ウイルス肝炎の拾い上げと治療」、佐々木雅人、熊本市
- 令和元年5月23日 八代消化器カンファレンス、症例提示、佐々木雅人、熊本労災病院大会議室
- 令和元年6月13日 肝臓合同カンファレンス、クラウンホテルニュースカイ熊本、Abbvie 合同株式会社
- 令和元年8月2日 八代地区肝疾患講演会、「肝疾患・糖尿病治療の話題提供と知識の向上」、エルセルモ八代、大日本住友製薬株式会社
- 令和元年9月9日 社外講師勉強会、「C型肝炎治療の最新の話題について」、佐々木雅人、富田薬品株式

会社八代支店、Abbvie 合同株式会社

- 令和元年9月14日 九州肝癌研究会、「術前のレンパチニブが奏功した肝癌肺転移の1例」、佐々木雅人、JR九州博多シティ、エーザイ
- 令和元年10月24日 肝がんゼロ、熊本総合病院
- 令和元年11月15日 熊本県肝炎学術講演会、「肝硬変の診断と問題点」、佐々木雅人、ザ・ニューホテル熊本、熊本市、ギリアド・サイエンシズ株式会社
- 令和元年11月27日 C型肝炎撲滅への道、「熊本県における未発見、未治療ウイルス性肝炎患者についての取り組みー肝炎ウイルス陽性者受診勧奨システムの構築」、瀬戸山博子、ザ・ニューホテル熊本、ギリアド・サイエンシズ株式会社
- 令和元年12月12日 第180回熊本消化器画像診断研究会、「猫ひっかき病の1例」、佐々木雅人、日隈ゆかり、済生会熊本病院
- 令和2年1月22日 持田社内教育講演会、「ウイルス肝炎の基礎知識」、佐々木雅人、熊本市、持田製薬

論文発表

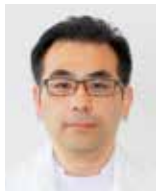
- Gastroenterol Endosc 2020; 62: 557-62
神経内分泌腫瘍と鑑別を要した盲腸 pyogenic granuloma の1例
富安真二郎¹⁾³⁾、辻 顕¹⁾、市川 亮²⁾、藏元一崇¹⁾、飯坂正義¹⁾、水田 馨²⁾、片岡 文²⁾、山邊 聡²⁾、杉原一明²⁾、佐々木雅人²⁾
1)熊本労災病院外科 2)熊本労災病院消化器内科 3)熊本市医師会熊本地域医療センター

認定施設 等

- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本肝臓学会認定施設

脳神経内科

スタッフ紹介



脳神経内科部長
原 靖幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳卒中学会専門医、日本頭痛学会指導医、日本内科学会、日本神経学会、日本神経治療学会、日本リハビリテーション医学会

脳神経内科医師 村端 秀映

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会、日本漢方学会、日本外科学会、日本消化器病学会、日本消化器外科学会、日本胃癌学会、日本大腸肛門病学会、日本肝胆膵外科学会

脳神経内科医師 竹内 陽介

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本神経学会

脳神経内科の特色

当院における脳神経内科は、内科の一員であるとともに、脳卒中センターの一員でもあるという位置づけです。内科においては毎週月曜日の内科カンファレンスでの抄読会、脳卒中センターにおいては毎週水曜日の脳神経外科との脳神経カンファレンスでの症例検討で、専門知識や診断精度の向上に努めています。

入院は多くが急性期脳梗塞ですが、その他もてんかんや髄膜炎、脳炎、ギラン・バレー症候群など神経救急疾患がほとんどを占めます。脳梗塞については、発症4.5時間以内の超急性期症例に対するt-PA静注療法に対応し、さらに脳血管内治療の適応と思われる場合は、ヘリまたは救急車で積極的に熊本市内の急性期病院へ転送しています。急性期を過ぎてリハビリ継続が必要な場合は、脳卒中連携パスを利用して後方支援病院への転院を進めています。

一方、外来は脳梗塞、てんかんのほか、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、脊髄小脳変性症などのいわゆる神経難病も多くを占めています。

高齢化を反映して今後ますます脳神経疾患のニーズは高まると思われます。多方面と連携しながら微力ながらも地域医療に貢献してまいりたいと思っております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
原	村端	原	村端	竹内

診療実績

患者数等（令和元年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 7,827人(21.4人/日)
外来患者数 延べ患者数 4,508人(18.8人/日)

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 令和元年度第1回 熊本労災病院救急症例検討会
日程・会場 令和元年6月26日 八代市(院内)
発表者 原 靖幸
題名 脳血管内治療に至った脳梗塞症例の検討
- 学会名 第226回 日本神経学会九州地方会
日程・会場 令和元年6月29日 長崎市
発表者 竹内陽介
題名 球後視神経障害を伴う Guillain-Barré 症候群の1例
- 学会名 第326回 日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和元年8月17日 北九州市
発表者 原 靖幸
題名 肥厚性硬膜炎を呈した胃癌の硬膜転移の1例
- 学会名 第30回 熊本南病院開放型病院連絡会
日程・会場 令和元年9月11日 宇城市
発表者 竹内陽介
題名 带状疱疹に伴う頸髄視神経根炎の1例
- 学会名 第327回 日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和元年11月17日 佐賀市
発表者 竹内陽介
題名 带状疱疹に続発した頸髄視神経根炎の1例
- 学会名 脳卒中連携セミナー in 八代
日程・会場 令和元年12月4日 八代市
発表者 原 靖幸
題名 脳血管内治療に至った脳梗塞症例の検討

脳神経内科

- **学会名** 熊本神経カンファレンス
- 日程・会場** 令和2年2月20日 熊本市
- 発表者** 竹内陽介
- 題名** 一過性脳虚血発作様の神経症候を呈した脳静脈洞血栓症の1例

論文・著書、編集・監修

- **雑誌名** 臨床神経, 59: 652-658, 2019
- 発表者** 竹内陽介
- 題名** 難治性の視神経障害を呈した Guillain-Barré 症候群の1例
- **雑誌名** 臨床神経, 60: 51-56, 2020
- 発表者** 竹内陽介
- 題名** HLAタイピングから神経 Sweet 病が疑われた抗 myelin oligodendrocyte glycoprotein (MOG) 抗体関連疾患の1例
- **雑誌名** 臨床神経, in press
- 発表者** 竹内陽介
- 題名** 一過性脳虚血発作様の経過を呈した脳静脈洞血栓症の1例
- **雑誌名** ブレインナーシング, Vol 36 No 2: 189-193, 2020
- 発表者** 竹内陽介
- 題名** フカメル[病棟でケアするパーキンソン病]第2回 治療
- **雑誌名** Brain and Behavior, in press
- 発表者** Shuei Murahashi
- 題名** Trousseau syndrome with intrahepatic cholangiocarcinoma that could be removed radically after endovascular treatment: report of a case

認定施設 等

- 日本神経学会教育関連施設
- 日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター

糖尿病・代謝内科

スタッフ紹介



糖尿病・代謝内科部長
(栄養管理部長)
金子 健吾

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会、日本臨床栄養代謝学会、日本甲状腺学会



第二糖尿病・代謝内科部長
岩下 晋輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本循環器学会、日本救急学会、日本内分泌学会

糖尿病・代謝内科医師

日高 竜太郎

【専門・認定・資格・所属学会】
日本内科学会認定医

糖尿病・代謝内科医師

入江 晃士朗

【専門・認定・資格・所属学会】
日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本体質医学会

勤労者医療総合センター医師

櫻井 希美

【専門・認定・資格・所属学会】
日本内科学会認定内科医、
日本糖尿病学会、日本内分
泌学会

糖尿病・代謝内科の特色

現在、我が国の糖尿病患者数は1,000万人を突破し、予備軍も合わせると2,000万人超とされています。40歳以上では実に3人に1人が耐糖能障害を持つ計算になります。糖尿病や脂質異常症、高血圧症といった病気は、自覚症状をあまり認めないために放置されることが多い疾患であり、そのためこれらの疾患により心筋梗塞や脳卒中といった重篤な疾患を発症する方が後を絶たないのが現状です。糖尿病・代謝内科では、このようにますます増加している糖尿病をはじめとした生活習慣病の診断・治療・教育を中心に、甲状腺疾患（橋本病やバセドウ病などの甲状腺機能異常や甲状腺腫瘍）をはじめとした内分泌疾患、電解質異常などの診断・治療を行っています。また、他科入院患者の血糖コントロールや栄養サポートチームの一員としての栄養管理は全病棟を対象に行なっています。2018年4月からは、熊大病院救急部に10年間勤務した岩下晋輔医師が赴任し、慢性疾患だけでなく急性疾患の診療にも協力できるようになりました。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
糖尿病・代謝内科	岩下	金子	櫻井	金子	岩下
再診	入江		入江	櫻井	
糖尿病外来(午後)					金子

診療実績

患者数等 (令和元年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 2,318人(6.3人/日)

外来患者数 延べ患者数 6,739人(28.1人/日)

検査実績 (令和元年度年間実績)

症例	件数
甲状腺超音波検査	671件
甲状腺穿刺吸引細胞診	29件

糖尿病・代謝内科

地域活動の実績

講演会

- 熊本労災病院糖尿病週間 院内講演会
(令和元年11月14日)
「糖尿病とフレイル・サルコペニア」
金子健吾 医師

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 第57回日本糖尿病学会九州地方会
日程・会場 令和元年10月25日～26日・佐賀市
発表者 熊本労災病院 薬剤部¹⁾、熊本労災病院 糖尿病代謝内科²⁾、松橋耳鼻咽喉科・内科クリニック³⁾、福満内科医院⁴⁾
中島璃沙¹⁾、岩下晋輔²⁾、櫻井希美²⁾、与那嶺真一²⁾、金子健吾²⁾、松吉亜紀子³⁾、福満健一郎⁴⁾
題名 認知症を合併した高齢2型糖尿病3症例におけるデュラグルチドの有用性の検討
- **学会名** 第328回日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和2年1月25日・福岡市
発表者 労働者安全機構熊本労災病院内科¹⁾、同循環器内科²⁾、同皮膚科³⁾、同脳神経外科⁴⁾
坂井亜夕子¹⁾、岩下晋輔¹⁾、金子健吾¹⁾、伊藤清隆¹⁾、古川祥太郎²⁾、松村敏幸²⁾、丸田志野³⁾、高木 寛⁴⁾、等 泰之⁴⁾
題名 圧挫症候群の加療中に指腹の Oslar 結節出現を契機に診断しえた感染性心内膜炎の1例

認定施設 等

- 日本糖尿病学会認定教育施設

精神科

スタッフ紹介



精神科部長

大内 清

【専門・認定・資格・所属学会】
精神保健指定医、緩和ケア研修会修了

精神科の特色

平成31年4月より当院精神科の常勤医勤務が再開し、現在では常勤医1名、他医療機関等からの協力派遣医2名の計3名で診療を行っています。また、令和元年10月からは、八代医療圏での発達障がい医療体制を整備するという熊本県の取組みに協力するかたちで、熊本大学病院から派遣された医師1名、臨床心理士1名による発達相談外来を月に2回開設しています。

社会環境の著しい変化に伴い、こころの問題もそれに併せるように様々な問題を抱える方が増えてきています。体調が悪い、食欲がない、眠れない、やる気が出ないなど、あるいは、他の診療科では身体的に異常はないと診断されたものの、それでもやはり調子が悪い、などでお悩みの患者様に、気軽にご相談いただけるよう心がけています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
午前	大内	大内	大内	大内	大内
午後	宮川 (第2週)	荒木			

発達相談外来 ※紹介制

月	火	水	木	金
				担当医 (第1・3週)

診療実績

患者数等 (令和元年度年間患者数)

外来患者数 延べ患者数 1,762人(7.3人/日)

小児科

スタッフ紹介



小児科部長
吉牟田 純一郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医

小児科副部長
渡邊 聖

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会、日本小児
神経学会

小児科副部長
松石 芽衣

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会専門医

小児科医師
片山 太輔

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会

小児科医師
濱口 正義

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会

小児科の特色

小児科診療は疾病治療を行うだけではありません。

子どもの健康や安全に関する情報を提供し指導することも大切な役目です。また、潜在する成長障害児や発達障害児を見つけ適切に対応することも重要です。

当科は八代医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、圏内唯一の小児入院施設として主に二次救急医療に携わっています。年間500～600人の入院(新生児を含む)があり全般的な小児疾患に対応しています。

外来診療では急性期の患者(主に感染症疾患)だけでなく神経疾患(てんかん、発達障害など)、腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎炎など)、内分泌疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症など)、循環器疾患、血液疾患など多岐にわたる慢性疾患患者の治療・管理に従事しています。また、入院患者の多くを占めるのが感染症疾患(肺炎、腸炎など)であり、児の不安軽減や院内感染防止に配慮しながら治療にあたっています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田
渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊
松石	松石	松石	松石	松石
片山	片山	片山	片山	片山
濱口	濱口	濱口	濱口	濱口

診療実績

患者数等 (令和元年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 2,809人(7.7人/日)

外来患者数 延べ患者数 9,085人(37.9人/日)

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 熊本労災病院救急症例検討会
- 日程・会場** 令和2年1月 八代市(院内)
- 発表者** 吉牟田純一郎
- 題名** 小児の急性脳症について

認定施設 等

- 小児地域医療センター

循環器内科

スタッフ紹介



副院長
循環器内科部長
松村 敏幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医・指導医・九州・沖縄地方会代議員、社会医学系専門医・指導医、日本職業・災害医学会評議員、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格



血管内科部長
土井 英樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医



第二循環器内科部長
阿部 浩二

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・九州・沖縄地方会運営委員、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格



第三循環器内科部長
川上 和伸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本心血管インターベンション学会認定医

循環器内科副部長
古川 祥太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本循環器学会

循環器内科副部長
本里 康太

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本動脈硬化学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医

循環器内科医師

角森 大樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会

循環器内科医師

中村 勇輝

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本心エコー図学会

循環器内科の特色

当科の特徴としては、全PCIの約3割が急性冠症候群症例に対して施行されている急性期病院に位置づけられています。熊本県南地域では唯一の日本心血管インターベンション治療学会研修施設である本施設では、24時間循環器内科医が日夜待機を行っています。心臓血管外科医とはいつでも連絡を取り合える状況にあり、外科的処置や手術が必要な症例においては即時に対応できる環境が整っています。心臓・血管専門の超音波検査技師も現在7名在籍しています。緊急のコールがあれば夜間休日でも対応可能であり緊急症例にも素早く対応しています。また最近では防災ヘリやドクターヘリによる遠隔地の循環器救急疾患も積極的に受け入れています。更に不整脈に対するカテーテルアブレーションはその需要に応えるべく年々症例数は増加してきています。日本不整脈心電学会認定不整脈専門医による高周波アブレーション、クライオバルーンアブレーション等を行っています。通常のペースメーカー植込みだけでなく、CRT-P、CRT-Dに対する心不全治療も精力的に取り組んでいます。一方、フットケアを含めた末梢血管インターベンションにも力を入れており、CLIの症例も多く受け入れています。

九州でもいち早く血管外来を整備し、内科的なアプローチ、外科的なアプローチの両側面より患者様の病態に応じて対応しています。外来ということでは、新たに「難治性高コレステロール血症外来」「不整脈外来」を立ち上げました。いずれも特殊な病態であり、近隣の開業医の先生より大きく期待されています。2019年秋には心カテ室もリニューアルされ、新しい血管造影装置(バイプレーションFPD)が配備され、現在稼働中です。

循環器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
循環器内科	角森 中村	本里	松村	阿部	古川
特殊外来 (午前)				不整脈外来 川上	
特殊外来 (午後)	難治性高コレステロール血症外来 阿部			難治性高コレステロール血症外来 阿部	
血管内科	土井		土井		土井

診療実績

患者数等 (令和元年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 11,222人(30.7人/日)

外来患者数 延べ患者数 7,833人(32.6人/日)

治療実績 (令和元年度年間実績)

症例	件数
冠動脈インターベンション	207件
末梢血管インターベンション	123件
カテーテル心筋焼灼術	48件
植込み型除細動器移植術	5件
永久ペースメーカー移植術	70件

学会・講演会発表等

学会

【国際学会】

- 学会名 European Society of Cardiology-ESC Congress 2019
- 日程・会場 令和元年8月、フランス
- 発表者 Motozato K, Sakamoto K, Tsujita K, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M.
- 題名 Prognostic Value of the CHADS2 Score for Adverse Cardiovascular Events in Acute Myocardial Infarction Patients Without Atrial Fibrillation: Japanese Multicenter Registry Data (J-MINUET Substudy)

【国内学会】

- 学会名 第29回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 九州・沖縄地方会
- 日程・会場 令和元年8月、熊本
- 発表者 古川祥太郎、角森大樹、本里康太、川上和伸、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
- 題名 当院におけるDCBによる治療時の末梢血栓予防の取り組み
- 学会名 第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会
- 日程・会場 令和元年9月、名古屋
- 発表者 阿部浩二、角森大樹、本里康太、古川祥太郎、川上和伸、土井英樹、松村敏幸
- 題名 The current antithrombotic therapy after PCI in atrial fibrillation at our Hospital
- 学会名 心臓リハビリテーション学会第5回九州支部地方会
- 日程・会場 令和元年10月、長崎
- 発表者 川上和伸¹⁾、渡部太一²⁾、谷口一成²⁾、高橋正雄²⁾、末松直子³⁾、上村幸子³⁾、金関有加³⁾
- ¹⁾熊本労災病院循環器内科、²⁾九州労災病院門司メディカルセンター循環器内科、³⁾九州労災病院門司メディカルセンター中央リハビリテーション部
- 題名 P-17 心臓リハビリテーション維持期における集団エアロビクス(ダンス)療法の安全性の検討
- 学会名 第67回日本職業・災害医学会学術大会
- 日程・会場 令和元年11月、東京
- (シンポジウム)
- 発表者 松村敏幸
- 題名 熊本地震におけるエコノミークラス症候群(研究報告)
- 発表者 松村敏幸
- 題名 孤独死の要因となる動脈硬化性疾患と精神的ストレスの研究
- 学会名 第5回Pan-Pacific Primary Angioplasty Conference 2019(PAC19)
- 日程・会場 令和元年11月、東京
- 発表者 阿部浩二
- 題名 冠攣縮による急性心筋梗塞を繰り返し、その後薬物コントロールにて5年以上経過した症例
- 学会名 ARIA
- 日程・会場 令和元年11月、福岡
- 発表者 阿部浩二
- 題名 SCJ@ARIA Video Live and Case Presentation Session

循環器内科

- **学会名** 第30回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
- 日程・会場** 令和2年1月、福岡
- 発表者** 川上和伸、土井英樹、角森大樹、古川祥太郎、本里康太、阿部浩二、松村敏幸
- 題名** MO14-1 Radiationarteritis と考えられる総大動脈、浅大動脈閉塞に対して血管内治療を行った1例

【研究会・講演会】

- **開催名** 第10回 How to overcome adversity
- 日程・会場** 令和元年5月、福岡
- 発表者** 阿部浩二
- 題名** 心不全コントロールに苦慮したRCA入口部石灰化病変の1例
- **開催名** Cancer VTE 講演会
- 日程・会場** 令和元年5月、長崎
- 発表者** 土井英樹
- 題名** 当院における Cancer VTE に対する取り組みと問題点
- **開催名** ランジオロールエキスパートセミナー
- 日程・会場** 令和元年6月、熊本
- 発表者** 古川祥太郎
- 題名** III群抗不整脈薬とランジオロールによるVT/VFの新治療戦略
- **開催名** 昭和大学 静脈血栓塞栓症を考える会
- 日程・会場** 令和元年7月、東京
- 発表者** 土井英樹
- 題名** 『当院での静脈血栓症の対応について』～実際の症例に学ぶ～
- **開催名** 八代薬剤師会学術講演会
- 日程・会場** 令和元年8月、熊本
- 発表者** 阿部浩二
- 題名** 高齢者心疾患における抗血栓療法と抗脂質療法
- **開催名** Geriatric Syndrome を考える会
- 日程・会場** 令和元年9月、鹿児島
- 発表者** 土井英樹
- 題名** 『当院での静脈血栓症の対応について』～実際の症例に学ぶ～
- **開催名** 三重 EVT 症例検討会
- 日程・会場** 令和元年9月、三重
- 発表者** 土井英樹
- 題名** SFA治療を色んな角度から考えてみる
- **開催名** PCI Meeting in Okinawa
- 日程・会場** 令和元年10月、沖縄
- 発表者** 阿部浩二
- 題名** 心不全コントロールに苦慮したRCA入口部石灰化病変の1例
- **開催名** 阿蘇郡市医師会学術講演会
- 日程・会場** 令和元年10月、熊本
- 発表者** 土井英樹
- 題名** 当院における Cancer (associated) VTE に対する治療と問題点
- **開催名** 八代循環器疾患連携講演会
- 日程・会場** 令和元年10月、八代
- 発表者** 阿部浩二
- 題名** 当院における虚血性心疾患治療について
- **開催名** ～Coronary & Peripheral～
- 日程・会場** 令和元年11月、鹿児島
- 発表者** 土井英樹
- 題名** SFA治療を色んな角度から考えてみる
- **開催名** 八代郡医師会講演会
- 日程・会場** 令和元年11月、熊本
- 発表者** 川上和伸
- 題名** 当院における不整脈診療
- **開催名** 第11回心不全ラウンドミーティング
- 日程・会場** 令和2年1月、熊本
- 発表者** 阿部浩二
- 題名** 当院における心不全治療～トルバプタン使用経験を踏まえて～
- **開催名** 対馬市循環器懇話会
- 日程・会場** 令和2年2月、長崎
- 発表者** 土井英樹
- 題名** DOAC時代だからこそ静脈血栓塞栓症(VTE)の的確な診断にこだわる
- **開催名** 京都北部エリア災害医療を考える会
- 日程・会場** 令和2年2月、京都
- 発表者** 土井英樹
- 題名** 地震の体験から再考する静脈血栓塞栓症(Venous thromboembolism ; VTE)の診断と治療

認定施設 等

- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設

心臓血管外科

スタッフ紹介



血管外科部長
原 正彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術施行医、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、日本胸部外科学会、日本静脈学会、日本脈管学会、日本外科学会



心臓血管外科部長
(心臓血管センター長)
森山 周二

【専門・認定・資格・所属学会】三学会構成心臓血管外科専門医・修練指導責任者、日本外科学会指導医・専門医・認定医、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会認定医、日本血管外科学会、日本外科学会、日本循環器学会

心臓血管外科医師 堀部 達也

【専門・認定・資格・所属学会】日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会、日本血管外科学会、日本外科学会、日本循環器学会

心臓血管外科の特色

当科は平成3年に開設されて以来、約30年の実績ある診療科です。心臓血管外科を標榜する施設が県中心部に集中しており、施設の集約化が求められるなかで唯一県中心部以外に存在しています。

当科では急性大動脈解離や動脈瘤破裂などの救命のために緊急手術が必要な症例にも昼夜を問わず対応し、主に県南の地域医療に貢献してきました。小地方都市にある施設のため手術症例数は多くはありませんが、当科では大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの血管内治療や弁形成術、下肢静脈瘤に対するレーザー治療にも取り組んでいます。

「地元完結で社会復帰する」を第一に考え、患者様にとって最適な治療を提供し患者様や家族の望まれる治療ができるように努めています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
心臓血管外科		森山		森山	
血管外科		原			原

手術日

	月	火	水	木	金
手術日			手術日	手術日	(午後)

診療実績

患者数等 (令和元年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 2,748人(7.5人/日)
外来患者数 延べ患者数 1,700人(7.1人/日)

手術実績 (令和元年度年間実績)

症 例	件数
冠動脈手術	13件
弁膜症手術	18件
(Maze 手術併施)	(4件)
その他の心臓手術	2件
大動脈瘤手術	23件
胸部大動脈瘤	5件
開胸手術	4件
ステント手術(TEVAR)	1件
腹部大動脈瘤	18件
開腹手術	5件
(大動脈瘤破裂)	(1件)
ステント手術(EVAR)	13件
急性大動脈解離手術	8件
(上記のうち人工心肺使用手術)	(45件)
末梢動脈手術	12件
下肢静脈瘤手術	45件
(Laser手術)	(24件)
その他の手術	6件
計	127件

心臓血管外科

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 第188回熊本外科集談会
- 日程・会場** 令和元年9月、熊本
- 発表者** 細田康仁、森山周二、原 正彦、金子泰史
- 演題名** 原因不明の肝硬変症による繰り返す肝性脳症と診断されていた収縮性心膜炎の1例

研究会

- **研究会名** 熊本大学心臓血管外科同門会研究発表会
- 日程・会場** 令和元年5月、熊本
- 発表者** 細田康仁、森山周二、原 正彦、金子泰史
- 題名** 軟骨無形成症に合併したA型急性大動脈解離の一手術例

論文発表

和文症例報告

- 森山周二、池田 理、田村吉高、原 正彦、金子泰史
腹部大動脈周囲炎から生じた炎症性腹部大動脈瘤破裂に対してEVARを施行した1例
日血外会誌2019; 28: 167-171
- 森山周二、原 正彦、金子泰史
原因不明の肝硬変による繰り返す肝性脳症と診断されていた収縮性心膜炎の1例
日心外会誌2019; 48: 173-178.
<https://doi:10.4326/jjcv.48.173>

認定施設 等

- 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 胸部ステントグラフト実施施設
- 腹部ステントグラフト実施施設

消化器外科

スタッフ紹介



一般外科部長
(救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)



消化器外科部長
中原 修

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本癌治療学会癌治療認定医・癌治療暫定教育医、日本臨床外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本脾臓学会、日本肝胆脾外科学会、日本消化器内視鏡外科学会、日本胃癌学会、産業医科大学産業医学基礎研修会夏季集中講座修了、緩和ケア研修会修了



第二消化器外科部長
藏元 一崇

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、JATECコース修了、日本内視鏡外科学会、日本肝胆脾外科学会、緩和ケア研修会修了、第18回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講

消化器外科、一般外科副部長
辻 顕

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本肝胆脾外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会、JATECコース修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科の特色

国指定の地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん治療の提供・患者や家族の満足度の高い治療と365日24時間熊本県南の救急患者さんの受け入れを2本柱で行っています。

消化器外科医が中心となり、一般外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科・移植外科とチームで救急医療・診療にあたっています。

全体では、手術数は年間約600例です。このうち悪性疾患は胃がんが20例と大腸がんが60例、肝胆膵がんが約40例で肺癌が50例、乳がんが20例ほどです。良性疾患では胆石が約120例ともっとも多く、次にヘルニア110例、急性虫垂炎50例などです。胆石や虫垂炎やヘルニア手術はほとんどが腹腔鏡下手術です。緊急手術は、全手術症例の4割以上を占め、急性胆のう炎、急性虫垂炎、腸閉塞・腹膜炎が多い現状です。

鏡視下手術に力を入れており、胃・大腸・鼠径ヘルニア・肺の手術のみならず肝臓・脾臓の内視鏡外科手術や肝胆膵外科の高難度手術も行っています。ハイボリュームセンターに負けない手術とグローバルスタンダードな治療・手術を目指しています。

手術以外でも癌化学療法を積極的に入院・外来で行っており、県南では緩和病床も少ないため、緩和病床を活用し、看取りまで対応しています(年間35名程度)。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
	中原	担当医		
中原	飯坂 辻		飯坂	藏元

診療実績

患者数等 (令和元年度年間患者数)

新入院患者数 1,356人

入院患者数 延べ患者数 13,733人(37.5人/日)

外来患者数 延べ患者数 9,538人(39.7人/日)

※乳腺外科、呼吸器外科、小児外科含む

消化器外科

手術実績（令和元年度年間実績）

項目	件数
手術件数	601件
予定手術	439件
緊急手術	162件

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 第119回日本外科学会学術集会
日程・会場 平成31年4月、大阪、ポスター
発表者 藏元一崇¹⁾²⁾、辻 顕¹⁾²⁾、大矢雄希¹⁾、柴田英克¹⁾、林 裕倫¹⁾、飯坂正義¹⁾²⁾、富安真二郎¹⁾²⁾、猪股裕紀洋¹⁾、馬場秀夫²⁾、熊本労災病院外科¹⁾、熊本大学消化器外科²⁾
題名 小腸疾患における急性腹症で手術を施行した119例の検討
- **学会名** 第119回日本外科学会学術集会
日程・会場 平成31年4月、大阪、ポスター
発表者 辻 顕¹⁾、藏元一崇¹⁾、大矢雄希¹⁾、柴田英克¹⁾、林 裕倫¹⁾、飯坂正義¹⁾、富安真二郎¹⁾、猪股裕紀洋¹⁾、馬場秀夫²⁾、熊本労災病院外科¹⁾、熊本大学消化器外科²⁾
題名 当院での直腸癌手術に対する経肛門減圧管の経験
- **学会名** 第74回日本消化器外科学会学術総会
日程・会場 令和元年7月、東京、デジタルポスター
発表者 藏元一崇¹⁾²⁾、辻 顕¹⁾²⁾、飯坂正義¹⁾²⁾、富安真二郎¹⁾²⁾、猪股裕紀洋¹⁾、馬場秀夫²⁾、熊本労災病院外科¹⁾、熊本大学消化器外科²⁾
題名 当院における腸管虚血の手術成績－2nd look operationの経験－
Surgical results of mesenteric ischemia –2nd look operation–
- **学会名** 第74回日本消化器外科学会学術総会
日程・会場 令和元年7月、東京、デジタルポスター
発表者 辻 顕¹⁾、富安真二郎¹⁾、藏元一崇¹⁾、大矢雄希¹⁾、飯坂正義¹⁾、猪股裕紀洋¹⁾、馬場秀夫²⁾、熊本労災病院外科¹⁾、熊本大学消化器外科²⁾
題名 臍十二指腸動脈瘤の検討
- **学会名** 第32回日本内視鏡外科学会総会
日程・会場 令和元年12月、横浜、デジタルポスター
発表者 藏元一崇¹⁾²⁾、前田裕斗¹⁾²⁾、辻 顕¹⁾²⁾、中原 修¹⁾²⁾、飯坂正義¹⁾²⁾、猪股裕紀洋¹⁾、馬場秀夫²⁾、熊本労災病院外科¹⁾、熊本大学消化器外科²⁾
題名 上部消化管穿孔における腹腔鏡下手術の適応について

- **学会名** 第81回日本臨床外科学会総会
日程・会場 令和元年11月、高知
発表者 飯坂正義
題名 リンパ節転移を伴った直腸線腫内癌の一例
- **学会名** 第32回日本内視鏡外科学会総会
日程・会場 令和元年12月、横浜
発表者 飯坂正義
題名 審査腹腔鏡が有効であった大網裂孔ヘルニアの1例

論文発表

- 日本臨床外科学会雑誌 第80巻6号: 2019, 6
辻 顕¹⁾、富安真二郎¹⁾、藏元一崇¹⁾、飯坂正義¹⁾、猪股裕紀洋¹⁾、馬場秀夫²⁾、熊本労災病院外科¹⁾、熊本大学消化器外科²⁾
腹腔鏡下に切除した腸間膜原発神経内分泌腫瘍の1例
- K Kuramoto, T Beppu, K Irie, K Kinoshita, N Sato, S Akahoshi, Y Yoshida, H Yuki and Y Hamada
Journal Gastroenterology and Hepatology: EDUCATION AND IMAGING
Hepatobiliary and Pancreatic: Intra-ductal biliary schwannoma
- Kunitaka Kuramoto, Osamu Nakahara, Yuto Maeda, Sayahito Kumamoto, Akira Tsuji, Shintaro Hayashida, Yuki Oya, Hidekatsu Shibata, Masayoshi Izaka, Shinjiro Tomiyasu, Hironori Hayashi, Yukihiko Inomata, Hideo Baba
Journal of Surgical Case Reports
Single incision laparoscopic syrgery (SILS) for Meckel's diverticulum: A case report

認定施設等

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- NCD参加施設

乳腺外科

スタッフ紹介



乳腺外科部長
林 裕倫

【専門・認定・資格・所属学会】日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会乳房再建責任医師、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィー認定医(A判定)・乳房超音波医師講習会(A判定)

乳腺外科の特色

乳腺外科は、乳腺炎、良性乳腺腫瘍、女性化乳房などをはじめ、AYA世代から増加してくる乳がんを主な対象疾患としています。当院最大の特徴は3Dプリンターで作製した患者さん自身の乳がんの実物大モデルを使用し、患者さん本人および御家族に乳がんを実感できる新規の医療を行っている点です。

〈手術〉

通常の乳癌手術は全身麻酔下で行うことが多いのですが、症例に応じて局所麻酔下での乳癌手術も手掛けています。

〈薬物療法〉

乳がん術後の補助化学療法は、標準治療を基本的にを行います。一方で再発治療では標準治療を基本として患者さんの基礎疾患や希望を取り入れた個別化医療を積極的に行っています。

〈乳がん手術症例数〉

平成30年から当院の乳がん症例数は急増しています。それに伴い乳がん手術症例数も増加し、乳がん専門病院として今まで以上に八代地域の乳がん診療に貢献してまいります。

〈乳がん検診〉

乳がん専門病院として、クーポン検診をはじめとして地域密着型の乳がん検診を積極的に受け入れています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
外来		林		林	林
乳腺専門外来		林		林	林
乳がん検診外来 (クーポン検診)		林		林	

月・水 午前はその都度臨時に全例対応

手術日

	月	火	水	木	金
手術日			手術日	手術日	手術日

(週4日に対応)

診療実績

患者数等 (令和元年度年間患者数)

新入院患者数 235人

入院患者数 延べ患者数 2,074人(5.7人/日)

外来患者数 延べ患者数 2,596人(10.8人/日)

手術実績 (令和元年度年間実績)

症例	件数
乳房手術	80件

検査実績 (令和元年度年間実績)

項目	件数
乳腺超音波検査	862件
マンモグラフィー検査	637件

学会・講演会発表等

学会

- 学会名** 第27回日本乳癌学会学術総会
日程・会場 令和元年7月、東京
発表者 林 裕倫
題名 乳がん検診啓蒙活動での real size 3D model of the breast tumor 使用の試み
- 学会名** 第20回乳癌最新情報カンファランス
日程・会場 令和元年8月、北海道
発表者 藤本優果、林 裕倫
題名 妊娠期乳癌の症例経験

乳腺外科

- 学会名 第20回乳癌最新情報カンファランス
日程・会場 令和元年8月、北海道
発表者 柏田彩佳、林 裕倫
題名 乳癌術後CA15-3上昇時の鑑別診断は？
- 学会名 第20回乳癌最新情報カンファランス
日程・会場 令和元年8月、北海道
発表者 一期崎優季、林 裕倫
題名 FEC followed by Trastuzumab により心不全を来した症例

認定施設 等

- 日本乳癌学会認定施設

呼吸器外科

スタッフ紹介



呼吸器外科部長
柴田 英克

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医・指導医、日本呼吸器外科学会専門医・評議員、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医・評議員、がん治療認定医、緩和ケア研修会受講、指導医養成ワークショップ受講、日本肺癌学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会

呼吸器外科医師
山田 紘之

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会

呼吸器外科の特色

呼吸器外科では、呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携し、正確な診断、病期の決定を行い、手術が必要な患者さんには速やかに手術を行います。また、手術後に抗癌剤治療が必要な患者さんには、当科において、継続的に治療を行っていきます。

呼吸器外科の手術においては、小さな傷で、患者さんへの負担軽減を目指す胸腔鏡下手術が主流となっております。当科でも、胸腔鏡下手術を積極的に行い、周術期の疼痛の軽減、早期退院、日常生活への早期の復帰を目指しております。

肺を切除するということは、肺の機能を低下させます。当院では、術前・術後のリハビリテーションを行い、手術による日常生活の質の低下を最小にし、普段の生活への復帰をスムーズに行えるよう、リハビリテーション科と連携して診療にあたっています。

肺癌以外にも、気胸や、気管・気管支腫瘍、胸腺腫などの縦隔腫瘍、肋骨腫瘍などの胸壁腫瘍など、心臓・大血管、乳腺以外の胸部の疾患で手術対象となるものには積極的に手術を行っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
		柴田		柴田

診療実績

患者数等（令和元年度年間患者数）

入院患者数 1,393人(3.8人/日)

外来患者数 719人(3.0人/日)

手術実績（令和元年度年間実績）

症例	件数
手術件数	108件
肺癌	55件
転移性肺腫瘍	7件
縦隔腫瘍	7件
気胸	9件
膿胸	9件
その他	21件

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 第36回日本呼吸器外科学会総会
日程・会場等 令和元年5月、大阪 ポスター
発表者 柴田英克
演題名 空洞内に air crescent sign を認めた肺クリプトコッカス症の1例
- 学会名 第42回呼吸器内視鏡学会総会
日程・会場等 令和元年7月、東京 ポスター
発表者 柴田英克
演題名 胸壁リンパ節に転移した原発不明漿液性腺癌の一例

認定施設 等

- 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

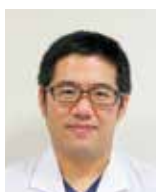
小児外科／移植外科

スタッフ紹介



小児外科部長
大矢 雄希

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本移植学会認定医



移植外科部長
林田 信太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本移植学会認定医、日本小児外科学会



院長
小児外科・移植外科医師
猪股 裕紀洋

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会 専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・指導医、日本移植学会認定医、日本小児消化器栄養肝臓学会認定医、日本社会医学系指導医・専門医

小児外科／移植外科の特色

(1)小児外科

新生児から中学生程度(16才未満)の年齢の範囲での、小児を対象とした、いわゆる一般外科疾患を扱います。新生児から乳幼児期には、小児特有の先天的な疾患の診断治療を行っています。当院は、熊本県内でも多くはない、日本小児外科学会の指導医・専門医が在籍する施設で、3名体制で専門医が対応しています。当院での収容や処置が困難な場合、大学病院などへの転送治療依頼を行います。また、鼠径ヘルニア(脱腸)、陰嚢水腫、停留嚢丸、肛門部の異常(痔核、痔瘻など)なども当科の対象になります。慢性の便秘、反復する腹痛、時々見られる嘔吐などに小児外科対象疾患が隠れていることがあり、そのような症例の紹介にも対応しています。なお、実績としては急性虫垂炎の手術症例が最多

で、ほとんどを腹腔鏡下で行っています。このほか、小児の胸部や腹部の外傷、異物誤嚥、など救急疾患にも対応しています。

(2)移植外科

日本移植学会認定医が3名在籍し、肝移植を必要とする患者さんの適応評価、説明、移植施設への紹介、などを行います。また、術後患者さんの日常的なフォロー、肝機能異常に対する肝生検を含めた評価と治療など、術後ケアにも継続的に対応しています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
大矢		猪股	林田	

診療実績

手術実績 (令和元年度年間実績)

症 例	件数
小児外科関連の手術症例数	91件
急性虫垂炎 (腹腔鏡下虫垂切除術)	22件
鼠径ヘルニア、陰嚢水腫	19件
肝生検	17件
停留嚢丸	8件
臍ヘルニア	2件
胆道拡張症	2件
肥厚性幽門狭窄症	2件
ヒルシュスプルング病	2件
尿管遺残症	2件
門脈還流異常症	2件
人工肛門造設術、閉鎖術	2件
副腎悪性腫瘍手術	1件
腹腔鏡下イレウス解除術	1件
回腸導管造設術	1件
小腸切除術	1件
その他	7件

小児外科／移植外科

その他

移植外科として、肝移植術後患者のフォロー、肝移植に関する説明、大学移植外科への紹介、などの実績があります。

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員(猪股 裕紀洋)

- 八代地域医療調整会議(委員)
- 熊本県移植医療推進ネットワーク協議会(会長)
- 厚生労働省 臓器移植委員会(委員)

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 第56回九州小児外科学会
会場・日程 令和元年5月、鹿児島
発表者 林田信太郎
学会名 乳児急性肝不全に対する肝移植
- **学会名** 第37回日本肝移植学会
会場・日程 令和元年7月、京都
発表者 林田信太郎
学会名 小児期に肝移植を施行し再移植となった症例の検討
- **学会名** 八代産科医会
会場・日程 令和2年1月、八代
発表者 猪股裕紀洋
学会名 胆道閉鎖症の早期発見のために

論文発表

- Intractable Rare Dis Res. 2019; 8(2):146-149.
Hypogenesis of right hepatic lobe in a laparoscopic cholecystectomy for acute gallstone cholecystitis: A case report.
Fujimoto Y, Ohya Y, Irie T, Kumamoto S, Tuji A, Nakamura S, Shibata H, Kuramoto K, Hayashi H, Araki Y, Iizaka M, Tomiyasu S, Inomata Y.
- Pediatr Transplant. 2019; 23(6): e13522
Efficacy of repeated balloon venoplasty for treatment of hepatic venous outflow obstruction after pediatric living-donor liver transplantation: A single-institution experience.
Shimata K, Sugawara Y, Honda M, Ikeda O, Tamura Y, Hayashida S, Ohya Y, Yamamoto H, Yamashita Y, Inomata Y, Hibi T.

- Pediatr Surg Int. 2019; 35(11): 1223-1229.
A multicenter study of primary liver transplantation for biliary atresia in Japan.
Uto K, Inomata Y, Sakamoto S, Hibi T, Sasaki H, Nio M.
- Neurology. 2019; 93(16): 714-716.
Natural history and long-term effects of variant protein reduction in non-V30M ATTR amyloidosis.
Yamashita T, Ueda M, Nomura T, Okazaki T, Okada M, Tsuda Y, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Obayashi K, Inomata Y, Hibi T, Ando Y.
- Surg Case Rep. 2020; 6(1): 53.
Laparoscopic surgery for two patients with strangulated transomental hernias.
Fujimoto Y, Ohya Y, Hayashida S, Iizaka M, Maeda Y, Kumamoto S, Tsuji A, Shibata H, Kuramoto K, Hayashi H, Nakahara O, Tomiyasu S, Inomata Y.
- 日本周産期・新生児医学会雑誌56巻1号: 23-30
日本における新生児ヘモクロマトーシス実態調査: 2010-2014年
長澤純子、和田友香、林田信太郎 他
2019; 8(5): 359-364.

研究活動

- 厚生労働科学研究難治性疾患政策研究事業「小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患の移行期を包含し診療の質の向上に関する研究」研究協力者
- 文部科学省大学改革促進経費 課題解決型高度医療人養成プログラム高難度手術領域「国内初の、肝臓移植を担う高度医療人養成—6大学連携プログラム—」事業実行責任者

認定施設 等

- 日本外科学会専門医制度修練施設
- 日本小児外科学会特定教育関連施設(申請中)

脳神経外科

スタッフ紹介



脳神経外科部長
(勤労者脳卒中センター長)
等 泰之

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳神経外科コンgres、日本脳卒中学会、日本脳ドック学会、日本脳腫瘍学会

脳神経外科医師
舎川 健史

【専門・認定・資格・所属学会】
日本脳神経外科学会

脳神経外科医師
吉田 顯正

【専門・認定・資格・所属学会】
日本脳神経外科学会認定
医・専門医

脳神経外科の特色

平成30年度4月からは2人体制にもどり、365日24時間体制となって令和2年度は3年目となりました。順調に手術症例は増加しております。

日々忙しい中、八代市周辺はもちろんのこと、球磨郡や熊本市内の救急病院からなど他地域からの転送も常時受け入れています。

治療内容としては、一般的な脳神経外科に要求される基本的治療が可能です。脳血管障害としては、脳出血に対する開頭手術による血種除去はもちろんのこと、内視鏡による minimal invasive な血種除去も可能です。クモ膜下出血など脳動脈瘤関連疾患に対しては開頭による脳動脈瘤頸部クリッピング、また技術革新の目覚ましい血管内手術も大学の専門医の応援を得て可能です。最近では内頸動脈狭窄症に対する手術や三叉神経痛に対する血管神経減圧術も数を増やしてきています。脳梗塞急性期に対する血栓除去回収療法にも状況によって対応できるように今後整備していきたいと考えています。

また高齢者に多い治せる認知症である正常圧水頭症に対する髄液シャント手術も積極的に行っています。頭部重症外傷に対しては脳圧センサーを用いたICUでの脳圧管理も可能です。新しい顕微鏡も導入されています。また各種難治疾患に対しても大学病院をはじめとする熊本市内中核病院との連

携を巡りながら、患者様にとっての Best Quality な治療を考えながら診療を行なっています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
等		等		等
舎川		舎川	吉田	舎川

脳ドック

月	火	水	木	金
吉田	吉田	吉田	吉田	吉田

診療実績

患者数等 (令和元年度年間実績)

新入院患者数 277人

入院患者数 延べ患者数 5,922人(16.2人/日)

外来患者数 延べ患者数 2,543人(10.6人/日)

手術実績 (令和元年度年間実績)

症 例	件数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	35件
水頭症手術(シャント手術)	18件
脳動脈瘤頸部クリッピング	15件
頭蓋内血腫除去術	9件
頭蓋骨形成手術	9件
脳腫瘍手術 (開頭手術、オンマイヤー留置含む)	7件
内頸動脈内膜剥離術	4件
減圧開頭術(キアリ含む)	4件
穿頭脳室ドレナージ術	4件
内視鏡下脳内血腫除去術	3件
頭蓋内微小血管減圧術	1件
血管内手術 (コイル塞栓、ステント留置)	3件
合 計	120件

認定施設 等

- 日本脳神経外科学会連携施設
- 日本脳卒中学会一次脳卒中センター
- 日本脳ドック学会認定施設

整形外科

スタッフ紹介



副院長
整形外科部長
(脊椎センター長)
池田 天史

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、臨床研修指導医、JATECインストラクター、日本DMAT隊員



関節外科部長
宮崎 眞一

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、臨床研修指導医



手外科部長
土田 徹

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、臨床研修指導医



脊椎外科部長
川添 泰弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会スポーツ認定医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医



第二整形外傷科部長
二山 勝也

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ認定医



第二脊椎外科部長
武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、臨床研修指導医、JATECインストラクター、日本DMAT隊員

整形外科医師

片山 修浩

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会

整形外科医師

相馬 史朗

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会

整形外科医師

立山 誠

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、西日本整形災害外科学会

整形外科の特色

整形外科では医師9名で日常診療を行っています。脊椎外科・関節外科・手外科・外傷など専門性を重視し分担して診療にあたっています。また多くの研修医も整形外科をローテートしてくれており活気ももらっています。脊椎外科(顕微鏡使用の除圧術や低侵襲手術、金属を併用した固定術など)、関節外科(人工関節や関節下手術など)、手外科、マイクログ、外傷(骨折や脱臼)に対する手術を多く行っています。病院内に多種類の手術材料・器械を準備しており急患に対して早期の手術も可能な状態です。他科の協力も得られており多発外傷・高エネルギー外傷にも対応しています。令和元年度(平成31年4月から令和2年3月)手術1,489例でした。救急手術に特に力を入れており、時間外、緊急の場合に対応しています。脊椎センターも担当しておりドクターヘリ等による脊椎脊髄損傷の県内からの受け入れや緊急手術も行っています。令和元年度で1日平均入院患者数81.3人、1日外来患者数95.0人、平均在院日数20.8日でした。手術・救急対応重視の

整形外科

為、外来新患は救急と紹介患者とさせていただいています。地域医療機関の先生方には外来通院加療・救急入院後転院加療など大変お世話になっております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
川添	宮崎	川添	武藤	池田
土田	池田	二山	土田	宮崎
担当医	担当医	相馬	担当医	担当医
二山	片山	武藤	片山	立山
担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

診療実績

患者数等（令和元年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 29,759人(81.3人/日)

外来患者数 延べ患者数 22,791人(95.0人/日)

手術実績（令和元年度年間 手術室内手術症例）

症例数 1,489例

※同一患者に対する同時複数手術例あり手術症例患者数は1,329例

症 例	件数
骨折関係	405件
骨折観血的手術	362件
骨折経皮的鋼線刺入固定術	22件
関節脱臼観血的整復術	21件
偽関節手術	0件
脊椎関係	466件
椎弓切除術(開窓術も含む)	187件
頸椎椎弓形成術	80件
脊椎固定術	73件
椎間板摘出術	88件
経皮的椎体形成術(BKP)	26件
黄色靭帯骨化症手術	6件
脊髄腫瘍摘出術	6件

症 例	件数
関節関係	201件
人工関節(股・膝)置換術・人工骨頭挿入術	146件
関節鏡下半月板切除術	27件
その他	28件
手外科関係	177件
手根管症候群	98件
腱鞘切開	46件
動脈皮弁術	2件
腱移行	4件
腱縫合	5件
神経移行術	7件
動脈吻合	2件
ガングリオン摘出術	2件
その他	11件
その他	240件
骨内異物(挿入物)除去術	106件
骨移植	36件
創傷処置	32件
四肢・軀幹軟部腫瘍摘出 皮下腫瘍摘出	8件
断端形成	7件
アキレス腱断裂手術	7件
四肢切断術	7件
その他	37件

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名** 第137回西日本整形災害外科学会
日 程 令和元年6月 福岡
発表者 武藤和彦
題 名 3Dプリンターを用いた手術支援の試み
- 学会名** 第138回西日本整形災害外科学会
日 程 令和元年11月 佐賀
発表者 坂本佳菜子
題 名 化膿性股関節炎と鑑別を要した恥骨骨髄炎の一例
- 学会名** 第94回熊本整形外科医会
日 程 令和元年6月 熊本
発表者 川添泰弘
題 名 当院におけるBKPの適応拡大について

整形外科

- **学会名** 第95回熊本整形外科医会
- **日程** 令和元年12月 熊本
- **発表者** 坂本佳菜子
- **題名** 化膿性関節炎と鑑別を要した小児恥骨骨髄炎の一例

論文発表

- 日本手外科学会雑誌2019 36巻3号
土田 徹
手指手関節伸展障害に対する腱移行術による再建術

認定施設 等

- 日本整形外科学会専門医研修施設

形成外科

スタッフ紹介



形成外科部長
小倉 猛

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会、日本頭蓋顎顔面学会、日本熱傷学会、労災協力医、更生医療指導医

形成外科の特色

形成外科は、主に先天性の奇形、後天性の変形などを形態的、機能的に修復、再建する科で、最終的な目標として、社会に適応していただくことを目的としております。

熊本県南で形成外科が設置されている病院は熊本労災病院のみとなっております。

取り扱う主な疾患は、おおよそ以下のとおりです。

(1) 救急

- 顔面外傷(上顎骨、頬骨、下顎骨、鼻骨骨折含む)
- 熱傷(初期の局所、全身管理から癒痕まで)
- その他(主として剥脱創、皮膚欠損創)

(2) 先天異常

- 唇裂、口蓋裂(言語障害を伴う)
- 頭蓋、顔面(耳介、眼瞼、鼻、顔面骨など)の奇形
- 母斑、血管腫、その他の皮膚腫瘍
- 手足の先天異常(多指症、合指症)
- その他(陥没乳頭、胸筋欠損など)

(3) 後天性変形

- 熱傷、外傷後の癒痕、癒痕拘縮
- 各種皮膚潰瘍(褥瘡など)
- 陳旧性顔面骨骨折(鞍鼻、斜鼻など)
- その他(陥入爪など)

(4) 悪性腫瘍

- 顔面の癌摘出や術後変形の再建
- 乳癌切除後の乳房再建
- 放射線照射後の難治性潰瘍の修復

診療体制

外来

月	火	水	木	金
小倉		小倉	小倉	

診療実績

患者数 (令和元年度年間実績)

入院患者数 延べ患者数 685人(1.9人/日)
外来患者数 延べ患者数 2,800人(11.7人/日)

手術実績 (令和元年度年間実績)

区分	件数
入院手術件数	91件
全身麻酔	54件
腰麻・伝達麻酔	1件
局所麻酔・その他	36件
外来手術件数	425件
局所麻酔・その他	425件

形成外科

手術例内訳

区 分	入院手術			外来手術	件 数
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔・ その他	局所麻酔・ その他	
外傷	14件		8件	123件	145件
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の 手術例					
顔面軟部組織損傷	1件		3件	113件	117件
顔面骨折	13件		1件	2件	16件
頭部・頸部・体幹の外傷				3件	3件
上肢の外傷			4件	3件	7件
下肢の外傷				2件	2件
先天異常	12件		1件	10件	23件
唇裂・口蓋裂	1件				1件
頭蓋・顎・顔面の先天異常	7件			8件	15件
四肢の先天異常	3件				3件
体幹(その他)の先天異常	1件		1件	2件	4件
腫瘍	27件	1件	23件	242件	293件
良性腫瘍(レーザー治療除く)	22件	1件	15件	232件	270件
悪性腫瘍	5件		8件	10件	23件
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド				1件	1件
難治性潰瘍				2件	2件
褥瘡					
その他の潰瘍				2件	2件
炎症・変性疾患	1件		2件	33件	36件
その他			2件		2件
Ex レーザー治療				14件	14件
良性腫瘍でのレーザー治療例				13件	13件
美容処置でのレーザー治療例				1件	1件
大分類計	54件	1件	36件	425件	516件

皮膚科

スタッフ紹介



皮膚科部長
守屋 千賀子

【専門・認定・資格・所属学会】日本皮膚科学会専門医

皮膚科医師

押川 由佳

【専門・認定・資格・所属学会】

日本皮膚科学会専門医、日本研究皮膚科学会

皮膚科医師

清原 佐央里

【専門・認定・資格・所属学会】

日本皮膚科学会

皮膚科の特色

皮膚の役割・機能としては、体内の水分の喪失を防ぎ、紫外線など外界からの物理的・化学的刺激や微生物から生体内部を保護する働きがあります(ホメオスタシスの維持)。

また、発汗作用などによる体温調節、痛みや温度に対する感覚器の役目も果たしており、さらに免疫反応の場としての役割も担っています。皮膚は最外層にあり、自分以外の人にも触れることから社会的境界線として機能することもあります(刺青など)。

このような様々な機能を担う皮膚が障害されることで日常生活に直接支障が生じることもあれば、掻痒による不眠や見た目の問題でしばしば二次的に精神的ダメージを抱えがちです。治療者が考える以上に皮膚病患者のQOLが低下していることが明らかになっていますので、これらの面にも配慮しつつ治療をすすめるよう心掛けています。また、近年は分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤など、皮膚障害が高率に認められる薬剤の使用が増えています。皮膚障害を最小限にし、治療継続を下支えるのも当科の役目です。

〈医療機関の方々へ〉

皮膚に関することでしたら何でも対応いたしますので遠慮なくご紹介ください(なお当院で対応できない場合は他の医療機関へ紹介させていただくこともありますので予めご了承ください)。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
守屋	守屋	押川	守屋	守屋
押川	押川		押川	押川

診療実績

患者数 (令和元年度実績)

新入院患者数 144人

入院患者数 1,653人(4.5人/日)

外来患者数 7,121人(29.7人/日)

手術実績 (令和元年度実績)

区分	件数
入院手術件数	46件
外来手術件数	132件

検査実績(令和元年度実績)

区分	件数
皮膚生検	183件

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 熊本皮膚科医会理事 守屋千賀子

認定施設 等

- 日本皮膚科学会認定専門医教育研修施設

泌尿器科

スタッフ紹介



泌尿器科部長
宮本 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医

泌尿器科医師
村上 道洋

【専門・認定・資格・所属学会】
日本泌尿器科学会

泌尿器科医師
原田 成美

【専門・認定・資格・所属学会】
日本泌尿器科学会

泌尿器科医師
井邊 有紀

【専門・認定・資格・所属学会】
日本泌尿器科学会

泌尿器科の特色

6年間当院に勤務された富永成一郎先生が異動され、4月より原田成美先生、井邊有紀先生が新たに加わり、宮本、村上両名合わせて4名で診療を行っています。

泌尿器科では、悪性腫瘍、排尿障害を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。悪性腫瘍では腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌などが中心で、早期診断、早期治療および手術、放射線科治療、化学療法を併用した集学的治療により癌制圧に取り組んでいます。

また、進行癌の場合であってもがん化学療法においては最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬なども積極的に治療に取り入れ、患者さんのQOLを維持しながら予後の改善に取り組んでいます。かかりつけ患者様の年1回のPSA測定をこの場を借りてよろしくご依頼申し上げます。排尿障害もまずは薬物療法を行い、無効例には主に内視鏡による手術を施行します。当院では安全な手術をモットーに、高齢者であってもカテーテルフリー、QOL向上を目指して積極的に手術を行っています。尿路結石に対しても最新のレーザー機器を用いた経尿道的碎石術を行い、ほとんどの症例において

一回の治療で結石の消失がみられています。

小児に対しても積極的に手術を行います。例えば、小児の停留精巣は年間10数例程度ですが、この10数年一定数を維持していることから八代圏では手術適応となる患児がこの程度存在するという証です。小児科の先生方にもこの場を借りて御紹介お願い申し上げます。

今年度より女性医師が2名加わったことから、女性の患者さんも男性の患者さんもより受診しやすくなったと思いますので、これまで以上にお気軽に御相談頂ければ幸いです。

「小児から高齢者まで疾患を問わず八代で治療を完治させる」を目標に診療を行ってまいりますので、いつでもお気軽に御相談ください。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
宮本	手術日につき 要相談	宮本 (第1・3・5)	井邊	村上

診療実績

患者数（令和元年度年間患者数）

入院患者数 患者数 3,178人(8.7人/日)
外来患者数 患者数 6,612人(27.6人/日)

手術件数（令和元年度年間実績）

項目	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	55件
経尿道的前立腺切除術	27件
腎(尿管)悪性腫瘍手術	15件
前立腺全摘術	15件
小児手術	15件
停留精巣固定術	6件
精巣捻転手術	7件
その他	2件
尿道狭窄内視鏡手術	5件
前立腺生検	76件
経尿的尿管ステント留置術	19件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)上部尿路	6件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)下部尿路	9件
精巣の手術(除睾術陰のう水腫)	30件

泌尿器科

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 日本泌尿器科学会第197回熊本地方会
日程・会場 平成31年3月、熊本
発表者 井邊有紀、村上道洋、富永成一郎、宮本 豊
題名 HAMに伴う自己導尿施行中に発症した膀胱癌の1例

- **学会名** 日本泌尿器科学会第198回熊本地方会
日程・会場 令和元年9月、熊本
発表者 村上道洋、富永成一郎、宮本 豊
題名 小児精巣捻転症における温存／摘出／温存後摘出の転帰をたどった3例

認定施設 等

- 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設

産婦人科

スタッフ紹介



産婦人科部長
(院長相談役)

東矢 俊光

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構認定医、母体保護法指定医師



第二産婦人科部長

本田 智子

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本生殖医学会・生殖医療専門医、母体保護法指定医師

産婦人科医師

富永 茉莉子

【専門・認定・資格・所属学会】
日本産科婦人科学会

産婦人科の特色

外来診療は月曜日から金曜日の午前中に行っています。手術は子宮筋腫、子宮癌、子宮脱、卵巣腫瘍などに対して開腹手術はもちろん腹腔鏡下手術や腔式手術も行っています。

分娩も自然分娩はもちろん、いろんな合併症妊娠例にも対応しています。

以下に、当科で行っている診療内容のいくつかについてご紹介します。

産科領域：

- 子宮動脈塞栓術：当院放射線科の協力で、産後多量出血例や帝王切開後の多量出血例に応用し、良好な成績を得ています。
- 子宮筋腫合併妊娠や低置胎盤、前置胎盤など分娩時出血量が多くなると予想される妊婦さんに対し、あらかじめ自己血貯血(自分の血液を保存しておくこと)を行うことで、輸血のリスクを回避する対策を行っています。

婦人科領域：

- 腹腔鏡下手術：当科では良性卵巣腫瘍や子宮外妊娠などにも腹腔鏡下手術を積極的に行っています。また子宮筋腫症例に対して、患者負担の軽い、腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術(LAVH)を行っています。もちろん大きな筋腫などは腹式手術を行っています。
- 腔式手術：子宮脱などに対して腔式手術を標準的に行っています。
- 子宮鏡下手術：子宮内膜ポリープや粘膜下筋腫に対して経腔的に子宮鏡下手術を行っています。
- 子宮筋腫などの過多月経の治療として、子宮内膜焼却装置を導入しました。3-4日間の入院で済みます。また月経困難症の治療として子宮内リング(LNG-IUS)も導入しています。
- 挙児希望の患者さんに対して、タイミング療法、排卵誘発剤、人工授精までの不妊治療を行っています。子宮卵管造影や精液検査などの各種検査も行っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
東矢	本田 (新来・妊婦検診)	東矢	富永 (新来・妊婦検診)	本田
富永		本田		富永

診療実績

患者数 (令和元年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 6,592人(18.0人/日)

外来患者数 延べ患者数 8,600人(35.8人/日)

手術実績 (令和元年度年間患者数)

〈婦人科手術〉

症 例	件数
開腹子宮全摘出術	49件
子宮筋腫	35件
子宮腺筋症内膜症など	11件
CIN3	3件
悪性腫瘍 準広汎—広汎	6件
悪性腫瘍AT+BSO、再発など	20件
筋腫核出術	5件
開腹附属器腫瘍手術	12件
腹腔鏡下卵巣手術	36件
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	10件

産婦人科

症 例	件数
開腹子宮外妊娠手術	1件
子宮脱(VTなど)	14件
腔壁形成	1件
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	6件
円錐切除	22件
子宮内膜搔爬術	16件
子宮鏡下手術	15件
その他	4件
帝王切開	64件
選択	29件
緊急	35件
開腹手術(腹腔鏡下手術、VT含む)	224件

〈産科〉

症 例	件数
分娩数(帝王切開 54件含む)	114件

検査実績 (令和元年度実績)

区 分	件数
CT	405件
MRI	282件
子宮卵管造影	14件

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 第57回日本癌治療学会学術集会
日程・会場 令和元年10月、福岡
発表者 東矢俊光
題 名 Four cases of lung cancer detected by chest CT examination after the gynecologic cancer operation
- **学会名** 第232回熊本産科婦人科学会 学術講演会
日程・会場 令和元年11月、熊本市
発表者 吉村早織、本田智子、東矢俊光
題 名 Laparoscopic myomectomy 後に見られた parasitic myoma の1例

論文・著書等

- 日本産科婦人科学会熊本地方部会雑誌、2020; Vol.64: 41-45.
 吉村早織、本田智子、片淵充沙子、東矢俊光
 腹腔鏡下子宮筋腫核出術後に発生した寄生筋腫の一例

認定施設 等

- 日本産科婦人科学会専門研修連携施設

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科部長
増田 聖子

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本耳鼻咽喉科学会指導医、日本気管食道科学会専門医(咽喉系)、日本職業・災害医学会認定労災補償指導医、補聴器適合判定医師、小児慢性特定疾病指定医、日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会理事、日本耳鼻咽喉科学会熊本県補聴器キーパーソン、熊本県障害児審査委員会委員

耳鼻咽喉科医師
高野 若菜

【専門・認定・資格・所属学会】
日本耳鼻咽喉科学会

耳鼻咽喉科医師
植田 寛之

【専門・認定・資格・所属学会】
日本耳鼻咽喉科学会

耳鼻咽喉科の特色

耳鼻咽喉科は令和元年10月に常勤医2名から3名に増員となり、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全般の診断、診療を行っています。

特色

- 一般的な耳鼻咽喉科疾患、手術をガイドラインに基づいて行っています。
- 緊急入院は365日体制で受け入れており、緊急手術症例も全例当院で行っています。
- 頭頸部癌診療を積極的に行っており、年々患者数が増加しています。現在頭頸部癌ガイドラインで推奨されている、一般的な化学療法・分子標的薬レジメンはほぼすべて施行しています。また頭頸部癌手術も積極的に施行しています。終末期医療もできる限り当院で行っています。
- 耳鼻咽喉科の特色である、感覚器障害や機能障害の診療に積極的に取り組んでいます。予約制の特殊外来として、補聴器耳鳴外来、嚥下外来、嗅覚外来、めまい外来を開設しています。社会の高齢化に伴い、感覚器障害や機能障害の患者が急増することが予測されるため、これに対応する外来診療の充実を図っています。
- 診療レベル向上のため、各種講習会、学術講演会にも積極的に参加しています。

診療体制

外来

		月	火	水	木	金
午前	1診	増田	増田	高野	増田	高野
	2診	高野	植田	植田	植田	
午後		補聴器・ 耳鳴外来 (1,3,5週)	手術		補聴器・ 耳鳴外来	手術
		めまい 外来		嚥下外来		

診療実績

患者数 (平成31年1月～令和元年12月実績)

新規入院患者数 患者数 532人
新規外来患者数 患者数 2,062人

手術実績 (平成31年1月～令和元年12月実績)

2019年1月1日～12月31日		件数
耳科手術		49件
	鼓膜チューブ挿入術	45件
	先天性耳瘻管摘出術	3件
	鼓膜形成術	1件
鼻科手術		140件
	内視鏡下鼻・副鼻腔手術	76件
	鼻中隔矯正術	29件
	鼻甲介切除術	34件
	その他鼻科手術	1件
口腔咽喉頭手術		234件
	扁桃摘出術	164件
	舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	8件
	口蓋垂・軟口蓋形成術	1件
	舌・口腔良性腫瘍摘出術	2件
	舌・口腔悪性腫瘍摘出術	2件
	咽頭悪性腫瘍摘出術	3件
	アデノイド切除術	39件
	喉頭微細手術	21件
	誤嚥防止手術	2件

耳鼻咽喉科

2019年1月1日～12月31日	件数
頭頸部手術	63件
頸部郭清術	3件
耳下腺良性腫瘍摘出術	14件
耳下腺悪性腫瘍摘出術	2件
甲状腺良性腫瘍摘出術	4件
甲状腺悪性腫瘍摘出術	15件
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	4件
喉頭悪性腫瘍摘出術	3件
リンパ節生検	2件
頸部嚢胞摘出術	4件
顎下腺摘出術	4件
その他頸部手術	8件
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	24件
気管切開術	17件

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
日程・会場等 令和元年5月、大阪、口演
発表者 草場雄基
共同演者 増田聖子
演題名 当科で1年間に施行したVF症例の検討
- **学会名** 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会学術講演会
日程・会場等 令和元年6月、熊本、口演
発表者 杉 香織
共同演者 草場雄基、増田聖子
演題名 感染性外頸静脈血栓症を伴った扁桃周囲膿瘍の1例
- **学会名** 第43回日本頭頸部癌学会
日程・会場等 令和元年6月、石川、ポスター
発表者 増田聖子
共同演者 草場雄基
演題名 緊急気管切開を要した咽喉頭癌症例の気管口管理について
- **学会名** 第43回日本頭頸部癌学会
日程・会場等 令和元年6月、石川、ポスター
発表者 植田寛之
共同演者 折田頼尚、草場雄基、増田聖子
演題名 甲状腺癌術後のリンパ漏に対し外科的治療・薬物治療・陰圧閉鎖療法を行った1例

- **学会名** 第32回日本口腔・咽頭科学会
日程・会場等 令和元年9月、大分、口演
発表者 草場雄基
共同演者 増田聖子
演題名 当科にて1年間に施行した嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査の検討
- **学会名** 第58回日本鼻科学会
日程・会場等 令和元年10月、東京、ポスター
発表者 増田聖子
共同演者 草場雄基
演題名 眼窩底骨折を契機に鼻性眼窩内感染症をきたした1例

地域活動の実績

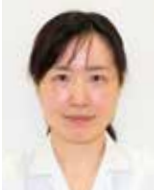
- 熊本県障害児審査委員会委員(H27年度～) 増田聖子
- 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会 学校保健担当委員(H29年度～) 増田聖子
- 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会 医療福祉担当委員(H29年度～) 増田聖子

認定施設 等

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- 日本気管食道科学会専門医研修施設(咽喉系)

眼科

スタッフ紹介



眼科部長
米村 瞳

【専門・認定・資格・所属学会】日本眼科学会

眼科医師
船藏 直史

【専門・認定・資格・所属学会】
日本眼科学会

眼科の特色

平成28年1月より当院眼科の常勤医勤務が再開となり、平成31年4月より2名体制となっています。

月曜～金曜の午前に一般外来診療を行っています。

月曜・木曜の午後は手術、火曜・水曜・金曜の午後はレーザー治療、硝子体内注射、外来で可能な小手術、眼底造影検査、術前検査など特殊検査・処置を主に行っています。

当科では白内障手術を積極的に行っており、眼科常勤医勤務が再開後は白内障手術を増やしているところです。

白内障手術は当院では入院(主に2泊の入院)で行っています。

可能な限り多様な疾患に対応したいと思いますので、まずはお相談ください。今後ともよろしくご願ひ申し上げます。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
米村	米村	米村	米村	米村
船藏	船藏	船藏	船藏	船藏

診療実績

患者数 (令和元年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 268人

外来患者数 延べ患者数 5,258人

平均在院日数 2.1日

手術実績 (令和元年度年間患者数)

区分	件数
白内障手術	116件
外眼手術、外来手術など	60件

認定施設 等

- 日本眼科学会専門医制度研修施設

リハビリテーション科

スタッフ紹介



リハビリテーション科部長
松村 直樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本リハビリテーション医学会
専門医、がんのリハビリテーション研修ワークショップ修了、
日本老年医学会東海支部主催高齢者医療研修会研修修了

脳神経外科医師
(兼リハビリテーション科医師)

吉田 顯正

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳神経外科学会専門医

リハビリテーション科の特色

当科は、リハビリテーション科医師2名、理学療法士15名、作業療法士8名、言語聴覚士4名、診療助手3名でのスタッフで構成されています。

リハビリテーションは様々な疾患や外傷によって生じた障害に対して、その評価と診断のもとに必要・適切な治療を行うものであり、食事、移動、排せつ、更衣、整容などの日常生活動作(ADL)を自立して行い、かつ日常生活関連動作(IADL：買い物、調理、洗濯、掃除など)も快適に遂行でき、介助量を軽減して生活の質(QOL)を高め、復学、復職、家庭復帰していくことを目指します。

当院では、急性期脳血管障害、整形外科疾患、脊髄損傷、各種神経疾患のリハビリは勿論のこと、心臓循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器科疾患等で安静臥床が必要な患者様に生じやすい廃用症候群の予防を目的としたリハビリについても、入院または手術後の早期から取り組んでいます。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
松村	松村	松村	松村	松村

放射線科

スタッフ紹介



放射線科部長
(医療情報部長)
荒木 裕至

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、臨床研修指導医養成講習会修了



第二放射線科部長
福岡 博文

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本IVR学会



第三放射線科部長
中村 信一

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本IVR学会

放射線科医師
内村 竜太郎

【専門・認定・資格・所属学会】
日本医学放射線学会

放射線科の特色

現在の医療においては、的確な診断を行うために画像診断は必要不可欠な手段であり、熊本労災病院では放射線科常勤医4名で業務にあたっています。また日本放射線科学会が定める放射線科専門医修練機関に認定されており、後進の放射線科医や臨床研修医の指導に力を注いでいます。

平成28年4月以来、既存の3.0T MRI装置に加え、1.5T MRI装置を導入し、予約待ち日の大幅短縮および検査のニーズに合わせたMR画像の提供ができる体制となりました。

また、平成29年1月より熊本県初導入の2管球CTが稼動しています。国内でも最高峰レベルの

CT装置ですので、熊本県南地区をはじめ医療圏のニーズに応えられるような画像提供を、更には研究部門でもその力を発揮すると期待しています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
荒木	中村	福岡	荒木	荒木
	放射線 治療外来 村上龍次 医師		IVR外来 田村吉高 医師	

診療実績

検査実績 (令和元年度年間実績)

区分	件数
CT 検査	16,617件
MRI 検査	5,859件
RI 検査	366件
(その他) 大動脈ステントグラフトなど、高度先進的な医療(特殊)な手術・検査を実施。	

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名** 第78回日本医学放射線学会総会
日程・会場 平成31年4月13日、パシフィコ横浜
発表者 中村信一
題名 Feasibility of detecting bone marrow edema during visual and quantitative analyses of vertebral compression fractures by dual energy CT in patients aged less than 50 years
- 学会名** 熊本メディカルイメージング研究会
日程・会場 平成31年4月23日、熊本市
発表者 中村信一
題名 腎・尿路外傷の診断
- 学会名** 八代消化器カンファレンス
日程・会場 令和元年5月23日、八代市
発表者 福岡博文
演題 肝癌のカテーテル治療における側孔付マイクロバルーンカテーテル“Logos Switch”の使用経験

放射線科

- **学会名** 熊本メディカルイメージング研究会
日程・会場等 令和元年6月25日、熊本市
発表者 福岡博文
演題 肝臓のカテーテル治療における側孔付マイクロバルーンカテーテル“Logos Switch”の使用経験
- **学会名** 熊本大学医学部放射線医学教室 開講72周年記念講演会
日程・会場等 令和元年7月13日、熊本市
発表者 中村信一(座長)
題名 一般演題 I
- **学会名** 第189回日本医学放射線学会九州地方会
日程・会場等 令和元年7月6日、福岡県 北九州市
発表者 内村竜太郎、中村信一、福岡博文、荒木裕至、西村朗甫、本田智子、東矢俊光、栗脇一三
題名 診断に難渋した卵巣繊維腫茎捻転の一例
- **学会名** 熊本メディカルイメージング研究会
日程・会場等 令和元年9月24日、熊本市
発表者 佐々木涼介、中村信一
題名 術前に診断可能であった卵管単独捻転の1例
- **学会名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和元年10月29日、熊本市
発表者 高木 寛、中村信一
題名 嵌頓子宮を伴った子宮筋腫合併妊娠の一例
- **学会名** 肥後放射線カンファレンス
日程・会場等 令和元年11月12日、熊本市
発表者 吉積華子、福岡博文
題名 石灰沈着性頸長筋腱炎の一例
- **学会名** 第11回熊本労災イメージングカンファレンス
日程・会場等 令和元年11月14日、熊本労災病院
発表者 中村信一
題名 CT・MRIにおける偶発所見について
発表者 荒木裕至
題名 画像診断報告書未読に対する当院の取り組み
- **学会名** 熊本メディカルイメージング研究会
日程・会場等 令和2年1月28日、熊本市
発表者 大橋 聡、中村信一
題名 造影CTにおける小腸部の濃染像を契機として Meckel 憩室の診断に至った一例

研究会の開催

主催

- 第11回熊本労災イメージングカンファレンス
令和元年11月14日、熊本労災病院

論文・著書、編集・監修

- **著書名** 知っておきたい泌尿器のCT・MRI P476-193
発表年月 平成31年4月
著者名 中村信一
題名 第17章 腎・尿路外傷

認定施設等

- 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設

麻酔科

スタッフ紹介



麻酔部長
(集中治療部長)
山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会認定医・専門医、麻酔科標榜医、日本臨床麻酔学会



第二麻酔科部長
(中央手術部長)
小野田 昌弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会認定医・専門医、麻酔科標榜医

麻酔科副部長
吉田 拓二

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会認定医・専門医、麻酔科標榜医

麻酔科医師
石原 旭

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会認定医、日本臨床麻酔科学会認定医、日本救急医学会認定医、JATECプロバイダーコース修了、麻酔科標榜医

麻酔科医師
植村 友美子

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会、日本心臓血管麻酔学会、麻酔科標榜医

麻酔科医師
篠塚 大

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会認定医

麻酔科の特色

常勤医6名に加えて週1回、熊本大学麻酔科より非常勤医の応援を頂きながら手術麻酔、集中治療に携わっています。術前に麻酔科外来にて直接診察を行い、検査結果などから問題点を拾い上げ、それぞれの患者さまが安全に手術を受けられるよう、最適な麻酔方法を選択します。患者さまへの麻酔説明もこのときに行いますが、少しでも手術への不安を和らげられるよう心がけており、質問などもお受けしています。術中の麻酔についてですが、麻酔の種類には全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔(腰椎麻酔、下半身麻酔)、局所麻酔などがあります。当院では局所麻酔以外の手術の麻酔はすべて麻酔科医によって施行されます。

術後は麻酔状態からの回復を待って、痛みや吐き気、その他患者さまの全身状態を評価して病棟に戻るためのチェックを行います。手術部位の痛みに対しては硬膜外麻酔、神経ブロック、麻薬の持続注射などでコントロールを行い、麻酔関連の合併症がなかったかどうかの診察も術後数日の間に行っています。

また、地域救急医療との連携も当院にとっては不可欠です。八代地域の救急隊員、救急救命士の養成、技術の向上、知識維持のための定期的な研修にも積極的に協力しています。

診療実績

診療実績 (令和元年度)

症例	件数
手術室における手術件数 (局所麻酔症例含む)	3,294件
麻酔科管理症例数	2,867件
全身麻酔	2,364件
6歳未満の小児症例	95件

認定施設 等

- 日本麻酔科学会認定施設

病理診断科

スタッフ紹介



病理診断科部長
(検査科部長)
栗脇 一三

【専門・認定・資格・所属学会】日本病理学会認定病理専門医、日本病理学会専門医研修指導医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、厚生労働省認定死体解剖資格

病理診断科の特色

病理診断科では、当院の理念である良質で信頼される医療に貢献するために、診療で提出される患者さんから採取された組織検体や細胞診検体を用いて、病理診断を行っています。

全身の組織(頭頸部、食道、胃、十二指腸、大腸など消化管、肺、肝臓、胆嚢、胆管、脾、卵巣、子宮体部、子宮頸部、膀胱、腎臓、前立腺、皮膚、骨など)の生検や手術標本の診断を行っています。また、細胞診標本(胸水、腹水、肺、脾、胆汁、子宮頸部・体部、甲状腺、乳腺、リンパ節)など多彩な穿刺吸引細胞診診断を行っています。これらの診断により、患者さんの手術や化学療法の治療方針の決定がなされることとなります。組織検体から免疫染色や遺伝子解析から、化学療法の選択に寄与する情報の提供も行われています。

術中迅速組織診断により、手術中に断端やリンパ節における癌の有無、腫瘍の良悪の判定を行っています。また胸水、腹水、洗浄液における術中迅速細胞診も行っています。

当院で不幸にして亡くなられた患者さんに対して、病理解剖が行なわれることがあります。病理解剖により、最終的な死因や、生前の臨床診断の確認、病変の広がりや治療効果の判定、時に予想していない病変が見出されることもあり、診断治療の検証の機会となっています。

診療実績

診断等件数

	H29年度	H30年度	R1年度
組織診断	2,793件	3,282件	3,719件
術中迅速診断	93件	106件	124件
細胞診断	3,182件	3,574件	3,333件

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 第51回熊本県医学検査学会病理部門
日程・会場等 令和元年5月、水俣市
座長 井上博幸

認定施設等

- 日本病理学会研修認定施設
- 日本臨床細胞学会認定施設

初期臨床研修医

研修理念

当院は、多診療科を有する地域の中核病院として、救急医療、がん治療、小児周産期医療など豊富で幅広い症例を背景に、初期研修医に対して、チーム医療の中で、医療の基礎知識、総合的診断能力や基礎的医療技術の修得を目指した研修を実施しています。当院での研修を通して、医師としての社会的使命を認識し、生命に関わる倫理の向上や人格の涵養を図り、どこでもどのような立場でも活躍できる能力を備えた医師の基礎を形作ります。

研修医の自主性が尊重される研修システムであり、積極性のある研修医は臨床経験も豊富となり、大きな伸びが期待できます。

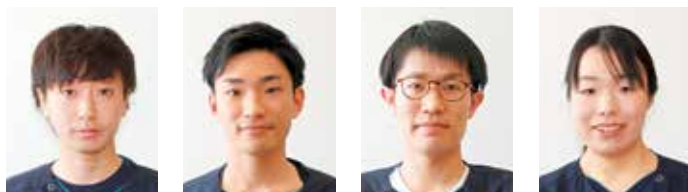
研修プログラムの特徴

内科においては、総合内科として6ヶ月の研修をまず行い、その後希望に応じた多彩で柔軟なプログラムを用意します。今後必須となる、内科での外来初診、救急専属研修もその体制を整えています。

研修医は一学年10名前後と少数であり、指導医がマンツーマンできめ細かく対応しています。経験症例は、カンファレンスや医局会で発表し、1年目から学会（地方、全国）発表も行っています。また、研修期間内で論文（英文和文）の投稿までも指導しており、実績もあります。

その他、労災病院の特色として、勤労者医療・産業医活動、職業別疾病医療も研修が可能です。

基幹型 2年次(平成31年度採用)



坂本 恭平 大橋 聡 田中 祥平 蓑田 美喜子

基幹型 1年次(令和2年度採用)



三淵 静香 山本 宗太郎 秋原 健人 生田 純基 島本 祐希 末竹 美優 吉田 龍也

協力型 2年次



平尾 佳奈 堀田 幸里 松山 結衣

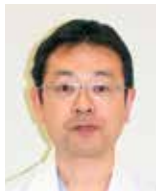
協力型 1年次



川崎 瞳

中央手術部

スタッフ紹介



中央手術部長
(第二麻酔科部長)
小野田 昌弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会認定医・専門医、麻酔科標榜医

手術室師長
松本 春美

臨床工学部長
植田 公昭

麻酔科常勤医師	5名
非常勤	1名
看護師	21名
看護助手	2名
臨床工学技士	4名
医師事務	1名
	計37名

○手術室数：8室(うち1室バイオクリーンルーム)

中央手術部の特色

外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、整形外科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、眼科、消化器内科の手術を行っています。

予定手術だけでなく緊急手術を数多く受け入れており、休日・夜間は麻酔科医1、2名と看護師2、3名のオンコール体制で24時間の緊急手術に備えています。

看護師の取り組み

- 術前訪問：外来で、もしくは病室を訪問し入室してから退室前までの流れを説明し、患者さんの不安を少しでも和らげられるよう取り組んでいます。
- 術後訪問：術後患者さんを訪問し、術中の良肢位保持や安全確保のためのフィードバックにつなげ、より良い看護が行えるよう取り組んでいます。
- 安全対策：医療事故防止のために、手術全例でマーキング・タイムアウトを実施し、患者確認・手術部位確認の徹底を行っています。

診療実績

手術実績

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
手術 件数	3,025件	3,003件	3,115件	3,277件	3,205件
緊急 手術	537件	499件	373件	495件	645件

手術が円滑に行えるよう各診療科・部門と協力を
行いチーム医療に努めるとともに、患者様が安全・
安心に手術を受けられるよう努力して参ります。

救急部

スタッフ紹介



救急・災害診療部長
(一般外科部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)

外来看護師長

和田 千春

外来看護師長補佐	2名
看護師	8名
看護助手	1名
医師事務作業補助	1名

救急部の特色

熊本労災病院は、開院以来、八代医療圏のみならず県南地域の二次救急医療の拠点病院として急性期医療を担ってまいりました。八代を中心に、水俣・葦北、人吉・球磨、宇城などの周辺医療圏より、年間およそ3,500台から4,000台もの救急車を受入れ入れているほか、ヘリポートの設置以降は、天草医療圏や熊本医療圏など、より遠方の医療圏からの救急患者についても、積極的に受入れを行なっています。そのため、熊本労災病院救急部の開設は、これまで着任いただいた歴代院長の悲願ともいえるべき懸案事項でありましたが、ようやく熊本労災病院救急部が発足しました。

熊本労災病院救急部の特徴は、日勤帯/夜間帯あるいは平日/休日を問わず、24時間、365日、内科系および外科系の当番医師をそれぞれ配置していることにあります。これにより迅速かつ適切な受入れ、初期診療が可能で、全診療科の各専門医の医療的介入へ円滑につなげることが可能となっています。

また当救急部は、いわゆる“持ち寄り型”ともいえますが、疾患によっては、各科専門医が、より迅速に

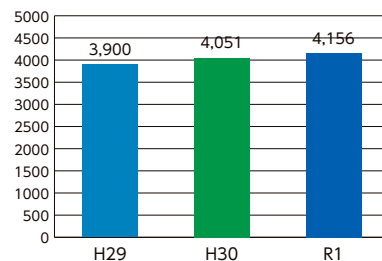
介入できる利点があります。とりわけ高エネルギー外傷などの重症外傷については、外科、整形外科、脳神経外科が連携して対応しているほか、小児科、産婦人科に積極的に参画してもらうことで、熊本県小児初期救急医療病院、熊本県産科中核病院としての機能を果たしています。

そのほか、当救急部としては、八代救急隊との病院滞在型救急ワークステーションや、院内職員や救急隊のほか、保健所、開業医の先生方にもご参加いただく救急症例検討会などをとおして、救急隊はもとより、圏内の救急医療に関わる諸先生方とのパートナーシップをより深化してまいります。救急専門医指揮下の独立した救急チームや専用入院病床の整備など、未完成な点多々ありますが、従前の体制による機動的な運用でカバーしつつ、今後の継続的進化を目指したいと思っております。

最後に、あらためて熊本労災病院救急部の発足をお知らせするとともに、“全ては、救急患者さまのため”、全身全霊を込めて、県南地域の急性期医療を支えてまいりますので、今後ともよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

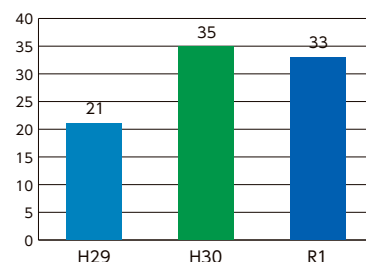
救急車搬送件数の推移

救急車搬送件数



救急ヘリ搬送件数の推移

救急ヘリ搬送件数



DMAT

スタッフ紹介



(統括DMAT)
救急・災害診療部長
(一般外科部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)



第二脊椎外科部長
武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、臨床研修指導医、JATECインストラクター、日本DMAT隊員

整形外科医師

片山 修浩

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会、日本DMAT隊員

看護師

看護師長補佐

岩本 真奈美

看護師長補佐

橋本 直紀

看護師

稲田 聡美

看護師

中倉 智樹

看護師

三浦 由美子

看護師

椀本 里奈

【専門・認定・資格・所属学会】日本DMAT隊員

業務調整員

主任理学療法士

長田 政和

医療ソーシャルワーカー
(社会福祉士)

椀谷 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本DMAT隊員

DMATの特色

熊本労災病院は、熊本県地域災害拠点病院に指定されており、DMAT指定医療機関でもあります。DMAT(Disaster Medical Assistance Team)とは、災害時医療派遣チームの一つで、その発端は、1995年に発生した阪神・淡路大震災に遡ります。阪神・淡路大震災においては、500人以上の防ぎ得たであろう災害死があったと推定されています。その背景には、①発災直後から介入できる機動性をもった医療チームがなかったこと、②災害時に診療拠点となる医療機関がなかったこと、③被災地域から非被災地域への患者搬送のシステムがなかったこと、そして④災害時における医療機関の情報を共有するツールがなかったこと、などがあったとされ、我が国の大規模災害への対応の脆弱性が露呈した出来事となりました。これを契機に、①DMATの養成、②災害拠点病院の整備、③広域搬送システムの構築、④EMIS(広域災害緊急医療情報システム; Emergency medical information system)の整備が進められました。

近年、地震災害や豪雨水害などが、毎年のように日本各地で発生し、その規模も広域化、甚大化しています。熊本県も例外でなく、記憶に新しいところでは、熊本地震、九州北部豪雨災害、そして令和2年7月豪雨災害などの大規模災害を経験することとなりました。特に、令和2年7月豪雨災害では、熊本県地域災害拠点病院である当院に、県南地域保健医療調整本部が設置され、球磨川流域をはじめ、甚大な被害を受けた県南地域の豪雨災害に対応することとなりました。このとき受け入れたDMATは、熊本県内のみならず、九州・沖縄、近畿、東海、四国ブロックなど広域に及び、のべ60隊を数えました。またその活動は、病院はもとより、診療所、介護施設、避難所など多岐にわたり、EMIS(広域災害緊急医療情報システムEmergency medical information system)上でのモニタリングに始まり、医療施設と入院患者、介護施設と入居者の安否確認、避難所スクリーニングなどに奔走しました。また被災医療機関に対しては、資機材の提供のほか、入院患者様の転院・受け入れ調整、病院避難などの支援を行いました。

私たち熊本労災病院DMATは、こうした県内有事のみならず、今後起こりうると思われる首都直下型

DMAT

地震や南海トラフ地震など、国家的規模の大災害などに対応すべく、訓練、技能維持に努め、活動してまいります。



訓練参加時



令和2年7月豪雨

医療安全管理室

スタッフ紹介



副院長
医療安全管理室長
医療安全総括責任者
(消化器内科部長)
佐々木 雅人



医療安全管理者
(看護師長)
西村 みどり

構成員

医療安全対策委員会
副委員長
(小児外科部長)

大矢 雄希

糖尿病・代謝内科部長

金子 健吾

脊椎外科部長

川添 泰弘

医薬品安全管理者
(薬剤部長)

谷口 一成

医療機器安全管理者
(臨床工学部長)

植田 公昭

事務局次長

草野 克至

医事課長

松元 祐至

概要

今日の医療現場では、さまざまな職種の医療従事者がチーム一丸となって協働し、発展する医療技術・機器・機材や医薬品を駆使して、高齢化・重症化が進む患者様に医療を提供しています。

安全な医療の提供は、医療の基本となるものであり、医療の質に関わる重大な課題であり、そのためには、熊本労災病院及び職員個人が、医療安全の必要性・重要性を施設および自分自身の課題と認識し、医療安全管理体制の確立を図り、安全な医療の遂行を徹底することが最も重要です。

医療事故を防止するためには「人間はエラーを犯すものである」ということを前提として、スタッフ

及びシステムによるエラーのチェック機能を強化していくことが重要です。そのために、医療事故やインシデント事例の情報収集を恒常的に行うとともに、その発生状況・原因分析及び対策策の検討を行い組織横断的に取り組むチーム医療をめざして活動しています。

業務内容の特徴と実績

医療安全に対する目標、活動計画を企画し、インシデントレポート、医療事故報告の整理と対処についての検討を行っています。

また、重要事例に関しては、病院長、医療安全管理室長、医療安全管理者が相互に連絡をとり対処し、過失が考えられる重篤な事例に関しては医療安全緊急対策会議にて、対応について検討します。

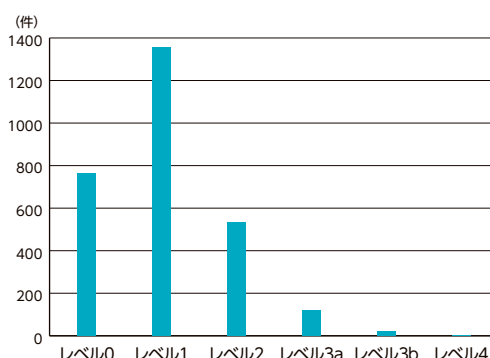
職員の意識向上を図り、本院における医療安全の確保を目的として、医療安全対策委員会下部組織であるリスクマネジメント会議メンバーによる院内ラウンドを実施しました。

また、院内医療安全対策研修会へ参加できない職員のために、e-learningによる追加研修を実施し、学習できる機会を提供しました。

院内での新規採用者、中途採用者へのオリエンテーション、院外での医療安全に関わる研修や講演、労働者健康安全機構の医療安全研修会の受講および地域連携、労災病院間医療安全相互チェックなどを行っています。

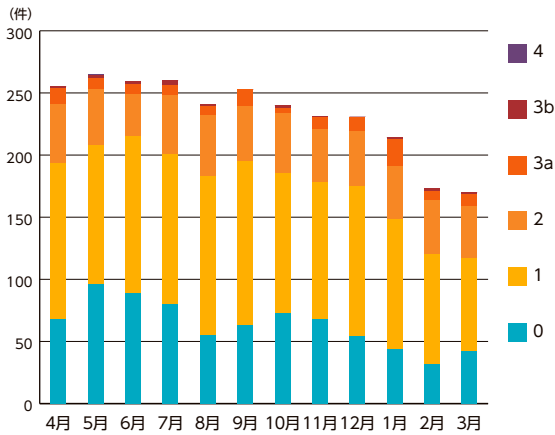
院内での研修活動としては、院外講師を招いての講演会や関連部署の講師による講演会を開催しています。

令和元年度 レベル別報告件数

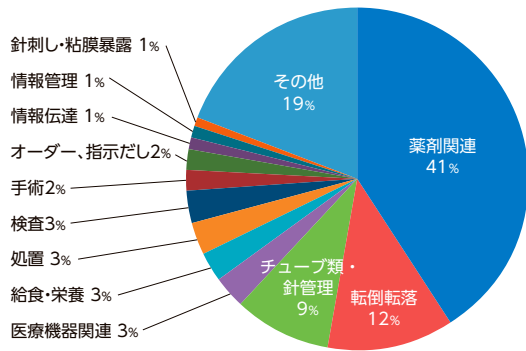


医療安全管理室

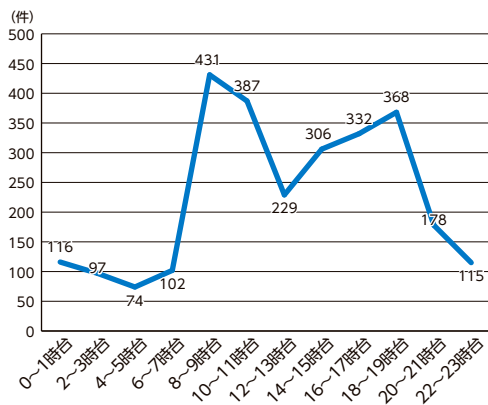
■ 月別レベル別報告件数



■ 令和元年度 医療事故報告表題別件数



■ 令和元年度 発生時間別件数



医療安全講演会及び研修会

- 令和元年7月12日
院内医療安全対策研修会(全職員対象)
「医療機関における虐待対応と多機関連携
～気づけますか?親子からのSOS～」
講師 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター
小児アレルギー科医長 育児支援対策室長
木下あゆみ先生
- 令和2年2月6日
院内医療安全対策研修会(全職員対象)
現場実践に活かす「臨床倫理」の考え方
講師 宮崎大学大学院医学部 社会医学講座
生命医療倫理学分野教授
宮崎大学附属病院 臨床倫理部部长
板井孝彦先生
- 令和元年6月6日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」(研修医他対象)
講師 麻酔科部長 橋本正博
- 令和元年11月19日
「安全な中心静脈挿入とシステムづくり」
講師 移植外科部長 林田信太郎
- 令和2年3月4日
「アナフィラキシーとその対応について」
講師 第二糖尿病・代謝内科部長 岩下晋輔
- 令和2年3月16日
「医療ガス研修」
麻酔科部長 橋本正博、吉住酸素、日本エアリキード
*その他、全職員BLS研修、新人看護師研修、研修医対象研修など

医療安全推進週間

- 令和元年11月24日～30日
テーマ「患者・地域住民との情報共有と患者・地域住民の主体的参加の促進」
 - 医療安全ポスター掲示
 - 院内安全ラウンド
 - 手洗いチェック
 - システム改善ポスター発表
 - 転倒防止ビデオ放映
 - 嚥下食、乳がんモデル展示

感染制御部

スタッフ紹介



感染制御部長
(第二呼吸器内科部長)
安道 誠

【認定・資格】インフェクションコントロールドクター

感染管理認定看護師

和久田 容子

感染対策チームスタッフ

小児外科部長

大矢 雄希

【認定・資格】インフェクシ
ョンコントロールドクター

呼吸器内科医師

藤田 良佑

【認定・資格】インフェクシ
ョンコントロールドクター

主任薬剤師

丸山 久美子

【認定・資格】感染制御専門
薬剤師、抗菌化学療法認定
薬剤師

主任臨床検査技師

森口 美琴

【認定・資格】感染制御認定
臨床微生物検査技師

臨床検査技師

浜島 智央

【認定・資格】感染制御認定
臨床微生物検査技師

感染制御部の特色

感染制御部は院内感染対策を円滑に行うための院長直属の組織として2007年に設立されました。病院内における感染対策の充実のみではなく、地域の医療機関や福祉施設等との連携、支援を行うことで、地域における感染対策の質および意識の向上にも努めることを目的としています。

感染制御部では、下部組織である感染対策チームと協働し下記の業務を行っています。

- 院内感染発生状況、耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況の把握、分析および院内への情報提供。
- 院内感染対策マニュアルの作成および改訂に関すること。
- 院内感染対策の実施状況の把握および対策の評価と改善。
- アウトブレイク発生に係ること。

- 職業感染(血液体液曝露、ウイルス性疾患、結核等)の対策に係ること。
- 感染症および院内感染対策に係るコンサルテーション業務および教育。
- その他、院内感染対策に係ること。
- 連携施設、地域の医療機関および介護施設等からの感染対策に係るコンサルテーション業務および支援。
- 地域における感染対策に係る研修会の開催。

院内における活動内容

(1)院内感染対策委員会

部長が委員長をつとめ、ICTより耐性菌の検出状況および指定抗菌薬の使用状況等の報告を行い、病院における感染対策の方針等に関する検討を行っています。

(2)ICTミーティング、院内ラウンド

週1回、院内感染対策に係ることについて会議を行い、病院内のラウンドを行うとともに、耐性菌検出者およびCDIの患者に対する感染対策実施状況の確認を行っています。耐性菌等の集積が認められた場合には、遺伝子検査による確認を行い必要時に介入しています。

- 令和元年度ICTラウンド対象患者
 - MRSA：135件
 - ESBL産生菌：72件
 - その他の耐性菌：48件
 - CDI：32件
- 遺伝子検査(POT法)事例
MRSA：13件、緑膿菌：27件

(3)サーベイランスの実施

- 厚生労働省院感染対策サーベイランスの登録(検査部門、SSI部門、全入院患者部門)
- 耐性菌サーベイランス
- 手術部位感染(SSI)サーベイランス(外科)
- 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス
- 中心静脈カテーテル関連サーベイランス(ICU)
- 手指消毒剤使用量調査

(4)抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動

広域抗菌薬(MEPM、DRPM、LVFX注、CZOP、TAZ/PIPC)や抗MRSA薬(VCM、DAP、TEIC、TZD、MUP)の届出制、LZDの許可制を導入し、使用状況の確認および薬剤部によるTDMを実施し、適正な抗菌薬の使用ができるよう必要時フィードバックを行っており、2018年度よりASTを組織し活動を開始しました。

感染制御部

- 令和元年度 AST介入実績
 - 血液培養陽性者：195件
 - 指定抗菌薬の使用が7日間を超えた患者：180件
 - 介入が必要と考えられた患者：0件

(5) 職業感染対策

事務部門の支援のもと、新入職者の抗体価(麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、HBVなど)検査および必要時のワクチン接種、インフルエンザ流行前のインフルエンザワクチンの接種を行っています。また、針刺しなどの血液体液曝露が発生した際の対応支援および報告書の管理、発生状況の分析等を行っています。

その他、院内での流行性疾患の曝露事例が発生した場合、接触者を把握し、経過のフォローを行っています。

- 令和元年度 血液・体液曝露発生数
針刺し・切創：12件、粘膜曝露：3件
- ワクチン接種
HBV：18名、流行性ウイルス性疾患：31名
- 結核
 - 令和元年度 結核曝露発生数
外来：0件、病棟：0件
 - 曝露に関連した職員の検査
T-SPOT検査：1名、胸部単純X線検査：5名

(6) 教育・啓発

【教育】

- 入職者オリエンテーション
- 院内感染対策研修会の企画・開催
 - 令和元年6月5日
「手指衛生と手袋の着脱のタイミング」
「抗菌薬適正使用支援チームの活動について」
 - 令和元年12月18日
「インフルエンザアウトブレイクを阻止しよう」
「抗菌薬適正使用支援チームの活動報告について」

【啓発・広報】

- 院内感染対策菌 週報の発行
- 院内誌(ばんべいゆ)における「Infection Control Team だより」の掲載
- 医療安全推進週間におけるイベント(外来ホールにおける手洗いチェック)

(7) コンサルテーション

感染症診療および感染対策に関するコンサルテ-

ーションを行っています。

(8) アウトブレイク等の対応

令和元年度におけるアウトブレイク事例
0件

(9) 感染防止対策加算に係るカンファレンスおよび相互チェックの実施

- カンファレンス
連携病院：八代北部地域医療センター
 - 令和元年5月20日
平成30年度集計報告
 - 令和元年10月7日
環境整備について
 - 令和元年12月9日
ICTラウンドレポートの記載およびラウンド方法について
 - 令和2年3月9日
新型コロナウイルス感染症について
- 相互チェック
連携病院：国保水俣市立総合医療センター、済生会熊本病院
訪問 国保水俣市立総合医療センター(令和元年9月25日)
受審 済生会熊本病院(令和元年9月6日)

地域活動の実績

地域における活動

- 熊本県感染管理ネットワーク
- 熊本臨床微生物ネットワーク(KCMN)

院外における講演会等

- 看護協会八代支部 看護職員再就業支援研修
- 八代保健所 感染症・結核研修会
- 医療・介護施設における研修会：5施設

学会・講演会発表等

- 学会名 第35回 日本環境感染学会(口演)
日程・会場等 令和2年2月・横浜
発表者 和久田容子
演題名 結腸手術における手術部位感染サーベイランスの結果とリスク因子の検討

研究活動

- 研究名 「季節性インフルエンザのウイルス排出量をもとにした院内での隔離期間についての検討」
主任研究者 安道 誠

地域医療連携部

スタッフ紹介



副院長
地域医療連携部長
(循環器内科部長)
松村 敏幸

副部長(第二消化器内科部長)

瀬戸山 博子

スタッフ

- 地域医療連携室

地域医療連携室係長	1名
MSW	4名
退院調整看護師	3名
事務職	2名
- 入退院支援センター

入院支援看護師	3名
---------	----

地域医療連携室の特色

地域医療連携室では、地域医療機関(患者様の転院受入調整及び紹介患者様の問い合わせ等)、市町村行政機関、介護保険機関(在宅事業所および施設等との調整)と幅広く各分野との連携業務を行っており、常に患者様のサポートとして関わることをご心掛けています。

また、外来・入院患者様に対しての相談業務も併せて行っており、各諸法制度に対する手続き及び相談、各種障害に関する相談、生活支援・行政サービスに関する相談などにも携わっています。他の医療機関との更なる連携強化を図り、患者様に良質の医療が提供できるよう努力してまいります。

平成29年4月から、熊本産業保健総合支援センターと連携して、がん等で治療されている方からの相談対応を行うため、地域医療連携室に「両立支援相談窓口」を開設しています。

入退院支援センターは、平成31年4月より開設し、入院前の患者様に対し多方面からの評価、説明を行い、必要に応じて多職種と連携をとりながら患者様の支援を行っています。

業務体制

地域医療連携室は、医師2名(兼任)、看護師3名、MSW4名、事務職3名(1名兼任)の12名、入退院支援センターは、看護師3名体制です。

ここでは、患者様の紹介・逆紹介の手続きを行っています。また、入院患者様の入院から退院するまでのサポートを実施しています。

また、隣接するがん相談支援センターの専任看護師と共に、地域の医療機関とがんに関する情報を共有して、より緊密な連携を図り、地域がん診療の向上をめざしていきます。

「両立支援相談窓口」では、がん等の病気になってしまった時、仕事を休めないといった理由で十分な治療ができなかったり、病気の治療を理由に仕事を辞めてしまったりすることがあります。当院では、休業からの職場復帰や治療と仕事の両立をサポートすることを目的として、平成29年4月から「治療就労両立支援部」を設置し、専門の「両立支援コーディネーター」が支援を行っています。

診療実績

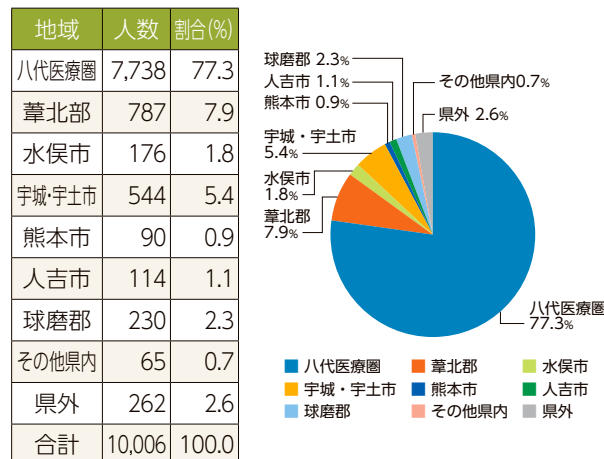
相談・支援件数

令和元年度	退院相談	1,810件
	在宅療養支援(外来)	755件

紹介率・逆紹介率

	平成30年度	令和元年度
紹介率	78.8%	80.1%
逆紹介率	81.3%	86.1%

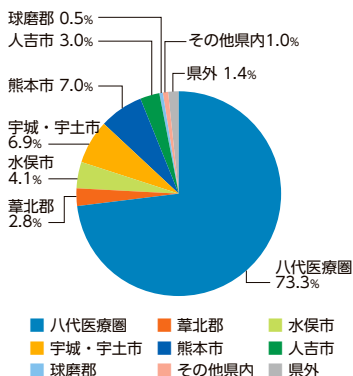
入院患者の居住地別調(令和元年度)



地域医療連携部

入院患者の転院先地域別調(令和元年度)

地域	人数	割合(%)
八代医療圏	990	73.3
葦北部	38	2.8
水俣市	56	4.1
宇城・宇土市	93	6.9
熊本市	94	7.0
人吉市	40	3.0
球磨郡	7	0.5
その他県内	13	1.0
県外	19	1.4
合計	1,350	100.0



両立支援相談窓口相談件数等実績(令和元年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規患者数	6	6	4	3	3	3	2	4	4	2	3	3	43
面談数	7	8	11	7	9	16	9	11	12	14	7	9	120

地域医療連携の会の開催

地域医療連携の会は2部制になっており、1部では当院医師の専門分野の講演を行い、2部では懇親会を開催して地域の開業医等の先生方との意見交換を行っています。

■ 平成30年度

日時 平成30年6月22日(金)
場所 セレクトロイアル八代
出席者数 221名

■ 令和元年度

日時 令和元年6月21日(金)
場所 セレクトロイアル八代
出席者数 191名

地域医療支援病院運営委員会の開催

年4回外部委員の出席の下、地域医療連携の実績報告と外部委員の提言をお聞きし、地域医療支援病院としての運営に関する意見交換をおこなっています。

■ 委員会名 第1回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和元年5月20日(月)
場所 中央診療棟5階会議室
出席者数 外部委員 6名
当院委員 7名
事務局 3名
看護部 1名

■ 委員会名 第2回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和元年8月27日(火)
場所 中央診療棟5階会議室
出席者数 外部委員 6名
当院委員 6名
事務局 5名
看護部 1名

■ 委員会名 第3回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和元年11月18日(月)
場所 中央診療棟5階会議室
出席者数 外部委員 6名
当院委員 5名
事務局 5名
看護部 1名

■ 委員会名 第4回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和2年2月20日(木)
場所 中央診療棟5階会議室
出席者数 外部委員 6名
当院委員 5名
事務局 4名
看護部 1名

看護部

スタッフ紹介



看護部長
葉玉 博子

看護副部長
守田 尚美

看護副部長
河野 一美

スタッフ

看護師長 11名
 看護師長補佐 14名
 看護師 361名
 准看護師 5名
 看護助手27名、ワーカー3名、クラーク33名
 (令和2年4月1日現在)

看護部理念

病院理念と職業倫理に基づき患者さまに寄り添い満足して頂ける看護を提供します。

令和元年度目標

- 看護の質向上
- 病院組織運営への貢献
- 看護職として主体的な自己成長
- 病院機能評価受審への取り組み

病院BSCに則り、4つの看護目標を掲げ活動へ取り組みました。「看護の質向上」としてはクリニカルパスの作成と活用の推進、院内褥瘡発生率の減少、部署に於ける倫理カンファレンスの実施、ヒヤリハット事例報告の推進を行いました。「病院組織運営への貢献」としては、一日の入院患者数360名以上を目標に病床の効率的運用を図りました。「看護職としての主体的な自己成長」では、目標管理面接を通してキャリアラダーへのチャレンジを推進し、自己成長を支援しています。「病院機能評価受審への取り組み」では、全部署が一丸となってマニュアルや環境の整備に取り組み、一定の評価を得ることができました。

管理・運営

看護部職員配置 (令和2年4月1日現在)

看護部管理室	看護部長	1名
	看護副部長	1名
	看護副部長(兼看護師長)	1名
	医療安全管理者(看護師長)	1名
	リソースセンター(看護師長補佐)	1名
	リソースセンター(看護師)	5名
	地域医療連携室(看護師長補佐)	1名
	地域医療連携室(看護師)	5名
病棟部門	看護部(看護補助者)	1名
	看護師長	8名
	看護師長補佐	9名
	看護師	277名
	准看護師	1名
	看護助手	23名
	ワーカー	3名
外来部門	病棟クラーク	8名
	看護師長	1名
	看護師長補佐	2名
	看護師	53名
	准看護師	4名
	看護助手	1名
手術部門	外来クラーク	25名
	手術室(中央材料室兼務)看護師長	1名
	手術室看護師長補佐	1名
	手術室看護師	21名
	手術室看護助手	2名

看護体制

- 7：1看護(平成21年5月1日～)
- 夜間勤務等看護加算取得
- 3交替制(病棟、ICU)
2交替制(救急外来)
待機制(手術室)

看護部

各種会議・委員会・ワーキンググループ

各種会議・委員会・WG	開催頻度
看護師長会議	月2回
看護師長補佐会議	月1回
教育委員会	月1回
看護研究委員会	月1回
看護記録委員会	月1回
認定看護師会	年5回
看護業務基準・手順委員会	偶数月1回
安全対策委員会	月1回
感染対策委員会	月1回
患者サービス委員会	奇数月1回
NST・褥瘡対策委員会	月1回
リスクマネジメント会議	月1回
倫理委員会	月1回
クリニカルパス委員会	月1回
薬剤部懇談会	2か月に1回
検査科懇談会	2か月に1回
放射線科懇談会	2か月に1回
リハビリ科懇談会	2か月に1回
栄養管理室懇談会	2か月に1回
事務懇談会	2か月に1回

各種会議(主な会議)

- 師長会議
看護部門の最高決定機関として、看護部内の管理・運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡・調整・協議します。
- 師長補佐会議
看護部門の第一線の現場に関する管理、運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡、調整、協議します。

各種委員会(主な委員会活動について記載)

- 教育委員会
継続教育を充実させることにより看護職員のキャリアアップを支援し、看護の質向上を図るための教育プログラムの企画、運営を行いました。内容は、新人研修、役割別研修、勤労者看護研修、倫理研修を行い、認定看護師研修による専門コースを開催し、地域の看護職の学びの場としました。令和元年度は、14名の新人看護職員を迎え、厚生労働省の指針に沿って新人看護師研修を実施しました。各部署に教育担当者や実地指導者を配置し、Off-JTと現場のOJTをリンクし指導を行いました。また、他施設の新人看護師延べ62名を受け

入れました。

- 認定看護師会
各領域の認定看護師による専門コース研修を開催し地域の医療施設も参加してもらえるように公開研修としました。緩和ケア専門コースは、3回/年、延べ39名が受講しました。感染看護専門コースは、7回/年、延べ163名、脳卒中リハ専門コース4回/年、集中ケア認定看護師・慢性呼吸器疾患看護師によるフィジカルアセスメントコース5回/年、延べ84名、がん化学療法専門コース4回/年、延べ13名、糖尿病看護専門コース4回/年、延べ52名と各々の認定看護師による専門コースを開催し、院内外から多くの参加を得られました。
- がん相談支援センター
2名の相談員が、令和元年度は延べ1,839件の相談に対応しました。また、毎月がんサロンを開催・運営し、延べ58名が参加されました。「私のカルテ」導入件数は12件、医科歯科連携は247件でした。

看護研究発表

2年間の看護研究の成果を、院外の学会で発表しました。

- 学会名 日本看護学会急性期 岩手県
テーマ 「気管挿管患者の口腔ケアの現状と課題」(ICU病棟)
- 学会名 日本看護学会慢性期 鹿児島県
テーマ 「看護師対象のグリーフケア—看護師の感情を大切にすること—」(東5病棟)
- 学会名 熊本県看護協会八代支部
テーマ 「手術室看護師の手術退室時申し送りの実態調査」(手術室)
テーマ 「人工股関節置換術患者に対する入院オリエンテーションの再構築—術前オリエンテーション外転枕体験とDVD視聴を取り入れて—」(東4病棟)
- 学会名 熊本麻酔学会
テーマ 「手術室看護師の仕事に対するモチベーションの現状」(手術室)
テーマ 「手術室看護師の手術退室時申し送りの実態調査」(手術室)
- 学会名 熊本県看護協会
テーマ 「外来化学療法を受ける乳がん患者の就労継続の現状—3人の乳がん患者の関わりを通して—」(外来)

認定看護師

皮膚・排泄ケア

スタッフ紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師

坂田 舞

はじめに

平成23年6月に認定資格を取得し、平成24年5月よりリソースナースセンターに配属、主に褥瘡管理者専従として、皮膚・排泄ケア領域における看護活動を展開してきました。令和元年度の活動内容について、以下に報告します。

活動内容

褥瘡対策チームや看護部NST褥瘡対策委員などと連携して看護の質向上を図り、ハード面ではエアマットレスの中央管理化や電子カルテ更新に伴う計画書の充実、ソフト面では、ワンポイントレクチャーや事例検討に取り組みました。その結果、褥瘡推定発生率は0.75%となり、年間目標0.8%以下を達成することができました。院内の褥瘡発生要因としては、圧迫・摩擦・ずれの他に排泄ケア不足が多い結果となりました。

令和元年度からは、日々のエアマットレスの在庫状況と患者のADLや看護必要度を反映したデータの集計を開始しました。その結果、エアマットレスの在庫がゼロである日が110日あり、それと同時期に褥瘡有病率や推定発生率が上昇していることが分かりました。

褥瘡以外では、スキンケア、医療関連機器圧迫創傷、失禁関連皮膚障害、術創、外傷後の相談も多く、ストーマケアにおいては、術前ケアとして外来からの相談も増えてきていますが、病棟ではストーマリハビリテーション講習会受講者2名を中心にストーマケアを行えるようになりました。その他、地域における皮膚・排泄ケア看護の質向上と連携の強化を図り、出前講座や患者の個別相談（来訪相談や在宅訪問）など「顔が見え、いつでも相談することができる」環境を整えた結果、当院の受診歴がない患者様からも電話・メール相談が多く寄せられるようになってきています。

令和2年度以降の目標としましては、褥瘡ケアにおいてはエアマットレスのレンタル導入による在庫不足解消の実現、院内発生事例の積み重ねと共有、

褥瘡患者の月別実数や病棟ごとの傾向等が顕在化するデータ集計方法の確立に取り組んでいきます。

排泄ケアにおいては、ラバーシートやおむつの重ね使用を減らしていくためのワンポイントレクチャーを活用し啓蒙していきます。術創や外傷による創傷、瘻孔ケアについては、治療的スキンケアを実践で示しながら、各部署が主体的に介入できるような教育・指導に努めたいと考えています。

また、ストーマケアにおいては、病棟・外来間の連携を強化し、継続的なケアが行えるような環境を整えていきます。

教育・研修という分野においては、出前講座が可能な状況となれば、院外からの要望にも順次対応し、電話やメールによる相談対応についても、個人情報の取扱い等に係るルールの整備を行いながら、引き続き実施していくことで地域に貢献したいと考えています。また、受診が困難な褥瘡保有者や皮膚トラブルのあるストーマ保有者に対し、かかりつけ医や訪問看護師と協働での在宅訪問も、新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ、再開していきたいと考えています。

2019年度活動件数

域 領	ケア内容	件数
創傷ケア	術創ケア	162件
	ドレーン・ろう孔ケア	19件
	スキンケア	35件
	予防ケア	23件
	医療関連機器圧迫創傷	7件
	その他	21件
	在宅等相談	33件
	在宅訪問	1件
	褥瘡回診	100件
	WOC褥瘡ラウンド	347件
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	247件
オストミーケア	ストーマサイトマーキング	30件
	術前説明	19件
	周術期ケア	14件
	装具選択	232件
	セルフケア指導	225件
	トラブルケア	222件
	社会資源の説明と手続き	36件

認定看護師

域 領	ケア内容	件数
オストミーケア	在宅サービスとの連携	75件
	転院先との連携	9件
	生活指導	237件
	ケアシート作成	14件
失禁ケア	失禁予防的ケア	8件
	失禁治療的ケア	37件
	排泄管理指導	5件

研修名	開催回数	参加人数
院内ワンポイントレクチャー (昼間15分程度)	3回	40人
院内研修会 (新人研修、褥瘡勉強会など)	2回	123人
院外出前講座	4回	147人
合計	9回	310人



外科回診の様子



泌尿器科医、病棟看護師との症例カンファランス



病棟ラウンド



外来での創傷ケア

外来でのストーマケア

その他、小児外来や在宅訪問にも対応しています。

認知症看護

スタッフ紹介

認知症看護認定看護師

上淵 恵子

認知症看護認定看護師

柿本 里美

はじめに

令和元年7月に資格を取得し、認知機能の低下がある入院患者様がより安心できる環境で適切な医療が受けられるように支援することを目指して活動しています。

病棟看護師に対しては、患者様との「関わり方が分からない」「コミュニケーションがうまく取れない」といった相談に対応し、認知症のある方に対しては、個々のニーズや苦痛、気になること、困られていることはないかを患者様ご本人に『聞く』こと、言葉でうまく伝えられない代わりに『何らかのサインを発信されていないか目を光らせる』ことを意識し、病棟看護師と一緒に考えながら活動しています。

活動内容

(1) 病棟ラウンド

毎週火曜日午後：せん妄ケアチームラウンド

毎週金曜日午後：認知症ケアチームラウンド

(2) 院内研修講師

■ 糖尿病看護専門コース

テーマ：認知症と糖尿病

■ 脳卒中リハビリテーション看護専門コース

テーマ：脳血管性認知症の基礎知識、認知症者とのコミュニケーションとケアの方法

(3) 地域活動

■ 丸田病院 研修会講師

テーマ：認知症患者の身体拘束についてその判断と方法

■ 循環型認知症医療のための研究会 参加

■ 八代認知症研究会 参加

認定看護師

集中ケア

スタッフ紹介

集中ケア認定看護師
寺瀬 真利子

はじめに

平成27年6月に集中ケア認定看護師となり、現在ICUに所属し活動しています。以下に、令和元年度の活動内容について、以下に報告します。

年間目標と活動内容

1 集中ケア領域において自らが役割モデルとなるよう、知識や技術の実践指導を行う。

(1) 専門コースの開催(5回/年)

期日	内容	担当	参加人数
5月14日	マスクフィッティング	レスメド担当者 /テイジン	13名
6月11日	循環系のフィジカル アセスメント	寺瀬 真利子	20名
7月 9日	呼吸系のフィジカル アセスメント	菅原 真澄	16名
9月10日	脳神経系のフィジカル アセスメント	水町 広恵 (脳卒中リハビリテーション 看護認定看護師)	14名
10月 8日	[V60] [A30] [NHF] について	フィリップス 菅原/寺瀬	21名

(2) 院内からコンサルテーションを受ける

① 一般病棟での人工呼吸器、NPPV、ネーザルハイフロー使用時の相談など

予定通り、月に一度医療安全管理者と臨床工学技士、慢性呼吸器疾患看護認定看護師とともに呼吸器ラウンドを実施しました。設定と指示書の内容や物品管理について確認し、必要に応じて看護ケアに関する助言を行いました。

② せん妄対策について

せん妄アセスメントシートは2018年3月より西5病棟、4月よりICUで運用を開始しました。ラウンド時にせん妄患者の対応や看護介入について対応しています。

(3) ICU内での勉強会やミニレクチャーの実施 (目標件数 4例/年)

早期リハビリテーションプロトコルの運用を開始したため、運用の説明と伝達を数回に分けて実施しました。また、他病棟から異動してきたスタッフに対し、ICU内で使用しているICDSCやせん妄アセスメントシートの説明を行いました。また、SOFAスコアの評価を開始したため、評価の方法についてのレクチャーを実施し、評価方法について記載した手引を作成しました。

(4) 新人教育研修 講師

4月	フィジカルアセスメント 循環
7月	フィジカルアセスメント 呼吸、せん妄
2月、3月	人工呼吸器研修

(5) 熊本労災看護専門学校 講師

「健康危機状況にある人の看護」…………… 4回実施
「フィジカルアセスメント」…………… 4回実施

2 生命の危機状態にある患者・家族に対し、より良いチーム医療が提供できるようリーダーシップを発揮し、関連する多職種と連携・協働する。

専門コースの開催や新人研修、院内外の学習会への参加などを通し、他分野の認定看護師とも協力して活動を行ってきました。せん妄患者のラウンドは西5病棟、西3病棟、ICU病棟の3病棟で行い、年間38回、のべ296名の患者をラウンドしました。ラウンドでは主に、不眠時・不穏時の薬剤の調整と看護の面での相談を受けることが多く、ともにラウンドを行う認知症看護認定看護師からのアドバイスを受けて認知症患者のケアに介入しました。

また、次年度からのせん妄ハイリスク患者ケア加算の算定に向けてせん妄アセスメントシートの改訂を行い、病棟へのレクチャーを行いました。

認定看護師

緩和ケア

スタッフ紹介

緩和ケア認定看護師

岡山 浩子

緩和ケア認定看護師

宮川 亜希子

はじめに

平成17年8月に緩和ケア認定看護師を取得して14年目を迎え、現在、緩和ケアチーム専従看護師、がん専門相談員として活動しています。令和元年度の活動について以下に報告します。

活動内容

(1) 学会、ポスター発表

- 学会名 第30回 日本医学会総会2019 中部参加(名古屋)
日 程 4月28日(土)～4月29日(日)
- 学会名 第24回 日本緩和医療学会学術大会参加(横浜)
日 程 令和元年6月21日(金)～6月22日(土)
ポスター発表 「局所陰圧閉鎖療法中の創処置時の疼痛に対しリドカイン局所潤麻酔が有効であった1例」

(2) 緩和ケア研修会の開催

- 日 時 令和元年8月24日(土)
場 所 熊本労災病院看護専門学校
参 加 者 19名(医師：13名、看護師：3名、薬剤師：3名)

(3) 緩和ケアチーム回診

- 220件/年 新規介入：75件
回診実施：2回/週、月曜・木曜日実施、適宜臨時回診実施
依頼診療科：呼吸器内科、消化器内科、泌尿器科、整形外科、婦人科、消化器外科

(4) 苦痛のスクリーニング実施

- 実施件数：19件/年

(5) がん患者指導管理料の算定

- (500点)イ：87件、(200点)ロ：20件

(6) 教育

- 熊本労災看護専門学校講義
成人看護学方法論Ⅲ(終末期と緩和ケア) 3回
- 熊本県看護協会 「看取りケア」研修 2回

(7) がんサロンの開催

- 1回/月 開催

(8) がん相談員活動

- ピンクリボンイベント企画支援、図書コーナー開設支援

(9) 市民公開講座の開催

- 11月17日(土)「あっぱれ人生!人生会議(ACP)」
参加人数：56名
- 2月29日(土)「先生教えて!がんに関するあれやこれ Part3」
→COVID19感染拡大防止のため中止

(10) 第69回熊本緩和ケアカンファレンスの企画・開催

- 内 容 「当院における心不全患者のACPの現状と課題」
日 時 令和元年10月26日(金) 18:30～19:30
場 所 熊本労災病院
参 加 者 37名(院外、院内参加者含む)

(11) 緩和ケアマニュアルの改訂

- 病院機能評価受審に併せ、緩和ケアマニュアルを改訂

緩和ケアチームの回診については、がん診療連携拠点病院の指定要件のひとつである新規介入患者数50件/年のクリアを目標とし、2回/週の回診に努めスタッフへの周知協力を得ることにより達成できました。

ICの同席は、がん告知時や再発時、看護師からだけでなく医師事務作業補助や医師からも同席依頼が増えてきていますが、依然として、依頼が出される診療科には偏りがあるため、引き続き丁寧な情報共有を行っていきます。

緩和ケアカンファレンスでは、心不全患者という、非がん患者に対する内容を初めて企画しましたが、心不全患者へのACPに対する意識や理解が医師や看護師へ広まるきっかけになったと感じています。



緩和ケアチーム回診



令和元年度緩和ケア研修会

認定看護師

がん化学療法看護

スタッフ紹介

がん化学療法看護認定看護師

梅田 知寿子

はじめに

平成27年に認定看護師の資格を取得し、外来化学療法室での勤務は5年目となりました。外来通院患者をはじめ、院内外でがん化学療法看護の活動を行いましたので、令和元年度の活動について以下に報告します。

活動内容

(1) スタッフ教育支援活動、院内活動

- 専門コースの開催 4回/年
- 病棟依頼の内容に関するワンポイントレクチャー(15～20分程度)3件/年
- 新規薬剤に関する勉強会の企画 外来、病棟の要望により実施 5件/年
- 消化器がんボードの事前準備/症例内容の把握、書記(毎月第2・第4水曜日)
- 化学療法委員会(毎月第3月曜日)
- 外来通院患者へのリソース介入の調整(MSWなど地域連携室への情報共有)
- 通院治療へ移行予定の患者に対する退院前オリエンテーションの実施 100件/年
- 化学療法室スタッフへの教育(曝露対策、オリエンテーション方法、新規薬剤など)

(2) 専門雑誌投稿および参加学会ほか

- 投稿記事：雑誌「がん看護」第25巻2号増刊特集「がん薬物療法による有害反応への対応：手足症候群」
- 2019年7月18日～20日「第17回 日本臨床腫瘍学会学術集会」京都府
- 2019年12月14日 日本看護協会認定看護師キャリアアップ研修
- 2020年1月18日 久留米大学認定看護師対象研修
- 2020年2月15日 熊本県がん化学療法セミナー
- 2019年7月27日、2020年1月25日 熊本県がん化学療法看護認定看護師勉強会

脳卒中リハビリテーション看護

スタッフ紹介

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

水町 広恵

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

田中 孝樹

はじめに

平成24年、25年に資格を取得し、現在では脳神経内科、脳神経外科病棟の看護師長、看護師長補佐として活動しています。令和元年度の活動について以下に報告します。

活動内容

(1) 実践

- 排尿ケアチーム活動(毎週水曜日15:30～16:00) 介入件数延べ93件

(2) 指導・教育

- 新人看護師研修講師「食事援助と口腔ケア」平成31年4月
- 新人看護師研修講師「フィジカルアセスメント(脳神経)」令和元年5月
- 熊本労災看護専門学校講師「成人看護概論」令和元年5月～6月
- 熊本労災看護専門学校講師「老年期看護学方法論Ⅰ」令和元年10月～令和2年3月
- フィジカルアセスメント専門コース講師「脳神経系のフィジカルアセスメント」令和元年9月
- 熊本労災看護専門学校講師「老年期看護学方法論Ⅰ」令和元年10月～令和2年3月
- 看護部脳卒中リハビリテーション看護専門コース企画運営
- 院内外研修開催(脳卒中リハビリテーション専門コース)

(3) 学会参加

- 学会名 第25回日本排尿機能学会
題名 「当院における排尿ケアチーム活動の現状と課題」発表

(4) 社会活動

- 脳卒中者友の会「八代しらさぎ会」サポーター機能訓練・社会交流を目的とした日帰りバス旅行、花見、軽スポーツ大会、定例会議(1回/月)の開催

認定看護師

糖尿病看護

スタッフ紹介

糖尿病看護認定看護師

本山 詔諤

はじめに

2011年に認定看護師資格取得、リソースナースセンターに異動となり5年目を迎え、院内外の糖尿病看護における活動を行いました。その活動を以下に報告します。

活動内容

(1) 糖尿病看護力の向上における支援活動および自己研鑽

① 看護師の教育支援・研修会の開催

- 専門コース 4回/年
- 熊本労災病院看護専門学校講義 セルフケアマネジメント 4回/年
- 新人研修 糖尿病の薬物療法 5月16日
- フットケア初めの一步：講師 6月6日
- 第7回糖尿病療養指導士学会：ファシリテーター 7月20日

- 第14回九州・沖縄Active SMBG糖尿病セミナー：ファシリテーター 9月1日
- 九州全域で取り組む透析予防 交流集会 企画・運営 10月26日
- 山鹿フットケア研究会：講師 11月16日
- 八代地区糖尿病看護研究会：企画・運営・座長 1月25日
- 第15回スキルアップセミナー：企画・運営 2月2日
- 八代地区 糖尿病ネットワーク研究会：パネリスト2月5日

② 自己研鑽・学会発表

- 第7回糖尿病療養指導士学会 研究発表(共同演者) 7月20日
- 第24回日本糖尿病教育・看護学会 9月21日
- カンパセーションマップ トレーナー研修 10月22日
- 第57回日本糖尿病学会・九州地方会 研究発表(共同演者) 10月25日

③ その他 役員活動

- 日本糖尿病教育・看護学会 ネットワーク委員
- 熊本地域糖尿病療養指導士会 認定委員・研修委員
- 熊本県南実践フットケア研究会 世話人

患者支援：療養指導・フットケア・透析予防指導

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
療養指導 (170点)	コストあり	4	2	6	3	5	1	3	5	3	4	6	5	47	40
	コストなし	2	2	2	2	3	0	3	1	3	3	4	3	28	14
透析予防指導 (350点)	男性	7	3	6	6	4	3	2	7	2	6	2	4	52	100
	女性	4	7	4	8	6	6	5	7	5	5	4	7	68	
フットケア (170点)	合併症管理料+胼胝処置	6	6	8	3	5	5	5	3	5	6	4	4	60	—
	合併症管理料	12	17	14	17	21	14	18	19	16	16	15	13	192	239
	胼胝処置	3	0	0	1	3	2	0	0	0	1	0	1	11	72
	外来コストなし	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	23
	病棟	0	0	3	1	0	1	3	4	0	1	2	1	16	29
糖尿病教室	1	2	2	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	30	33
看護相談	0	0	4	0	3	0	0	1	1	1	1	1	0	11	8
コンサルテーション	2	5	4	5	2	1	9	2	3	6	3	2	44	70	
患者訪問	18	13	5	14	3	0	7	3	2	3	0	7	75	88	

認定看護師

慢性呼吸器疾患看護

スタッフ紹介

慢性呼吸器疾患看護認定看護師

菅原 真澄

はじめに

認定看護師として活動を開始し5年目となり、慢性呼吸器疾患看護分野の活動を確立し、さらなる活動を拡大していくことを模索しています。認定看護師として、病棟スタッフの一員として実践を通し、呼吸器関連のニーズを見出しながら指導、相談につながるよう病棟内外での活動を行いました。令和元年度の活動について以下に報告します。

活動内容

1 指導・教育

- 専門コース「フィジカルアセスメント」
4回/年 集中ケア認定看護師と共同開催

開催内容	開催日	参加数 (申込36名)
マスクフィッティング	5/14	13名
呼吸器系フィジカルアセスメント	6/11	20名
循環器系フィジカルアセスメント	7/9	16名
脳神経系フィジカルアセスメント	9/10	14名
V60について(マスクフィッティング)	10/8	21名

- 新人看護師研修講師 「フィジカルアセスメント呼吸」
「吸入・吸引」
「体位ドレナージ」
「人工呼吸器」
- 熊本労災看護専門学校講師
「セルフマネジメント」
「フィジカルアセスメント呼吸・消化器」
その他、病棟内で呼吸器に関するミニレクチャーを実施しました。

2 院内ラウンド

呼吸器ラウンド 1回/月(第2火曜日)

ラウンド時間：約1時間

参加者：呼吸器内科医師、臨床工学技士、看護師(医療安全管理者、集中ケア認定看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師)



呼吸器ラウンド

3 新たな取り組み

令和元年度は、下記の新たな取り組みを実施しました。

(1) 吸入指導

病棟内での吸入持ち込み、新規導入、デバイス変更などに関し、吸入指導依頼の有無に関わらず、病棟薬剤師と共同し介入しました。入院中はもちろん、退院後も継続した吸入指導を見据え、お薬手帳へ手技内容を記載した用紙を貼用し(八代薬剤師会作成の吸入手技確認書)、外来受診時に持参するよう患者、家族へ説明しました。

(2) 呼吸器関連(NPPV(ASV、CPAP、V60)管理、看護

IPPV、NPPV使用時、使用状況を確認し、状態に応じて呼吸器設定などについて主治医とディスカッションを行い調整しました。

NPPV導入時には機種、マスクの種類、設定の決定などを主治医と共に行い、導入からケア、管理の在り方について看護師へ情報提供し、継続した看護・観察へつながるよう介入していきました。

ASV、CPAPなどについては、導入時、入院持ち込み時など、都度患者状態を確認し、ログデータ解析を業者へ依頼又は独自でデータ解析を行いました。その結果を基に、必要時、医師の指示により設定変更や機種変更などに対応しました。

簡易睡眠時無呼吸検査時の手順を病棟用に作成し、依頼時には業者へ患者情報を提供しました。検査施行時には必要に応じてスタッフ、患者へ説明を行い、解析結果を主治医と共有、治療対象者への結果理解の確認と、看護師への情報共有を行いました。

(3) ICTラウンドへの参加

1回/週(水曜日)のラウンドに可能な限り参加しました。

がん相談支援センター

スタッフ紹介

がん専門相談員
宮田 美智子

がん専門相談員
山田 恵子

がん専門相談員
岡山 浩子

はじめに

がん相談支援センターとして「がん相談」の受付を開始して13年が経過しました。令和元年度の活動内容について以下に報告します。

年間目標と活動内容

(1)がんに関する知識と相談員のスキルアップを目指すため、研修会や講演会に積極的に参加する。

- がん専門相談員指導者研修 受講 6月
- がん相談員指導者研修 企画運営
- 日本死の臨床研究会 参加
- 日本緩和医療学会・九州支部学会 発表

(2)がん専門相談員として患者や家族の人権を尊重し、より良い療養生活を送れるように支援する。

- 院内図書コーナーの整備
- くまもと新都心プラザ図書館 出張相談参加
- くまもと禁煙推進キャラクター「すわんけん・すわんぬ」PRによる禁煙運動開催
- ピンクリボン運動イベント開催
- がん相談総件数 1,839件(目標1,500件)
- がんサロン「秋桜」開催 平均参加人数6.2名

(3)在宅療養を安心して送れるよう、地域医療施設との連携を深め、継続的なケアの提供を行う。

- 地域連携バス「私のカルテ」の運用 導入件数12件(目標20件)
- がん医科歯科連携 導入件数173件(目標120件)

(4)院内医療スタッフとのカンファレンスや勉強会を通じ、がんに対する関心・知識を深め、質の高い看護を提供する。

- ピンクリボン運動に合わせた職員に対する乳がん検診モデル触診体験の実施

- 院内多職種でのミーティング及び倫理カンファレンスの開催



禁煙啓発イベント(パールリボン)



八代がんサロン秋桜COSMOS



ピンクリボン普及啓発イベント

看護師特定行為研修

看護師特定行為研修の概要

労働者安全機構では、地域医療及び高度な医療の現場において役割を発揮でき、医療安全や業務の効率化、チーム医療の推進を目的に2019年度より看護師特定行為の研修が開始されました。機構本部を指定研修機関とし、2019年度は13施設が、2020年度には新たに10施設が協力機関として特定医療行為が可能な看護師の育成に取り組んでいます。

当院も2020年度より協力施設としての申請を行い、急性期医療における診療補助場面での特定行為を、合法的に行うことができる看護師の育成に取り組むこととしました。看護師特定行為は38行為21区分に分かれており、当院では、「救急・集中治療」の領域での活躍が期待できるよう初年度は下記5区分からのスタートとしました。

- ①栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ②呼吸器(気道確保に係るもの)関連
- ③呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連
- ④動脈血液ガス分析関連
- ⑤循環動態に係る薬剤投与関連



看護師特定行為研修開講式

申請までの準備内容

- (1) 研修責任者の決定
副院長 池田天史
- (2) 研修調整者の選定
看護副部長 守田尚美
- (3) 指導者の選定
各診療科より46名の医師を選定、
外部評価者(OSCE)2名
- (4) 教材等の整備状況確認
動脈採血用シミュレーター → 本部より提供
- (5) 研修場所の調査
院内でネット視聴が可能な場所を調査
(中央棟5階会議室、図書室、1・2階会議室、
熊本労災看護学校成人看護実習室)
- (6) 各区分の定員数及び症例数の決定
2名
- (7) 医療安全体制報告の準備
実習に係る安全管理に関する組織の設置
- (8) 緊急時の対応フロー作成
- (9) 患者相談窓口の確認

上記(1)～(9)を2019年8月末までに行い、本部との2回のWEB会議を経て2020年4月の開講式に向け手順書の作成、特定看護師研修委員会の設置、演習・実習に関する詳細の検討等を行いました。

2020年9月現在、2名の看護師が研修受講をしています。COVID-19や九州豪雨の影響があったものの、研修は予定通りに進捗できています。11月以降は実習が開始されるため、習得した知識や技術を安全に実施することができるよう、指導医との調整、実習環境の調整を行っているところです。

薬剤部

スタッフ紹介



薬剤部長
谷口 一成

薬剤副部長
奥 美和

主任薬剤師
澤田 邦子

主任薬剤師
丸山 久美子

主任薬剤師
山口 圭太郎

主任薬剤師
北森 靖隆

薬剤師 11名
薬剤事務補助 1名

【認定・資格取得状況】

日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	1名
日本緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	3名
日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師	1名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本医療薬学会 認定薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師	7名
日本医療情報学会 医療情報技師	2名

薬剤部の業務概要

薬剤部は、病院における医薬品の適正安全使用を担う部門として機能しています。患者様に安全で有効な薬物療法を支援するために、薬剤師は他医療スタッフと異なる薬学的視点に立ち、薬の専門家として努力しています。調剤・処方鑑査、医薬品管理、医薬品情報、薬物血中濃度測定・処方設計支援、高カロリー輸液や抗がん剤の無菌調製、治験コーディネート・治験薬管理、入院患者様への薬剤管理指導とともに、医療スタッフへの医薬品安全使用にかかわる情報提供を行っています。

業務内容と活動実績

■調剤業務

内外用薬・注射薬の入院患者を中心とした院内処方調剤を行っています。調剤を始める前の処方鑑査時に、疑義が生じた場合処方医に問合せを行い、適正な薬物療法が行われるように努めています。

■製剤業務

薬剤が、治療上必要であるが投与する剤形・規格・濃度など市販されていない場合に、薬剤の調製を行っています。また、感染リスクの高い高カロリー輸液や医療従事者の曝露が問題となる抗がん剤など無菌的に調製を行うことで感染・曝露防止に努めています。

■医薬品管理業務

採用薬剤の在庫適正化を図り、円滑に供給するために購入管理を担当しています。後発医薬品の検討を提案し、購入薬品費の節減も提案しています。

■医薬品情報業務

院内医薬品に関する情報の収集・整理・保管・加工・伝達などを目的に、「薬剤部だより」などのお知らせや医療スタッフからの質疑への対応を行っています。院内で発生した副作用情報の受付も行っていきます。電子カルテ薬品情報のメンテナンス、院内採用薬品集の作成なども行っていきます。

■薬剤管理指導業務

入院患者様への服薬指導、薬歴管理、医療スタッフへの薬品情報提供などを行い、医薬品の安全適正使用に努めています。薬剤の血中濃度を解析することで、効果・有害作用の防止などにも努めています。

■治験薬管理業務

当院は、治験薬の開発を通じて医療に貢献することを目的に治験に協力をしています。病院の治験業務の中で、薬剤部は、治験薬剤の管理・調剤業務などを担っています。

薬剤部

■業務実績(令和元年度)

入院処方箋枚数	91,389枚
外来処方箋枚数	15,178枚
入院注射箋枚数	164,486枚
外来注射箋枚数	18,393枚
製剤件数	80件
抗がん剤調製件数	3,150件 (入院 980件、外来 2,170件)
薬剤管理指導件数	7,024件 (請求件数 5,963件)
麻薬管理指導件数	422件
薬物血中濃度解析	198件

- 学会名 第45回八代緩和ケア研修会
- 日程・会場等 令和元年2月、熊本、口演
- 発表者 北森靖隆
- 演題名 亜鉛華デンプン外用療法の紹介と1例の報告

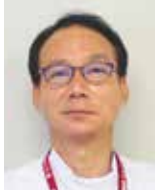
学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 第57回日本糖尿病学会九州地方会
- 日程・会場等 令和元年10月、佐賀、ポスター
- 発表者 中島璃沙
- 演題名 認知機能障害を合併した高齢2型糖尿病3症例におけるデュラグルチドの有用性の検討
- 学会名 熊本県病院薬剤師会第66回オンコロジー研究会
- 日程・会場等 令和元年6月、熊本、口演
- 発表者 山口圭太郎
- 演題名 熊本県内6施設のがん化学療法における日常業務紹介～安全・安心ながん薬物療法の実践～
- 学会名 第22回九州・山口ブロック労災病院薬剤部会
- 日程・会場等 令和元年6月、福岡、口演
- 発表者 北森靖隆
- 演題名 ペムプロリズマブ投与後に続発性副腎不全症を発症した1例の報告
- 学会名 第34回熊本呼吸ケア研究会
- 日程・会場等 令和元年7月、熊本、口演
- 発表者 坂田健太郎
- 演題名 病棟での吸入薬使用の現状
- 学会名 第15回熊本乳癌研究会
- 日程・会場等 令和元年7月、熊本、口演
- 発表者 山口圭太郎
- 演題名 熊本労災病院におけるCDK4/6阻害剤使用の実際

中央リハビリテーション部

スタッフ紹介



中央リハビリテーション部長
(作業療法士)

田中 政敏

主任理学療法士
山本 慎一

主任理学療法士
大洲 人士

主任理学療法士
長田 政和

主任理学療法士
吉田 絵美

主任作業療法士
西田 充征

主任言語聴覚士
畠山 克隆

理学療法士 11名
作業療法士 5名
言語聴覚士 3名
リハビリテーション助手 3名

【認定・資格取得状況】 心臓リハビリテーション指導士(4名)、呼吸療法認定士(11名)、がんのリハビリテーション研修修了(23名)、介護支援専門員(5名)、認定理学療法士・認定作業療法士・DMAT ほか

中央リハビリテーション部の特色

中央リハビリテーション部では整形外科疾患や脳血管疾患を始め、心臓や呼吸器、がんなど様々な疾患に入院や手術直後から、「早期リハビリテーション」に取り組んでいます。スタッフは、理学療法士15名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、リハ助手3名の総勢29名です。それぞれのスタッフが、認定研修や資格などを取得し、専門的な治療が行えるように病棟担当制をとり、ICUや病棟を中心に活躍しています。ICU病棟でのカンファレンスにも参加し、早期離床や廃用予防に積極的に関わっています。チーム医療の一環として、医師や認定看護師と共にNSTや排尿支援、褥瘡対策、認知症ケアとも活発な連携を取っています。その他、自宅での生活支援と共に、勤労者医療の一環として、患者さまの就労状況に合わせた復職(就労)支援にも取り組んでいます。熊本県の委

託により「八代地域リハビリテーション広域支援センター」として、八代地域のリハビリテーション従事者や地域の方々への研修会開催や現地での相談など地域に根ざした医療にも継続的に取り組んでいます。また、熊本地震をきっかけに、DMATやJ-RAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)などの災害に対する支援活動にも参加しています。

業務内容と活動実績

診療業務は、脳血管リハ等や運動器リハを中心に、心大血管リハやがん患者のリハ、呼吸器リハに加え、誤嚥性肺炎に伴う摂食嚥下訓練など理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による高度の専門的な治療を提供しています。診療体制では、訓練室はもとより一般病棟やICU病棟に於いて集中的な治療を行っています。心臓リハビリテーションでは、個別治療の他、複数の入院患者を対象とした集団治療も実施しています。また、心臓リハビリテーションを始めるに当たりCPX(心肺運動負荷試験)による検査を行い、安全な環境の下で実施しています。

〈令和元年度 活動実績〉

令和元年度 疾患別の患者数実績(表1)

疾患別では、整形外科疾患を中心にがん・心疾患・脳血管疾患なども増加傾向にあります。

表1 疾患別患者数

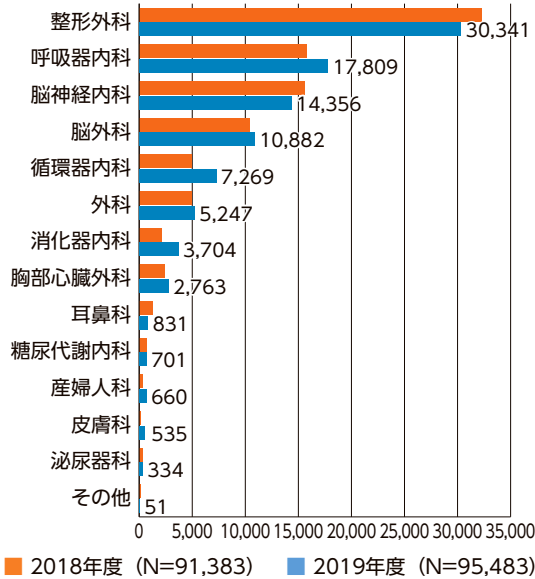
病名	件数	占有率(%)
整形外科疾患	397件	39.1
脳血管疾患	153件	15.1
悪性新生物	144件	14.2
心臓・血管疾患	80件	7.9
呼吸器疾患	75件	7.4
その他の疾患	167件	16.4

診療科別の治療実績(占有率)(図1)

整形外科(31.8%)は昨年度に比べて、僅かに減少しましたが、誤嚥性肺炎に伴う呼吸器疾患(18.7%)や医師の増員に伴う脳血管リハ(15.0%)、心臓リハの積極的な導入に伴う心大血管疾患(7.6%)などを中心として、リハ部全体では、95,000単位を超える(前年度比4.5%増)多くの患者に対応できました。

中央リハビリテーション部

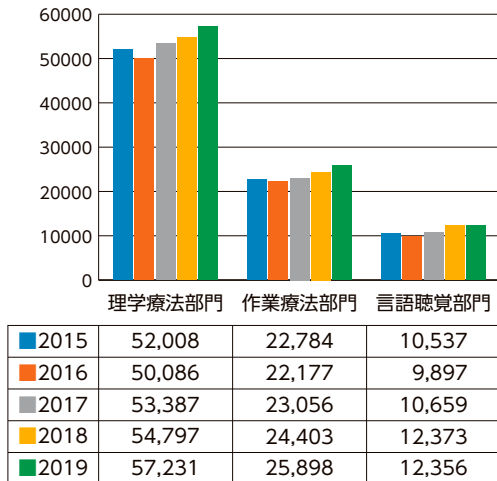
図1 令和元年度診療科別単位数



職種別単位数(図2)

平成28年4月「熊本地震」以降、各部門とも毎年順調な伸びを示しています。

図2 部門別年間単位数の推移

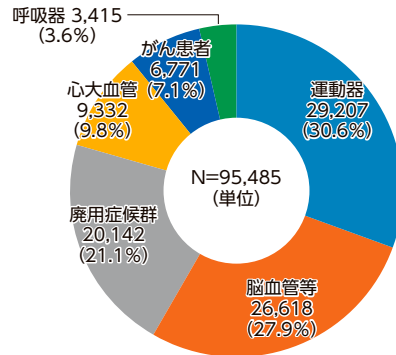


疾患別リハビリテーション単位数(図3)

昨年度の疾患別リハビリテーションの割合は、運動器リハをはじめ、脳血管等リハ・廃用症候群リハにて多く(80%)を占めていますが、がん患者のリハは、平成28年7月から本格的に「がん拠点病院」のリハビリテーションとして一翼を担っています。

また、誤嚥性肺炎患者の増加に伴い呼吸器系の診療科からの依頼が増えてきました。心大血管リハでは、CPX検査と共に個別訓練や集団での訓練や作業療法士による生活指導も行っています。

図3 令和元年度「疾患別リハ」別単位数比較



地域活動の実績

中央リハビリテーション部では、臨床業務の他に平成12年度より熊本県からの委託事業として、「地域リハビリテーション広域支援センター」を運営しています。地域の医療や介護、福祉に関わる皆様や地域の住民に向けた研修や相談などのリハビリテーションに関する支援を幅広く行っています。

医師会や自治体等の公的委員

- 田中部長 熊本県リハ推進協議会(委員)
- 西田主任 八代市障害者認定審議会(委員)
- 西田主任 八代市介護保険認定審査会(委員)
- 小屋野作業療法士 八代市介護保険認定審査会(委員)

セミナーや講演会、研修会等の開催

- 令和元年度 第1回地域リハ従事者研修会
令和元年5月17日 熊本労災病院 大会議室
「地域リハビリテーションと災害リハビリテーション」
- 令和元年度 第2回地域リハ従事者研修会
令和元年6月19日 熊本労災病院大会議室
「誰でもモチベーション高く働く3つの秘訣」
- 令和元年度 第3回地域リハ従事者研修会
令和元年11月20日 熊本労災病院理学療法棟
- 令和元年度 第4回地域リハ従事者研修会
令和2年2月19日 ひかり峯苦クリニック
「八代山間地域における介護予防事業への取り組み」

研究会の開催

主催

- 第2回がんリハセミナー(令和元年2月 熊本労災病院)
講師 川口 巧(久留米大学) 他2名(久留米大学病院)
- 第3回八代地区特別セミナー(令和元年3月 熊本労災病院)
講師 吉尾雅春(千里リハビリテーション病院 副院長)

認定施設 等

- 日本理学療法士協会 臨床見学受け入れ施設

中央放射線部

スタッフ紹介



中央放射線部長
福田 智哉

主任診療放射線技師

平嶋 豊

主任診療放射線技師

田尻 歩

主任診療放射線技師

前床 正国

主任診療放射線技師

小林 功治

主任診療放射線技師

本田 光希

診療放射線技師19名

助手 1名

【認定・資格取得状況】

第1種放射線取扱主任者、第2種放射線取扱主任者、第1種作業環境測定士、検診マンモグラフィ撮影認定技師、放射線治療品質管理士、救急撮影認定技師、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、医療情報技師、X線CT認定技師、肺がんCT検診認定技師

中央放射線部の特色

中央放射線部は画像診断部門、放射線治療部門に分けられ、画像診断部門は一般撮影、透視、CT、MRI、血管撮影、核医学検査、マンモグラフィ、骨密度装置、ポータブル撮影に分けられます。救急撮影では24時間体制で、一般撮影、CT、MRIなどの撮影を行っています。最近では専門技師や認定技師の取得や2015年に医療被ばく情報研究ネットワークより、診断参考レベル2015が策定され、それに沿った形での被ばく管理にも精力的で、当放射線部ではさらに低被ばくでの検査に力を入れています。また臨床実習でも積極的に学生の受け入れを行っています。

業務内容と活動実績

画像診断部門

①一般撮影

X線撮影装置4台を備え、1台はFPD(フラットパネルディテクター)システムです。胸部、腹部、骨の

撮影を1日平均140件撮影しています。

②X線透視

透視装置は2台あり、ともにFPDシステムで、内視鏡を用いて行うERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)やTBLB(経気管支生検)、神経ブロック、嚥下造影などに用いられます。最近では胆道系のステント留置など、非血管系のIVRも行われています。

③CT

CT装置は2台あり、1日に平均65件の検査を実施しています。ともに64列マルチスライスCTであり、そのうちの1台は2管球CTで、高速撮影、被ばく線量低減、デュアルエナジー撮影ができ、より最新技術の撮影に対応したCTとなっています。3Dワークステーションでは血管系の3Dや骨の3Dも積極的に作成しています。

④MRI

MRI装置は2台あり1台が3.0T(テスラ)、もう1台が1.5TのMRIです。3.0T、1.5Tの特性を生かし頭部や椎体、腹部、四肢などの検査を1日平均28件の検査を実施しています。高磁場での検査であるため、安全には特に配慮を行い検査に当たっています。また急性期脳梗塞や救急での脊椎病変、MRCPなどの撮影は24時間対応しています。

⑤血管造影検査

血管造影では1台はバイプレーン、もう1台がシングルプレーンです。いまでは血管内治療(IVR)が盛んに行われており、頭部や心臓、腹部、四肢に至る血管までの治療を実施しています。循環器領域では循環器の先生方と、腹部、骨盤系では放射線科の先生方と検査、治療に当たっています。またオペ室でステントグラフトによる治療も行っています。

⑥核医学検査

SPECT/CT装置が1台あり、主に骨シンチ、心筋シンチ、頭部SPECTを中心に行っており、CTと組み合わせた画像表示(フュージョン画像)も行っています。最近ではアルツハイマー型認知症の検査やパーキンソン病の検査にも威力を発揮しています。

⑦マンモグラフィ

撮影には認定講習会を受講し、認定資格を持った女性技師が担当しています。乳腺外科と連携を取りながら市検診にも取り組んでいます。本年には八代では初めてトモシンセシス(3D)が撮影可能な装置を導入しました。

中央放射線部

⑧骨密度検査

骨そしょう症やその治療効果のため、腰椎、太骨頸部の測定を行っています。微量のX線を腰椎、大腿骨に照射して検査します。検査データは精度の高いDEXA法を使用しています。

⑨ポータブル撮影

院内に4台あり、病棟、ICU、オペ室などで撮影を行っています。至急にも対応できるよう救急室でもポータブルの撮影を行います。オペ室には外科用イメージが4台あります。1台はステントグラフトに使用するDSA装置です。

⑩画像管理

モダリティで作成した画像はすべてサーバーに送られ、院内配信されます。院外への紹介時にはDVDを作成し、また他施設から紹介を頂いた場合も、画像を取り込み診断に役立っています。

放射線治療部門

⑪放射線治療

放射線治療は手術、抗がん剤治療と並ぶがん治療のひとつです。体への負担が比較的軽度で、手術と比較して機能、形態の温存が期待できるという特徴があり、画像誘導放射線治療(IGRT)が可能なリニアック装置1台、治療計画装置1台で治療に当たっています。三次元画像を基にした詳細な治療計画が可能で、60対のマルチリーフコリメータを使用し全身の各部位に対して限局的に策定した箇所へ治療を行うことができます。

業務実績(令和元年度)

検査種別		件数	
X線撮影	単純撮影	34,422件	
	透視造影	脳・脊髄領域	5件
		消化器領域	749件
		骨盤腔領域	47件
		循環器領域	1,771件
		その他造影	526件
		透視単独	313件
	透視合計	3,223件	
	マンモグラフィ	637件	
ポータブル撮影	7,262件		
核医学検査	416件		

検査種別		件数
CT	第一 (64列)	2,549件
	第二 (2管球)	14,237件
	合計	16,786件
MRI	第一 (3.0T)	3,137件
	第二 (1.5T)	2,747件
	合計	5,884件
放射線治療		2,904件
骨塩定量		402件
画像再構成		19,194件

学会・講演会発表等

学会・講演会等

- 学会名 城南地区診療放射線技師勉強会
日程・会場 令和元年6月、熊本
発表者 田尻 歩
題名 当院における手術支援画像について
- 学会名 九州ブロック診療放射線技師研修会
日程・会場 令和2年2月、熊本
発表者 鷺谷将貴
題名 条件付きMRI対応ペースメーカー患者のMRI検査に対する取り組み
- 学会名 九州ブロック診療放射線技師研修会
日程・会場 令和2年2月、熊本
発表者 井上 要
題名 三平方の定理を用いた、EVT(Endo Vascular treatment)時のスケールとデバイス長のズレに対する検討

論文発表

- 日本放射線技師会誌
福田智哉 他
一般撮影におけるローカル診断参考レベル(DRLs)としての労災DRLsとベンチマークドーズ(BDs)の提案

認定施設 等

- マンモグラフィ検診施設画像評価認定施設

中央検査部

スタッフ紹介



臨床検査センター長
金子 泰史



検査科部長
(病理診断科部長)
栗脇 一三



中央検査部長
篠原 弘文

主任臨床検査技師
前田 卓

主任臨床検査技師
川野 陽子

主任臨床検査技師
中川 淑恵

主任臨床検査技師
井上 博幸

主任臨床検査技師
森口 美琴

主任臨床検査技師
吉田 健一

臨床検査技師 20名

【認定・資格取得状況】

- 《病理部門》 病理医1名、細胞検査士7名、認定病理検査技師2名
- 《検体部門》 感染制御認定微生物検査技師2名、認定臨床微生物検査技師2名、緊急臨床検査士1名、二級臨床検査士(血液)3名、健康食品管理士1名、精度管理責任者育成講習修了1名
- 《生理部門》 超音波検査士(循環器)8名、超音波検査士(消化器)4名、超音波検査士(体表)1名、超音波検査士(血管)1名、超音波検査士(健診)1名、糖尿病療養指導士3名、精中機構乳房超音波講習会A判定1名

中央検査部の業務内容

当中央検査部は、日常診療から救急医療まで24時間体制で診療支援を行う部門である。臨床検査センター長の金子泰史先生と病理診断科部長である栗脇一三先生の下、27名の臨床検査技師が在籍し、検査業務を行っている。院内では各種臨床検査業務の他にICT(感染制御チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)やNST(栄養サポートチーム)などのチーム医療にも参画し、院外では各種学会や研修会等に積極的に参加し、知識や技術の研鑽に努め、各学会の認定資格を多数取得している。

病理部門は、地域がん診療拠点病院として重要な位置付けにあり、細胞診断分野では病理医とともに細胞検査士が正確な診断に寄与していることが評価され、日本臨床細胞学会から教育研修施設として認定を受けている。

検体検査部門は日本臨床衛生検査技師会から精度保証認定施設として認定を受け、また同会主催の精度管理責任者育成講習会を修了した技師が精度管理を行っている。これは、一定の基準をクリアし、臨床側へ提供している検査結果が標準化され高品質であると認められ、極めて高い信頼性を有していると評価されたものである。

細菌検査部門においては、県内では一早く先端技術を駆使した遺伝子検査装置を導入し、県南地域における感染制御の中心的役割も果たしており、認定微生物検査技師制度協議会から国内で僅か150施設、熊本県内でも5施設しかない研修施設認定を受けている。

生理検査部門においても各領域の認定超音波検査士を多数揃え、心臓、頸動脈、腹部、乳腺、下肢血管、甲状腺などの超音波検査に注力しており、他院からの研修依頼も引き受けている。最新の超音波画像診断装置を駆使し、医師との緊密な連携の上、高度で迅速な画像診断を行うことで診療へ貢献している。

労災病院の特徴の一つである振動病検診は、振動工具を取り扱う業務に従事する労働者の振動暴露状況を調べる検査であり、当検査部から県内外へ出張検診も行っており、毎年数百名の方の労災疾病の予防、治療等に大きく貢献している。

中央検査部

業務実績

年別臨床検査件数の推移

	H29	H30	R1
生化学	881,156件	940,605件	968,666件
免疫	100,972件	97,955件	98,229件
血液	206,155件	204,092件	212,970件
一般	31,492件	37,225件	32,219件
微生物	34,425件	34,478件	36,519件

年別生理検査件数の推移

	H29	H30	R1
心電図	12,786件	13,481件	14,524件
ABI	1,678件	1,375件	1,412件
心エコー	6,013件	7,092件	7,188件
腹部エコー	3,517件	3,915件	4,139件
血管エコー	2,919件	2,932件	2,822件
乳腺・甲状腺エコー	1,405件	2,635件	2,878件

年別病理検査件数の推移

	H29	H30	R1
組織診断	2,793件	3,282件	3,719件
術中迅速診断	93件	106件	124件
細胞診断	3,182件	3,574件	3,333件

地域活動の実績

■ 看護の日イベント

会場・日程 令和元年5月、八代市

参加者 井上博幸

■ 振動障害巡回検診

会場・日程 令和元年10月～11月 天草市、山都町、山鹿市、人吉市、あさぎり町、薩摩町、鹿児島市、鹿屋市

参加者 中村忠善、前田 卓、井上博幸、森谷智輝、福田健太、森口美琴

■ 子宮の日イベント(子宮がん検診啓蒙活動)

会場・日程 平成31年4月、熊本市

参加者 川野陽子

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 第51回熊本県医学検査学会病理部門
日程・会場等 令和元年5月、水俣市
座 長 井上博幸
- 学会名 第51回熊本県医学検査学会
日程・会場等 令和元年5月、水俣市
座 長 吉田健一
- 学会名 第7回熊本県精度保証研修会
日程・会場等 令和元年8月、熊本市
座 長 吉田健一
- 学会名 熊本県心血管エコー検査標準化プロジェクトハンズオンセミナー
日程・会場等 令和元年9月、天草市
講 師 吉田健一
- 学会名 熊本県健診・人間ドックセミナー
日程・会場等 令和元年9月、熊本市
総司会 吉田健一
- 学会名 熊本県肝疾患コーディネーター研修会・養成講座
日程・会場等 令和元年9月、熊本市
シンポジスト 吉田健一
- 学会名 第54回日臨技九州支部医学検査学会
日程・会場等 令和元年11月、熊本市
座 長 吉田健一
- 学会名 精度管理調査報告会
日程・会場等 令和2年2月、熊本市
発表者 吉田健一
- 学会名 熊本県肝疾患コーディネーター研修会
日程・会場等 令和2年2月、熊本市
座 長 吉田健一
- 学会名 第51回熊本県医学検査学会
日程・会場等 令和元年5月、水俣市
発表者 浜島智央
演題名 当院における全自動血液培養装置 VersaTREK 分離状況について
- 学会名 2019年度日臨技九州支部医学検査学会
日程・会場等 令和元年11月、熊本市
発表者 浜島智央
演題名 熊本県内における耐性菌分離状況について KCMNからの報告-2019

中央検査部

- **学会名** 第54回日臨技九州支部医学検査学会
日程・会場等 令和元年11月、熊本市
座長 森口美琴
- **学会名** 第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会
日程・会場等 令和2年1月、石川県
発表者 森口美琴
演題名 Clostridioides difficile 培養コロニーを用いた毒素産生能の検討
- **学会名** 第2回臨床微生物部門講演会
日程・会場等 令和元年11月、熊本市
座長 森口美琴
- **学会名** 第3回臨床微生物部門講演会
日程・会場等 令和元年12月、熊本市
座長 森口美琴
- **学会名** 第7回熊本県精度保証研修会
日程・会場等 令和元年8月、熊本市
発表者 福田健太
演題名 超音波検査からみた炎症疾患

栄養管理部・栄養管理室

スタッフ紹介



栄養管理部長
(糖尿病・代謝内科部長)
金子 健吾



栄養管理室長
藤井 しのぶ

スタッフ

主任栄養士	1名		
管理栄養士	4名	栄養士	1名
調理主任	2名	調理師	15名
作業員	2名	食器洗浄委託職員	12名

【認定・資格】NST専門療法士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、日本糖尿病療養指導士、熊本地域糖尿病指導士、肝炎コーディネーター

【所属学会】日本静脈経腸栄養学会、日本病態栄養学会、日本肥満学会、日本職業・災害医学会

栄養管理部・栄養管理室の特色

栄養管理部は、給食管理と栄養管理の両輪を担っています。給食管理では、安全で満足度の高い食事の提供、行事食や個人対応食などのフードサービスを実施し、病院食が患者一人一人の命や治療を支える基であるということを念頭に置き取り組んでいます。

栄養管理では、栄養サポートチーム専門療法士や糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士など、専門資格を有した管理栄養士が、NST(栄養サポートチーム)、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなどの一員として、医師を中心としたそれぞれのチームで看護師、薬剤師、その他コメディカルとともに、栄養管理の立場から活動を行っています。また、生活習慣病、がん、嚥下障害、低栄養などの患者に対し、栄養指導を実施し、治療効果の向上、合併症の予防、栄養状態の改善および免疫力低下の防止、QOLの改善に貢献できるよう医療チームの一員として取り組んでいます。

業務内容

給食管理

「労災病院衛生管理マニュアル」を基本とし、衛生的で安全な食事の提供に努めています。栄養量の設定は成分栄養別であり、一般治療食から特別治療食まで約160種類の食種の対応が可能です。個人の嗜好に配慮したハート食(個人対応メニュー)の提供も行っており、管理栄養士が直接患者の嗜好を確認し、メニューに反映させ、少しでも摂取可能な食事の提供を行うオーダーメイドのこの対応食は、患者様から好評をいただいています。

また、年43回の行事食を行い、季節感あふれるメニューの提供を心がけ、手作りのメッセージカードを添えるなど入院中の楽しみとなるよう患者サービスの向上に努めています。

栄養管理

全入院患者の栄養スクリーニング、アセスメントを行い、栄養不良のリスク判定を実施し、低栄養リスクの患者は多職種で構成されるNSTで継続的な栄養管理を行っています。

また、褥瘡チーム、緩和ケアチームなどと連携し、栄養状態の管理を実施しています。

入院・外来患者に対し栄養指導を実施しており、個別指導や集団指導では各教室を開催しています。

さらに、医師・糖尿病認定看護師とともに透析予防指導を実施し、栄養管理計画に基づく病棟訪問も実施しています。

【栄養指導・栄養相談】

	内容	曜日	時間	場所
個人指導	入院・外来	月～金	9:00～17:00	栄養指導室
	ベッドサイド指導	月～金	9:00～17:00	病室
集団指導	糖尿病教室	火曜日	14:00～15:00	栄養指導室
	減塩教室	月～金	15:00～16:00	栄養指導室
	胃腸病教室	月～金	16:00～16:40	栄養指導室
	健康教室	木曜日	11:30～13:00	栄養指導室
個人指導	透析予防指導	月～金	随時	栄養指導室
個別相談	栄養相談	月～金	随時	病室

栄養管理部・栄養管理室

活動実績

栄養指導の実績(令和元年度)

内容	件数(入院・外来)
糖尿病	1,333件
腎臓病	21件
心疾患・高血圧	1,239件
肥満	80件
脂質異常症	125件
胆・肝・膵疾患	152件
消化管術後	681件
胃腸疾患	65件
貧血	83件
低栄養・がん・嚥下	1,040件
その他	876件
合計	5,695件

チーム医療

NSTでは、栄養治療に関する専門知識を有する医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・言語聴覚士・検査技師が院長直属の組織横断的チームを組織し、栄養障害を有する患者の栄養アセスメント、栄養療法の実施、モニタリングを繰り返し治療効果の向上を図っています。

回診とカンファレンスを毎週1回、NST勉強会を開催し、多職種で連携し実施しています。

その他、病棟ラウンド、緩和ケア、褥瘡、糖尿病のチームに6名の管理栄養士が属し、他職種とともに活動を行っています。

【NST活動実績(令和元年度)】

内容	件数
コンサルテーション数	962件
NST介入件数	397件
ミーティング実施回数	52件
勉強会開催回数	7件

栄養評価の状況(栄養状態別割合%)

	良好	軽度不良	中等不良	高度不良	過栄養
4月	54.9	23.1	4.4	1.3	16.3
5月	58.1	22.4	4.9	0.5	14.1
6月	55.3	18.7	6.3	1.5	18.2
7月	60.3	20.5	4.2	1.2	13.8
8月	62.3	17.9	5.8	1.5	12.5
9月	57.0	18.4	4.3	4.3	16.0
10月	60.0	18.7	3.8	0.6	16.9
11月	62.1	14.2	5.3	0.7	17.7
12月	56.9	18.2	7.6	2.2	15.1
1月	55.0	18.9	7.4	1.5	17.2
2月	52.8	21.3	5.9	2.3	17.7
3月	53.2	18.1	6.2	2.3	20.2
平均	57.3	19.2	5.5	1.7	16.3

地域活動の実績

自治体等の公的委員

- 藤井しのぶ 八代地域NST研究会(委員)

セミナーや講演会、研修会等の開催

- 熊本健康づくり推進、栄養アドバイザー活動
藤井しのぶ、大濱亮子
「ブルーサークルメニュー」
「熊本健康づくり応援店支援」
- 八代地域食形態統一化プロジェクト活動
藤井しのぶ、大濱亮子、永野智子
「食形態統一化検討会・研修会」
(令和元年6月14日：熊本労災病院会議室)
「食形態統一化検討会・講演会」
(令和元年7月24日：熊本県八代保健所)
「食形態統一化検討会・試食会」
(令和元年11月8日：熊本労災病院会議室)
- 熊本労災病院糖尿病看護学習会講演会
藤井しのぶ
「肝疾患を持つ糖尿病患者の食事療法」
- 熊本産業保健総合支援センター研修会
藤井しのぶ
「食育講座」

認定施設 等

- 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定

栄養管理部・栄養管理室

行事食、産褥食など



食形態統一化検討会



行事食(土用の丑の日)



産褥食



行事食(お正月)



行事食(ひな祭り)

各診療科・各部紹介

中央臨床工学部

スタッフ紹介



中央臨床工学部長
植田 公昭

主任臨床工学技師

嘉悦 昌吾

スタッフ

臨床工学技士 3名

【学会所属・認定状況】日本臨床工学技士会、熊本県臨床工学技士会、全国労災病院臨床工学技士会、体外循環技術医学会、日本人工臓器学会、日本心血管インターベンション治療学会、体外循環技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、心血管インターベンション技師



中央臨床工学部の業務内容

生命維持管理装置などの医療機器の操作・保守を行うことを主な業務とし、医療の安全性及び質の向上を目的として平成26年4月1日に中央臨床工学部が設置されました。当初、心臓血管外科手術で用いる人工心肺装置の操作及び人工呼吸器や輸液シリンジポンプなどの医療機器管理を行っていましたが、管理機器の増台や心臓カテーテル業務、ICU設立などによる業務拡充に伴い4名が増員となり、現在部長を含め5名にて業務を行っています。当院では患者さまの治療・検査にかかわる「臨床技術提供業務」と医療機器を安全に使用するための「医療機器保守管理業務」の大きく2つに分け業務を行っています。

「臨床技術提供業務」は心臓血管外科手術にて

使用する人工心肺装置や心筋保護装置などを操作する人工心肺業務、出血が予想される手術にて使用する自己血回収業務、腎不全や術後敗血症に対して施行するCHDFやPMXなどの血液浄化業務、ECMO・IABP操作保守を行う補助循環業務、術中モニタリング(MEP・SEP)業務、カテーテル検査や治療の補助を行う心臓カテーテル業務を行っています。

「医療機器保守管理業務」では、特定保守管理医療機器に指定されている人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器を中心とし、それら以外にも麻酔器や輸液シリンジポンプ、患者監視装置(ベッドサイドモニタ)、低圧持続吸引器、AED、体外式ペースメーカーなどの使用頻度が高いものや使用時に緊急性の高いものを中央臨床工学部管理機器として保守管理しています。それぞれ点検チェックシートを作成し、点検計画を策定、実施し、取扱説明書や添付文書、安全情報も一括して管理を行っています。人工呼吸器、輸液シリンジポンプにおいては中央管理を実施し、貸出返却を集約して効率的な運用を目指しています。なお、医療機器の貸出返却や保守管理データは平成28年より医療機器管理システムを活用し、稼働状況や保守状況を確認できるようにし、安全使用に寄与しています。

活動体制

中央臨床工学部における業務内容が多岐にわたるため、各診療科医師、看護師、医療スタッフと綿密に情報交換を行い、日々の業務に取り組んでいます。現在は部長含め5名にて人工心肺業務や血液浄化業務、医療機器の不具合などの緊急時にはオンコール体制にて対応し、臨床技術提供業務では各診療科医師、医療機器保守管理業務においては医療機器安全管理責任者(麻酔科部長)の指示のもと業務を行っています。

中央臨床工学部

活動実績(令和元年度)

臨床技術提供業務において人工心肺業務41例、自己血回収業務66例、血液浄化業務21例、補助循環業務2例、術中モニタリング業務27例、心臓カテーテル業務468例を施行しています。医療機器保守管理業務では特定保守管理医療機器6機種を含む29機種535台を保守管理しており、定期点検822件、使用中点検3,300件、始業前点検1,675件、終業時点検412件、日常点検294件、合計6,503件の医療機器点検を実施しています。中央管理機器(人工呼吸器、輸液シリンジポンプ)においては人工呼吸器490件、輸液シリンジポンプ2,773件の貸出が行われています。また、上記業務以外にも院内スタッフ向けに医療機器の取り扱いや臨床業務に関する研修会・勉強会48件、院内外勉強会・学会23件に参加し、スキルアップに努めています。

私達は体外循環を始めとする臨床技術提供業務や医療機器保守管理業務を通して、患者さまへよりよい医療を提供できるよう、日々の業務に取り組んでいます。

活動状況



人工呼吸器勉強会



人工心肺業務



中央管理機器 貸出返却窓口



補助循環装置勉強会



血液浄化業務



心臓カテーテル業務



心臓手術勉強会

事務局

スタッフ紹介

事務局長
川村 博和

事務局次長
草野 克至

総務課

課長
荒田 暢裕

係長		1名
事務員	正規	5名
	嘱託	6名

会計課・中央監視室

課長
小園 裕一郎

係長		3名
事務員	正規	4名
	嘱託	3名

ボイラー主任		1名
ボイラー技士	正規	1名
	嘱託	1名

医事課・診療情報管理室・地域医療連携室

課長
松元 祐至

係長		3名
事務員	正規	4名
	嘱託	28名
	(保安専門員1名含む)	

診療情報管理士	正規	2名
	嘱託	2名
MSW		4名

事務局の特色

事務局は、総務課、会計課、医事課の3課により構成されています。

総務課は職員の採用、労務管理や安全衛生、給与、福利厚生といった人事に関することや、文書管理をはじめとする、行政や地域との関連により発生する諸業務(連絡調整、届出事項等)、職員に対する教育研修、各種院内行事の開催や広報活動など、多岐にわたる業務を担っています。

会計課は、病院の予算・決算、各種支払、資金管理といった経営に関することや、病院で使用する薬剤、診療材料、医療機器などの購入、維持管理に関すること、施設設備の保全・維持管理に関することなど、病院の経営を支える大黒柱として重要な役割を担っています。

医事課では、保険診療、自賠責、労災及びその他諸法(公費)による請求及び収納に関することや診療報酬明細書の作成及び保険者等への請求に関すること、診療情報の管理に関することといった、主に医療行為に伴う業務を担っています。また、地域医療連携室では医療福祉に関する相談・援助や連携医療機関・関係施設との前方・後方連携を担っており、いずれの部門においても「病院の顔」として、患者様が円滑に、安心して治療を受けていただくことを目指して業務にあたっています。

業務内容

事務局の仕事は病院の運営を陰で支える「縁の下の力持ち」であり、患者様と接する機会は多くありません。しかし、志すものが「良質で信頼される医療の実践」であることには変わりなく、そのために事務職として何が出来るかを考え、3課協力して日々前進していけるよう努力しています。

ボランティア

ボランティアの紹介

「熊本労災病院ボランティアの会」では、当院OBや地域の方々計15名が、患者様をはじめ病院を利用される人々がより良い環境で安心して治療を受けていただくことができるよう、自発的に活動されています。

いつも笑顔で優しく、心あたまる親切な対応で患者様に接されるボランティアの方々には、当院の医療サービス向上に大いに貢献していただいています。



活動内容

(1) 外来インフォメーション

患者様への各種案内、再来受付機の操作補助、移動の介助等

(2) 環境美化

車椅子整理、生花の飾り付け、敷地内の草花植え付け・手入れ、病棟プレイルームの整理等

(3) デイサービス

院内デイサービスでの看護師の活動補助





臨床業績



患者数等(年度実績4-3月)

①患者数等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
入院患者延数	126,493	127,585	128,870	132,510
1日平均入院患者数	346.6	349.5	353.1	362.0
新入院患者数	9,087	9,184	9,405	9,988
退院患者数	9,112	9,151	9,402	10,016
平均在院日数	13.9	13.9	13.7	13.2
病床利用率	84.5	85.2	86.1	88.3
外来患者延数	126,596	128,278	132,235	140,849
1日平均外来患者数	521.0	525.7	541.9	586.9
救急患者数	12,814	12,334	12,589	12,497
救急車受入件数(ヘリ含む)	3,913	3,917	4,078	4,173
ヘリ	16	18	28	17

②入院科別患者数

1日平均在院患者数

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0
脳神経内科	21.5	0.0	21.7	0.0	21.9	0.0	21.4	0.0
呼吸器内科	53.5	0.7	58.6	0.2	63.4	0.2	61.3	0.0
消化器内科	39.4	0.0	37.6	0.1	34.9	0.0	42.6	0.0
糖尿病・代謝内科	6.0	0.0	6.2	0.0	6.8	0.0	6.3	0.0
循環器内科	31.9	0.0	30.4	0.0	28.2	0.0	30.7	0.0
小児科	10.9	0.0	8.1	0.0	8.4	0.0	7.7	0.0
外科	31.3	0.2	32.9	0.0	35.1	0.1	37.5	0.1
整形外科	90.8	5.0	90.1	5.2	83.6	4.8	81.3	4.1
形成外科	2.2	0.1	2.8	0.0	2.3	0.0	1.9	0.0
脳神経外科	6.2	0.0	4.5	0.1	15.9	0.5	16.2	0.1
心臓血管外科	10.3	0.0	8.5	0.0	8.4	0.0	7.5	0.0
皮膚科	2.5	0.0	3.2	0.0	3.0	0.1	4.5	0.1
泌尿器科	10.8	0.0	11.7	0.1	10.0	0.0	8.7	0.1
産婦人科	19.2	0.0	20.0	0.0	17.1	0.0	18.0	0.0
眼科	0.3	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	0.7	0.0
耳鼻咽喉科	9.8	0.0	12.8	0.0	13.5	0.0	15.7	0.1
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	346.6	5.9	349.5	5.7	353.1	5.9	362.0	4.7

在院患者延数

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	-	-	12	
脳神経内科	7,832	1	7,908	15	7,980	0	7,827	4
呼吸器内科	19,542	245	21,390	65	23,149	82	22,440	8
消化器内科	14,375	3	13,716	33	12,750	5	15,596	0
糖尿病・代謝内科	2,198	0	2,272	0	2,494	1	2,318	5
循環器内科	11,658	0	11,100	0	10,290	0	11,222	16
小児科	3,961	0	2,940	0	3,052	0	2,809	0
外科	11,409	62	12,011	0	12,794	54	13,733	39
整形外科	33,133	1,809	32,890	1,900	30,504	1,770	29,759	1,500
形成外科	802	25	1,029	4	856	13	685	12
脳神経外科	2,267	0	1,657	20	5,819	196	5,922	35
心臓血管外科	3,770	8	3,090	0	3,057	0	2,748	0
皮膚科	901	0	1,183	17	1,108	24	1,653	23
泌尿器科	3,938	15	4,264	32	3,665	0	3,178	41
産婦人科	7,003	0	7,315	0	6,231	6	6,592	0
眼科	125	0	132	0	184	0	268	0
耳鼻咽喉科	3,579	0	4,688	0	4,937	0	5,748	19
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	126,493	2,168	127,585	2,086	128,870	2,151	132,510	1,702

③新入院患者数・平均在院日数

新入院患者数(転科除く)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	-	-	1	0
脳神経内科	502	1	459	1	442	0	412	2
呼吸器内科	1,136	7	1,203	4	1,265	5	1,237	2
消化器内科	1,087	1	1,154	3	1,148	1	1,259	0
糖尿病・代謝内科	143	0	150	0	146	1	156	1
循環器内科	940	0	902	0	915	0	1,081	1
小児科	912	0	756	0	786	0	758	0
外科	839	2	905	0	1,014	7	1,290	6
整形外科	1,515	93	1,513	74	1,451	75	1,424	71
形成外科	80	2	99	1	94	2	97	1
脳神経外科	133	0	110	2	275	10	266	1
心臓血管外科	207	1	138	0	148	0	129	0
皮膚科	76	0	102	2	78	1	143	1
泌尿器科	382	3	462	2	434	0	380	2
産婦人科	633	0	619	0	615	1	698	0
眼科	86	0	117	0	119	0	125	0
耳鼻咽喉科	416	0	495	0	475	0	532	3
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	9,087	110	9,184	89	9,405	103	9,988	91

平均在院日数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
精神科	-	-	-	12.0
脳神経内科	15.5	17.5	18.0	19.1
呼吸器内科	17.4	17.9	18.5	18.3
消化器内科	13.4	12.1	11.2	12.5
糖尿病・代謝内科	15.7	15.6	17.4	15.8
循環器内科	12.5	12.3	11.2	10.5
小児科	4.3	3.9	3.9	3.7
外科	13.3	12.9	12.3	10.4
整形外科	21.8	21.7	20.9	20.8
形成外科	9.7	10.6	9.1	7.0
脳神経外科	16.9	14.7	22.3	22.1
心臓血管外科	17.7	22.2	20.1	20.2
皮膚科	11.6	11.7	13.9	11.8
泌尿器科	10.1	9.3	8.4	8.2
産婦人科	11.2	11.8	10.2	9.4
眼科	1.5	1.1	1.5	2.1
耳鼻咽喉科	8.7	9.5	10.4	10.7
リハビリテーション科	-	-	-	-
合計	13.9	13.9	13.7	13.2

④外来科別患者数

1日平均延患者数

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内科	14.8	0.0	15.1	0.0	15.5	0.0	16.2	0.0
精神科	6.2	0.0	5.2	0.0	5.5	0.0	7.3	0.0
脳神経内科	16.4	0.2	16.1	0.0	18.0	0.1	18.8	0.1
呼吸器内科	42.1	0.8	47.1	0.5	45.5	0.3	48.9	0.3
消化器内科	48.5	0.3	44.4	0.3	44.8	0.2	50.8	0.2
糖尿病・代謝内科	23.6	0.0	25.1	0.0	26.2	0.0	28.1	0.0
循環器内科	30.3	0.0	29.1	0.0	28.6	0.0	32.6	0.0
小児科	40.3	0.0	36.6	0.0	37.0	0.0	37.9	0.0
外科	26.5	0.0	26.9	0.0	31.4	0.1	39.7	0.1
整形外科	96.2	6.1	97.9	5.9	98.5	4.7	95.0	4.0
形成外科	13.4	0.4	12.7	0.2	12.9	0.2	11.7	0.2
脳神経外科	13.6	0.5	7.7	0.1	10.1	0.1	10.6	0.2
心臓血管外科	9.5	0.0	8.8	0.0	7.7	0.0	7.1	0.0
皮膚科	23.2	0.0	24.6	0.1	22.9	0.2	29.7	0.1
泌尿器科	27.9	0.9	27.4	0.7	27.3	0.8	27.6	0.8
産婦人科	31.5	0.0	30.8	0.0	33.0	0.0	35.8	0.0
眼科	9.6	0.0	14.4	0.0	15.7	0.1	21.9	0.2
耳鼻咽喉科	25.1	0.2	30.0	0.0	32.7	0.0	37.5	0.0
放射線科	11.4	0.0	14.1	0.0	16.4	0.0	16.6	0.0
麻酔科	10.2	0.2	10.6	0.2	10.8	0.2	11.6	0.2
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
医療相談科	0.7	0.0	1.3	0.0	1.4	0.0	1.6	0.0
合計	521.0	9.8	525.7	8.2	541.9	7.1	586.9	6.3

延患者数

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内科	3,607	2	3,675	1	3,794	6	3,878	3
精神科	1,500	12	1,273	0	1,345	11	1,762	9
脳神経内科	3,994	41	3,934	10	4,380	24	4,508	22
呼吸器内科	10,228	205	11,484	130	11,105	79	11,734	60
消化器内科	11,780	64	10,839	66	10,939	43	12,183	41
糖尿病・代謝内科	5,723	4	6,131	5	6,399	12	6,739	11
循環器内科	7,357	5	7,109	2	6,970	3	7,833	9
小児科	9,793	0	8,931	0	9,018	0	9,085	0
外科	6,449	9	6,555	12	7,655	22	9,538	16
整形外科	23,379	1,494	23,878	1,432	24,035	1,141	22,791	958
形成外科	3,248	102	3,092	42	3,155	38	2,800	36
脳神経外科	3,293	115	1,875	31	2,473	32	2,543	48
心臓血管外科	2,319	8	2,152	3	1,873	0	1,700	0
皮膚科	5,635	5	5,994	34	5,597	51	7,121	24
泌尿器科	6,780	208	6,697	182	6,669	192	6,612	180
産婦人科	7,656	1	7,511	0	8,060	1	8,600	0
眼科	2,327	3	3,502	7	3,819	18	5,258	37
耳鼻咽喉科	6,106	50	7,321	5	7,974	8	9,009	6
放射線科	2,768	0	3,433	2	4,001	2	3,983	5
麻酔科	2,484	47	2,578	46	2,629	46	2,788	54
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
医療相談科	170	0	314	0	345	0	384	0
合計	126,596	2,375	128,278	2,010	132,235	1,729	140,849	1,519

⑤外来科別初再診別患者数

	初診患者延数				再診患者延数			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
内 科	2,167	2,079	2,117	2,160	1,440	1,596	1,677	1,718
精神科	153	284	406	468	1,347	989	939	1,294
脳神経内科	1,055	1,152	1,223	1,245	2,939	2,782	3,157	3,263
呼吸器内科	2,021	2,142	1,977	2,051	8,207	9,342	9,128	9,683
消化器内科	2,019	2,109	2,000	2,057	9,761	8,730	8,939	10,126
糖尿病・代謝内科	610	692	637	687	5,113	5,439	5,762	6,052
循環器内科	1,464	1,530	1,473	1,410	5,893	5,579	5,497	6,423
小児科	2,363	2,170	2,115	2,245	7,430	6,761	6,903	6,840
外 科	860	850	986	1,250	5,589	5,705	6,669	8,288
整形外科	4,400	4,598	4,611	4,339	18,979	19,280	19,424	18,452
形成外科	942	892	948	873	2,306	2,200	2,207	1,927
脳神経外科	948	845	995	955	2,345	1,030	1,478	1,588
心臓血管外科	342	310	277	256	1,977	1,842	1,596	1,444
皮膚科	1,483	1,797	1,642	1,844	4,152	4,197	3,955	5,277
泌尿器科	904	956	936	987	5,876	5,741	5,733	5,625
産婦人科	870	802	795	854	6,786	6,709	7,265	7,746
眼 科	649	741	762	850	1,678	2,761	3,057	4,408
耳鼻咽喉科	1,685	1,743	1,919	1,882	4,421	5,578	6,055	7,127
放射線科	695	1,028	940	938	2,073	2,405	3,061	3,045
麻酔科	2,149	2,227	2,264	2,328	335	351	365	460
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
医療相談科	167	312	341	384	3	2	4	0
合 計	27,946	29,259	29,364	30,063	98,650	99,019	102,871	110,786

疾病構成

ICD-10 疾病大分類別退院患者数 (R元年度)

ICD-10 疾病大分類	患者数				平均年齢	平均在院日数	死亡数	死亡率
	計	%	男	女				
総数	10,249	-	5,253	4,996	63.4	13.4	454	4.4%
A00-B99 1. 感染症及び寄生虫症	263	2.6%	119	144	36.9	9.4	15	3.3%
C00-D48 2. 新生物(腫瘍)	2,407	23.5%	1,202	1,205	68.3	11.9	152	33.5%
D50-D89 3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	36	0.4%	15	21	58.8	11.0		0.0%
E00-E90 4. 内分泌、栄養及び代謝疾患	181	1.8%	81	100	65.4	14.9	6	1.3%
F00-F99 5. 精神及び行動の障害	21	0.2%	11	10	51.0	9.9		0.0%
G00-G99 6. 神経系の疾患	237	2.3%	126	111	61.5	14.5	1	0.2%
H00-H59 7. 眼及び付属器の疾患	131	1.3%	70	61	74.7	2.3		0.0%
H60-H95 8. 耳及び乳様突起の疾患	108	1.1%	47	61	57.5	5.8		0.0%
I00-I99 9. 循環器系の疾患	1,419	13.8%	817	602	75.3	14.4	118	26.0%
J00-J99 10. 呼吸器系の疾患	1,431	14.0%	817	614	49.7	11.8	88	19.4%
K00-K93 11. 消化器系の疾患	952	9.3%	491	461	65.4	12.5	22	4.8%
L00-L99 12. 皮膚及び皮下組織の疾患	123	1.2%	68	55	63.9	11.7	1	0.2%
M00-M99 13. 筋骨格系及び結合組織の疾患	669	6.5%	336	333	67.7	21.5	1	0.2%
N00-N99 14. 腎尿路生殖器系の疾患	317	3.1%	138	179	62.6	9.6	4	0.9%
O00-O99 15. 妊娠、分娩及び産じょく(褥)	172	1.7%		172	33.4	10.3		0.0%
P00-P96 16. 周産期に発生した病態	91	0.9%	60	31	0.3	7.0		0.0%
Q00-Q99 17. 先天奇形、変形及び染色体異常	59	0.6%	36	23	14.9	6.8	1	0.2%
R00-R99 18. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	228	2.2%	112	116	57.9	11.4	16	3.5%
S00-T98 19. 損傷・中毒及びその他の外因の影響	1,123	11.0%	530	593	70.5	17.5	29	6.4%
Z00-Z99 21. 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	281	2.7%	177	104	58.2	4.3		0.0%

臨床業績

上位20疾患 退院患者数 (R元年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均在院日数	死亡退院
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	347	3.6%	239	108	72.0	16.7	56
2	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	257	2.4%	142	115	86.7	22.6	39
3	I50	心不全	244	2.3%	115	129	82.2	18.3	32
4	I63	脳梗塞	238	2.1%	130	108	79.3	20.9	3
5	C18	結腸の悪性新生物	215	1.9%	158	57	69.9	9.3	6
6	S72	大腿骨骨折	213	1.7%	50	163	85.7	25.2	2
7	C50	乳房の悪性新生物	213	1.7%		213	64.9	8.6	11
8	D12	結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物	190	1.7%	122	68	68.9	2.7	
9	M48	その他の脊椎障害	187	1.6%	112	75	72.8	16.3	
10	K80	胆石症	180	1.5%	83	97	71.7	11.5	1
11	J18	肺炎、病原体不詳	158	1.4%	88	70	60.7	10.6	8
12	I20	狭心症	142	1.2%	101	41	71.8	4.8	
13	C25	脾の悪性新生物	115	1.1%	61	54	74.8	12.7	18
14	H25	老人性白内障	113	1.1%	60	53	76.4	2.0	
15	J21	急性細気管支炎	111	1.1%	66	45	2.8	3.9	
16	Z09	悪性新生物以外の病態の治療後の経過観察(フォローアップ)検査	109	1.0%	71	38	70.7	2.0	
17	I48	心房細動及び粗動	105	1.0%	70	35	71.5	7.0	
18	C54	子宮体部の悪性新生物	102	1.0%		102	66.0	10.1	
19	C16	胃の悪性新生物	101	1.0%	55	46	74.3	15.8	10
20	S06	頭蓋内損傷	99	1.0%	57	42	78.1	16.3	7

悪性新生物 上位20疾患 退院患者数(R元年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均 在院日数	死亡退院
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	347	16.1%	239	108	72.0	16.7	56
2	C18	結腸の悪性新生物	215	10.0%	158	57	69.9	9.3	6
3	C50	乳房の悪性新生物	213	9.9%		213	64.9	8.6	11
4	D12	結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物	190	8.8%	122	68	68.9	2.7	
5	C25	膵の悪性新生物	115	5.3%	61	54	74.8	12.7	18
6	C54	子宮体部の悪性新生物	102	4.7%		102	66.0	10.1	
7	C16	胃の悪性新生物	101	4.7%	55	46	74.3	15.8	10
8	C61	前立腺の悪性新生物	99	4.6%	99		76.7	9.5	3
9	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	81	3.8%	61	20	70.9	19.0	9
10	C56	卵巣の悪性新生物	79	3.7%		79	64.0	6.8	2
11	C20	直腸の悪性新生物	63	2.9%	42	21	68.9	10.8	3
12	C67	膀胱の悪性新生物	59	2.7%	47	12	76.3	10.5	5
13	C53	子宮頸部の悪性新生物	47	2.2%		47	61.0	18.0	2
14	D27	卵巣の良性新生物	47	2.2%		47	48.8	9.0	
15	D25	子宮平滑筋腫	45	2.1%		45	47.4	10.8	
16	C24	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物	44	2.0%	21	23	78.0	14.9	4
17	C44	皮膚その他の悪性新生物	33	1.5%	14	19	78.4	6.0	
18	D06	子宮頸(部)の上皮内癌	30	1.4%		30	41.2	6.3	
19	C15	食道の悪性新生物	29	1.3%	29		71.9	17.0	
20	C48	後腹膜及び腹膜の悪性新生物	29	1.3%	1	28	66.5	7.1	1

診療科別・疾患別 退院患者分類(R元年度)

糖尿病代謝内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	E11	2型<インスリン非依存性>糖尿病(NIDDM)	75	48.1%	64.6	17.0
2	E87	その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	16	10.3%	80.0	16.1
3	N39	尿路系のその他の障害	8	5.1%	83.3	12.0
4	E16	その他の膵内分泌障害	7	4.5%	65.0	2.3
5	E10	1型<インスリン依存性>糖尿病(IDDM)	6	3.8%	45.0	12.2

脳神経内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I63	脳梗塞	219	51.4%	79.7	21.1
2	G40	てんかん	46	10.8%	73.0	20.9
3	H81	前庭機能障害	20	4.7%	72.5	4.7
4	G45	一過性脳虚血発作及び関連症候群	16	3.8%	78.9	12.3
5	G20	パーキンソン<Parkinson>病	10	2.3%	75.0	23.5

呼吸器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	280	22.4%	71.7	18.2
2	J69	固形物および液状物による肺臓炎	225	18.0%	86.8	22.6
3	J18	肺炎、病原体不詳	114	9.1%	78.9	12.7
4	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	81	6.5%	76.6	15.3
5	J84	その他の間質性肺疾患	62	5.0%	78.7	25.2
6	N39	尿路系のその他の障害	37	3.0%	86.8	18.6
7	J46	喘息発作重積状態	27	2.2%	73.1	10.8
8	J13	肺炎連鎖球菌による肺炎	24	1.9%	78.0	15.1
9	J44	その他の慢性閉塞性肺疾患	21	1.7%	82.8	18.2
10	J96	呼吸不全、他に分類されないもの	15	1.2%	79.1	19.7
10	J93	気胸	14	1.1%	59.0	6.6

消化器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	D12	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	190	14.8%	68.9	2.7
2	K80	胆石症	89	6.9%	76.3	14.4
3	C18	結腸の悪性新生物	75	5.9%	69.5	9.3
4	C25	膵の悪性新生物	64	5.0%	74.7	13.5
5	K57	腸の憩室性疾患	63	4.9%	74.4	11.8
6	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	60	4.7%	72.0	17.9
7	C16	胃の悪性新生物	44	3.4%	77.5	13.3
8	T85	その他の体内プロステーシス、挿入物及び移植片の合併症	33	2.6%	79.2	15.1
9	K25	胃潰瘍	32	2.5%	78.4	15.3
10	K85	急性膵炎	30	2.3%	69.8	19.4

循環器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I50	心不全	214	19.6%	82.1	18.4
2	I20	狭心症	137	12.6%	71.8	4.2
3	I48	心房細動及び粗動	103	9.4%	71.3	6.6
4	Z09	悪性新生物以外の病態の治療後の経過観察(フォローアップ)検査	97	8.9%	75.0	2.0
5	T82	心臓及び血管のプロステーシス、挿入物及び移植片の合併症(ペースメーカー電池交換等)	83	7.6%	80.0	9.5
6	I21	急性心筋梗塞	59	5.4%	69.1	13.2
7	I25	慢性虚血性心疾患	52	4.8%	71.5	4.3
8	I70	アテローム(じゅく(粥)状)硬化(症)	51	4.7%	74.2	11.5
9	I47	発作性頻拍(症)	44	4.0%	67.8	9.3
10	I44	心房ブロック及び左脚ブロック	38	3.5%	83.2	10.6

小児科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J21	急性細気管支炎	109	14.1%	1.3	3.8
2	J45	喘息	76	9.8%	2.1	3.6
3	R56	けいれん(痙攣)、他に分類されないもの	43	5.5%	3.2	2.8
4	A08	ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	43	5.5%	2.8	3.1
5	A09	その他の胃腸炎及び大腸炎、感染症及び詳細不明の原因によるもの	40	5.2%	6.4	3.0
6	J18	肺炎、病原体不詳	38	4.9%	3.3	3.8
7	J02	急性咽頭炎	38	4.9%	2.8	3.2
8	J10	その他のインフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	36	4.6%	4.4	2.5
9	J20	急性気管支炎	34	4.4%	2.7	3.5
10	M30	結節性多発(性)動脈炎及び関連病態	29	3.7%	2.6	5.2

外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C50	乳房の悪性新生物	207	15.2%	64.9	8.7
2	C18	結腸の悪性新生物	140	10.3%	70.2	9.2
3	K80	胆石症	91	6.7%	67.1	8.6
4	K40	そけい(鼠径)ヘルニア	79	5.8%	57.2	5.4
5	K35	急性虫垂炎	72	5.3%	31.9	5.7
6	C34	気管支及び肺の悪性新生物	64	4.7%	73.1	10.1
7	C20	直腸の悪性新生物	56	4.1%	68.0	10.8
8	C16	胃の悪性新生物	56	4.1%	72.0	17.8
9	C25	膵の悪性新生物	50	3.7%	74.8	11.6
10	K56	麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	43	3.2%	76.0	16.8

整形外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S72	大腿骨骨折	213	14.6%	85.7	25.2
2	M48	その他の脊椎障害	186	12.7%	72.7	16.2
3	S32	腰椎及び骨盤の骨折	92	6.3%	78.6	16.3
4	M51	その他の椎間板障害	92	6.3%	57.4	14.8
5	Z47	その他の整形外科的経過観察(フォローアップ)ケア(抜釘)	82	5.6%	48.4	7.5
6	S52	前腕の骨折	79	5.4%	60.0	12.6
7	M47	脊椎症	77	5.3%	73.1	21.3
8	M17	膝関節窩[膝の関節症]	65	4.4%	77.3	38.0
9	S82	下腿の骨折、足首を含む	60	4.1%	57.9	31.2
10	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	35	2.4%	82.6	16.5

形成外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	D17	良性脂肪腫性新生物(脂肪腫含む)	13	13.0%	40.3	6.8
2	C44	皮膚のその他の悪性新生物	13	13.0%	74.3	6.6
3	S02	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	12	12.0%	29.7	6.4
4	L72	皮膚及び皮下組織の毛包のう(嚢)胞	9	9.0%	40.1	4.6
5	Q18	顔面及び頸部のその他の先天奇形	6	6.0%	14.0	7.3

脳神経外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S06	頭蓋内損傷	95	33.8%	78.7	16.8
2	I61	脳内出血	76	27.0%	75.2	25.1
3	C71	脳の悪性新生物	16	5.7%	64.8	23.9
4	I60	くも膜下出血	15	5.3%	66.4	40.1
5	I63	脳梗塞	10	3.6%	70.7	23.4

心臓血管外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I71	大動脈瘤及び解離	43	29.5%	72.1	21.1
2	I83	下肢の静脈瘤	42	28.8%	66.0	3.3
3	I08	連合弁膜症	8	5.5%	73.8	38.8
4	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	8	5.5%	82.0	26.4
5	I74	動脈の塞栓症及び血栓症	6	4.1%	78.3	18.7

皮膚科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	L03	蜂巣炎(蜂窩織炎)	47	33.8%	75.7	13.0
2	C44	皮膚のその他の悪性新生物	20	14.4%	81.0	5.6
3	B02	帯状疱疹[帯状ヘルペス]	6	4.3%	66.5	6.7
4	D04	皮膚の上皮内癌	6	4.3%	81.7	7.8
5	L97	下肢の潰瘍、他に分類されないもの	5	3.6%	83.6	16.4

泌尿器科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C61	前立腺の悪性新生物	96	24.2%	76.3	9.1
2	C67	膀胱の悪性新生物	56	14.1%	76.9	10.5
3	N20	腎結石及び尿管結石	33	8.3%	68.8	8.0
4	N40	前立腺肥大(症)	25	6.3%	77.9	8.4
5	Z03	疾病及び病態の疑いに対する医学的観察及び評価(前立腺生検)	23	5.8%	71.1	2.5
6	D09	その他および部位不明の上皮内癌(膀胱)	22	5.6%	75.5	7.7
7	C65	腎盂の悪性新生物	14	3.5%	79.6	8.1
8	R33	尿閉	10	2.5%	89.0	7.5
9	N13	閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	10	2.5%	62.0	6.0
10	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	9	2.3%	71.1	11.8

産婦人科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C54	子宮体部の悪性新生物	101	14.2%	66.1	10.1
2	C56	卵巣の悪性新生物	79	11.1%	64.0	6.8
3	C53	子宮頸(部)の悪性新生物	47	6.6%	61.0	18.0
4	D27	卵巣の良性新生物	47	6.6%	48.8	9.0
5	D25	子宮平滑筋腫	45	6.3%	47.4	10.8
6	P03	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	38	5.3%	0.3	8.6
7	D06	子宮頸(部)の上皮内癌	30	4.2%	41.2	6.3
8	C48	後腹膜及び腹膜の悪性新生物	25	3.5%	67.8	6.3
9	O00	子宮外妊娠	21	2.9%	30.9	6.2
10	N80	子宮内膜症	20	2.8%	42.3	8.0

眼科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	H25	老人性白内障	113	89.7%	76.4	2.0
2	H11	結膜その他の障害	6	4.8%	69.2	1.2
3	H26	その他の白内障	*		57.5	2.0

耳鼻咽喉科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J35	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	84	15.4%	17.3	6.5
2	J32	慢性副鼻腔炎	51	9.3%	59.5	6.8
3	G47	睡眠障害	35	6.4%	33.4	1.9
4	H81	前庭機能障害	35	6.4%	68.2	5.1
5	H91	その他の難聴	26	4.8%	64.3	8.2
6	J34	鼻及び副鼻腔のその他の障害	23	4.2%	50.7	6.6
7	C32	喉頭の悪性新生物	18	3.3%	69.2	46.3
8	J38	声帯及び喉頭の疾患、他に分類されないもの	17	3.1%	55.9	8.3
9	D11	大唾液腺の良性腫瘍	16	2.9%	62.4	6.6
10	J36	扁桃周囲膿瘍	16	2.9%	52.3	5.6

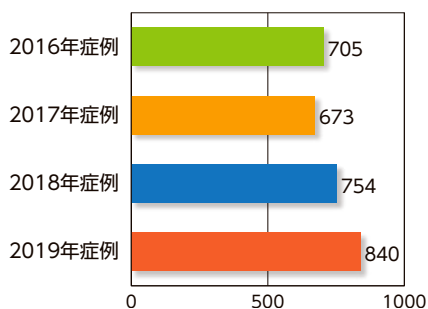
精神科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	F32	うつ病エピソード	*		17.0	12.0

〈注〉個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は「*」または非表示で掲載しています。

院内がん登録データに係る統計 –2019年診断症例–

登録件数



2019年症例の全登録数は840件で昨年と比べて86件増加しました。集計開始の2007年からおよそ2倍に増えていきます。部位別の上位5部位は、肺・大腸・乳房・子宮・前立腺で、昨年と比べて特に乳房32件、子宮24件、大腸19件が増加しました。女性の登録数が69件増え、全体の49.1%でした。男性は70～79歳台の罹患数が多く、女性は30歳台から増え始め、低年齢層では婦人科系がんが多いことがわかります。登録件数1位の肺癌ではstageⅣの割合が42%を占め、外科的治療が出来ない症例が多くみられました。

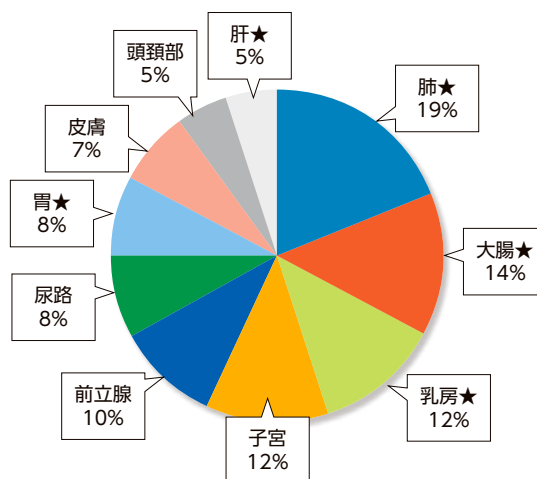
2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、外来・入院患者ともに減少傾向です。がん登録数にも影響が出そうです。

診断年別主要部位別登録件数

部位	2017年	2018年	2019年
頭頸部	34	31	36
食道	10	14	13
胃★	49	47	52
大腸★	74	78	94
肝★	29	29	34
脾臓	26	29	28
肺★	138	129	131
皮膚	53	50	51
乳房★	32	52	84
子宮	38	58	82
前立腺	55	75	72
尿路	53	66	54
脳神経	6	13	17
甲状腺	10	15	13
悪性血液	19	13	23
その他	40	48	56

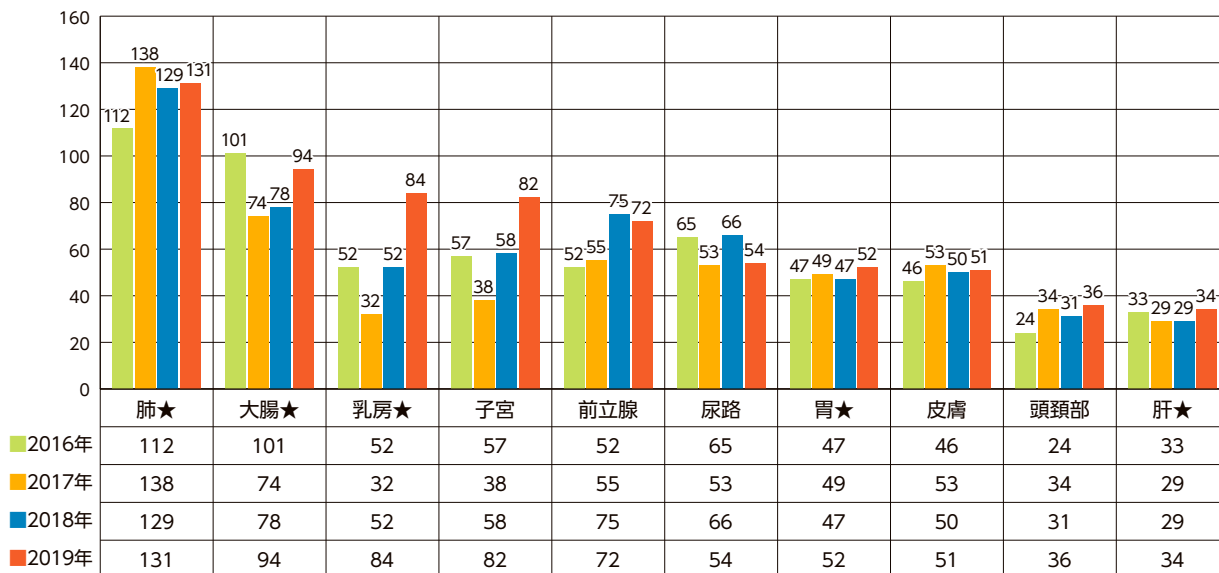
★は5大部位

登録上位10部位別登録割合

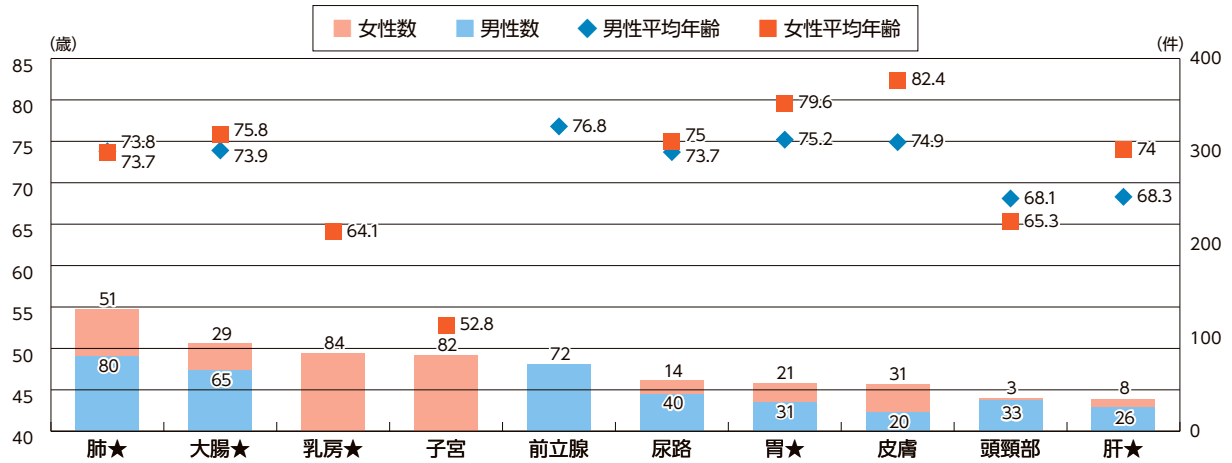


※大腸は結腸(75件)と直腸(19件)
 ※尿路は膀胱(36件)、腎(13件)、尿管(3件)、腎盂(2件)
 ※子宮は子宮頸部(53件)と体部(29件)
 ※悪性血液疾患は白血病、リンパ腫(23件)、骨髄腫、他の造血器腫瘍

2019年登録上位10部位



性別登録 上位10部位別件数と平均年齢

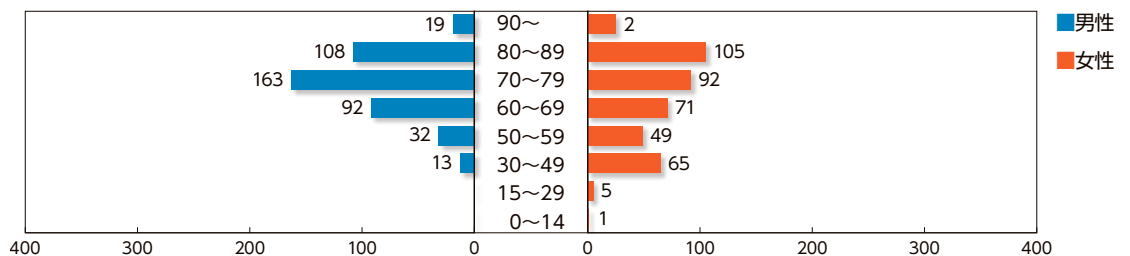


性別年代別 登録内訳と年齢分布

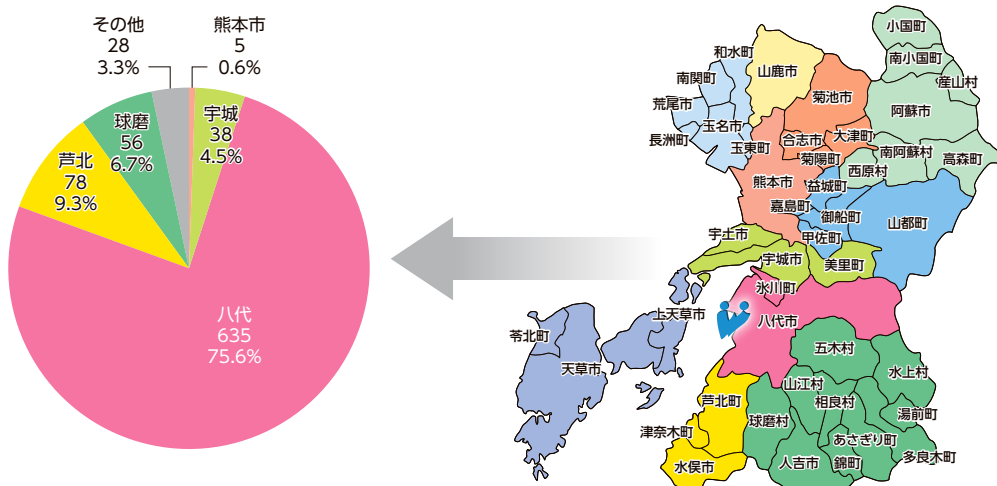
★は5大部位

性別	0~14歳		15~29歳		30~49歳		50~59歳	
	男性全体							
肺★					3		6	
前立腺					3		6	
大腸★					2		5	
皮膚					1		3	
尿路(腎)					1		3	
など								
計	0	0	13	32				
60~69歳								
肺★	18		23				4	
大腸★	15		22				3	
前立腺	15		17				3	
皮膚	10		12				3	
尿路	9		8				2	
頭頸部	6		6				2	
胃★	2		2				2	
など								
計	92	163	108	19				
80~89歳								
肺★							4	
前立腺							3	
大腸★							3	
皮膚							3	
尿路							2	
胃★							2	
皮膚							2	
など								
計								
90歳~								
肺★							4	
前立腺							3	
皮膚							3	
大腸★							2	
尿路							2	
肝★							2	
など								
計								
女性全体								
乳房★					31		14	
子宮					18		6	
肺★					6		6	
胃★					2		4	
皮膚					1		3	
大腸★					1		3	
胃★					1		2	
脾臓							2	
など								
計	1	5	65	49				
60~69歳								
乳房★	19		18				5	
肺★	8		15				4	
子宮(体部)	8		13				4	
子宮(頸部)	7		11				4	
大腸★	6		9				3	
尿路(膀胱)	4		6				2	
など								
計	71	92	105	25				
70~79歳								
肺★							5	
乳房★							4	
皮膚							4	
胃★							4	
大腸★							3	
子宮(体部)							3	
脾臓							2	
など								
計								
80~89歳								
皮膚							5	
乳房★							4	
肺★							4	
胃★							4	
大腸★							3	
脾臓							2	
子宮(頸部)							2	
など								
計								
90歳~								
大腸★							5	
肺★							4	
皮膚							4	
胃★							3	
脾臓							2	
尿路(膀胱)							1	
尿路(尿管)							1	
など								
計								

年齢分布

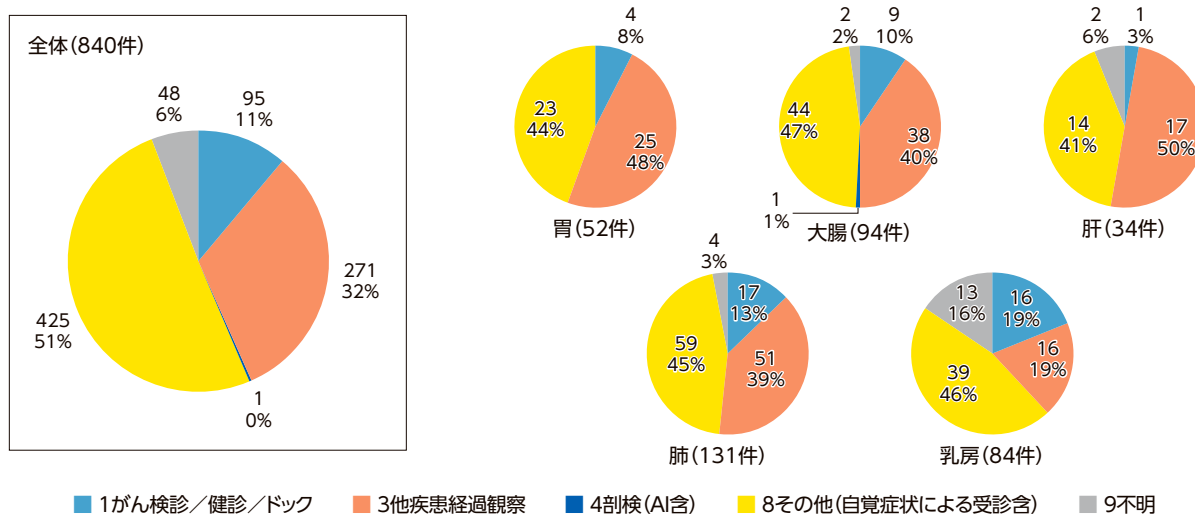


患者住所 医療圏別登録の状況

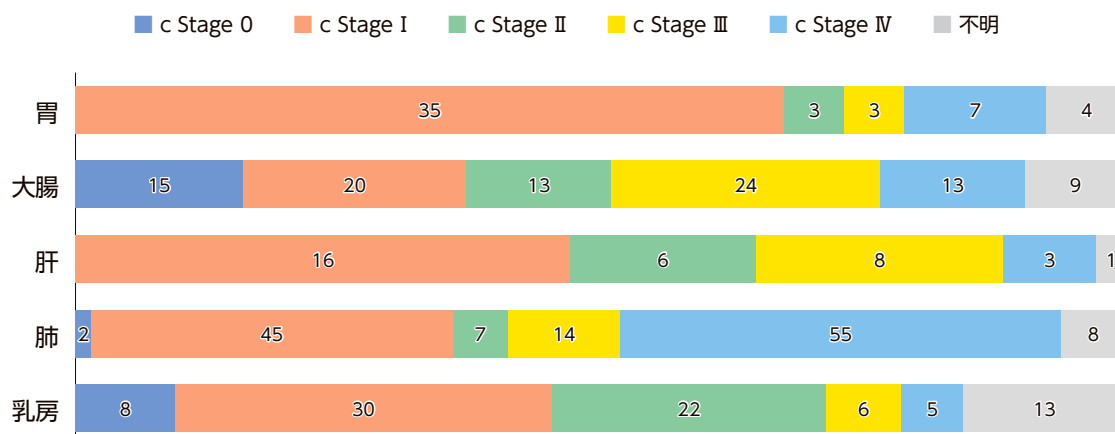


発見経緯 5大部位の内訳

臨床業績



5大部位 stage別割合

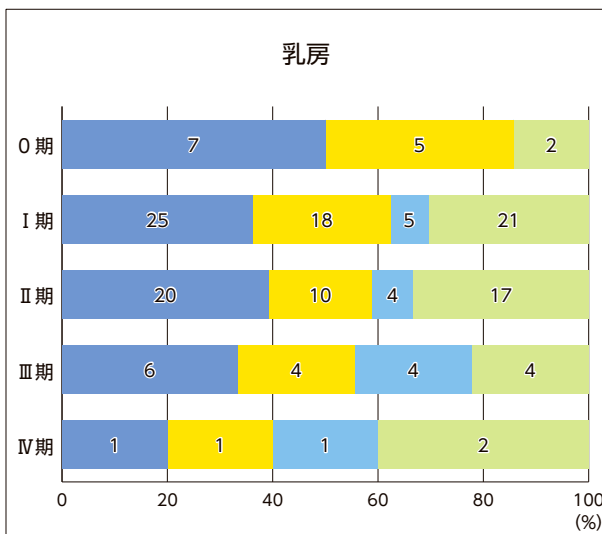
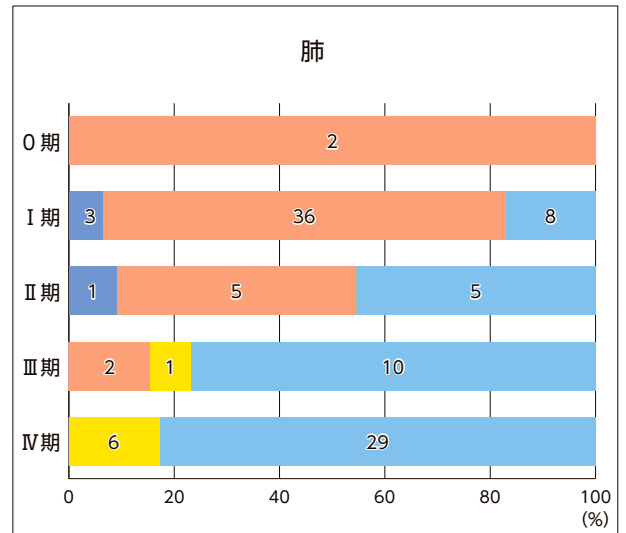
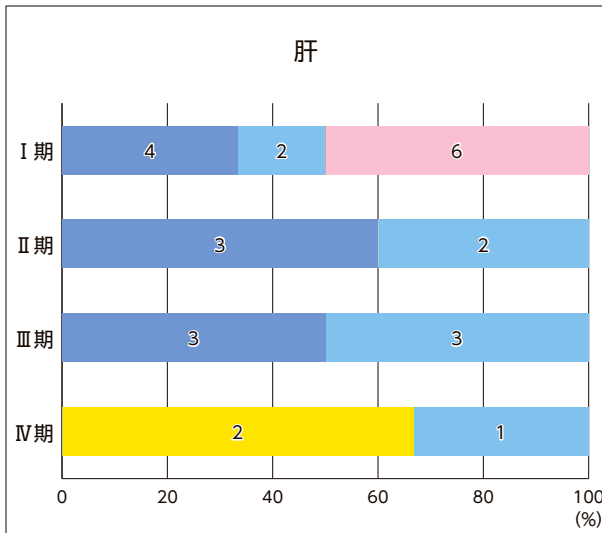
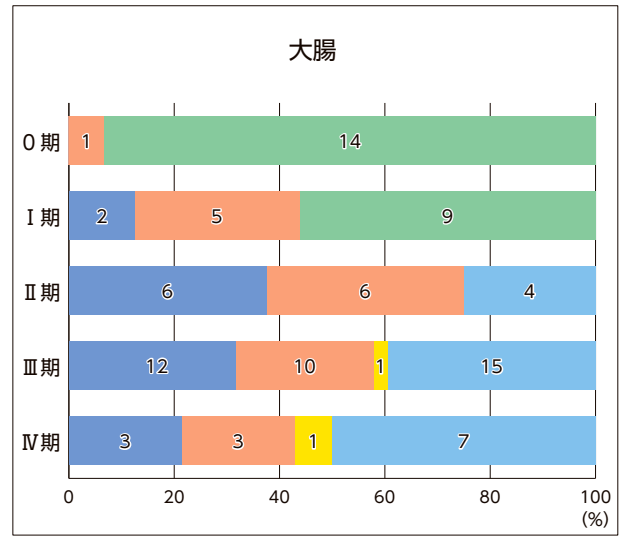
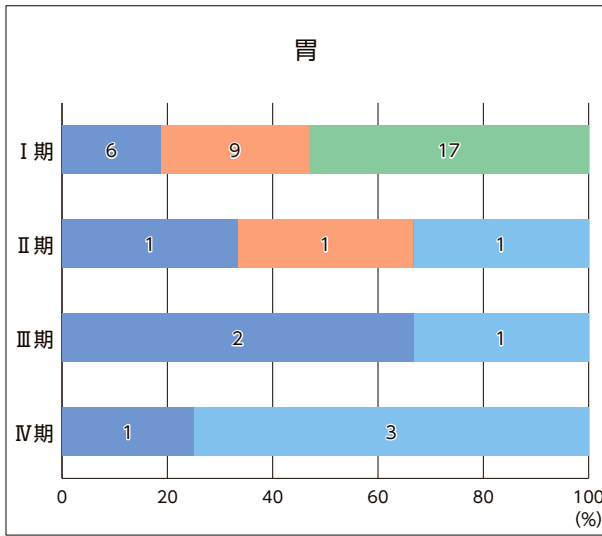


※ステージは総合ステージ【UICC分類第8版】

(術前治療なし・観血的治療例はp Stage、術前治療あり又は観血的治療なしの場合はc Stage)

5大部位別 治療割合

■ 外科的 ■ 体腔鏡的 ■ 内視鏡的 ■ 放射線 ■ 化学 ■ 内分泌 ■ 内分泌 ■ その他(RFA等)



臨床業績



2020年6月1日作成
 診療情報管理室 院内がん登録担当:村田

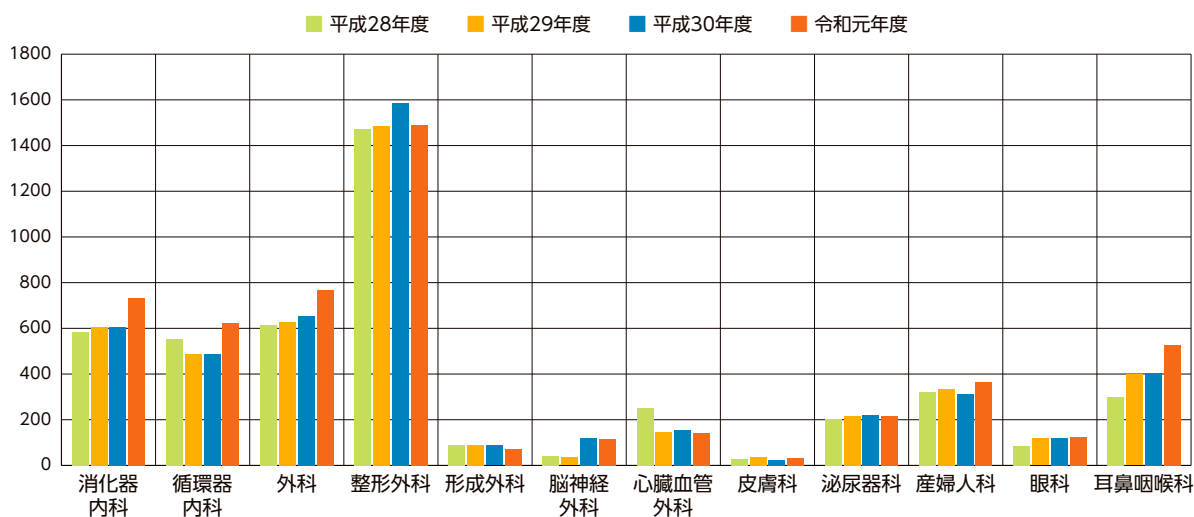
高度医療

単価（年度実績4-3月）

	1人1日当り単価(入院)				1人1日当り単価(外来)			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
内科	-	-	-	-	17,581	19,471	18,744	18,766
精神科	-	-	-	33,458	3,649	2,929	2,774	3,830
脳神経内科	49,001	44,691	45,795	46,302	18,305	14,596	12,574	13,112
呼吸器内科	41,518	41,443	42,764	44,466	21,176	28,451	32,369	31,708
消化器内科	46,344	47,036	49,651	47,277	18,404	19,802	19,602	20,789
糖尿病・代謝内科	35,738	34,179	35,366	35,649	11,063	10,741	10,844	10,796
循環器内科	96,984	90,587	94,986	114,288	12,877	14,019	15,567	15,001
小児科	57,204	59,098	62,789	65,933	15,204	15,691	13,662	16,604
外科	73,120	79,545	78,413	82,661	31,180	29,788	24,662	21,379
整形外科	52,966	53,065	58,376	58,803	9,703	9,701	9,717	9,496
形成外科	52,381	51,084	52,862	57,024	7,296	7,494	7,167	7,645
脳神経外科	50,225	49,467	60,411	59,874	9,233	11,056	13,367	13,687
心臓血管外科	137,193	119,237	123,607	130,062	12,058	12,039	14,145	14,158
皮膚科	40,041	39,947	37,198	43,566	7,269	7,573	8,340	8,499
泌尿器科	48,861	50,563	56,406	58,665	16,674	16,230	16,506	18,593
産婦人科	57,942	55,313	62,342	66,110	8,971	9,918	8,942	10,057
眼科	153,176	195,532	128,415	99,358	6,549	6,471	6,741	7,219
耳鼻咽喉科	52,989	51,557	51,778	52,458	9,584	9,159	11,855	11,352
放射線科	-	-	-	-	25,510	27,591	27,058	25,119
麻酔科	-	-	-	-	120	112	66	127
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
医療相談科	-	-	-	-	37,353	31,469	31,336	31,308
合計	58,520	57,065	59,906	62,689	13,950	14,809	14,956	15,111

臨床業績

手術（年度実績4-3月）

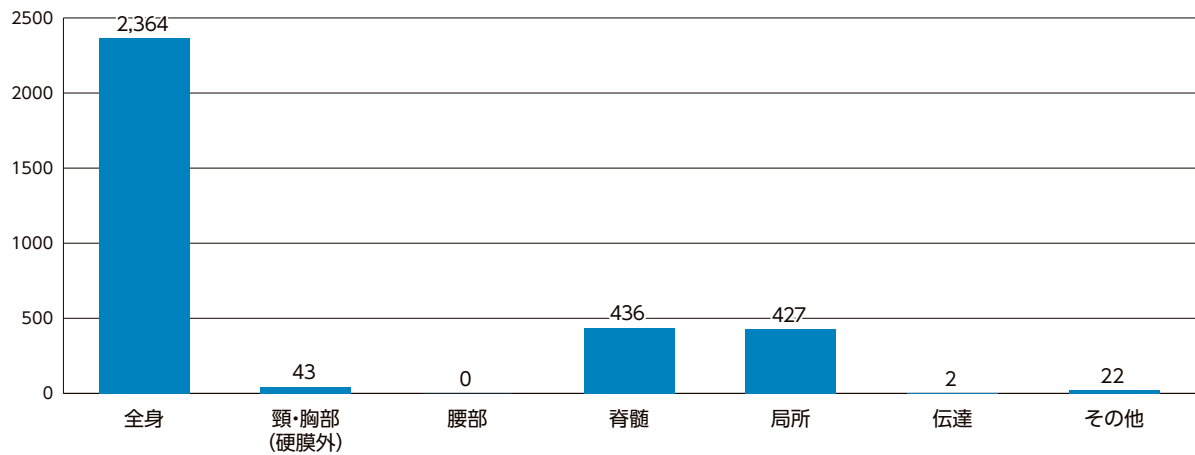


	消化器内科	循環器内科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
平成28年度	585	553	614	1,474	90	42	251	27	205	322	84	300	4,547
平成29年度	604	486	629	1,485	91	35	148	37	215	336	118	398	4,582
平成30年度	604	488	655	1,586	87	120	156	23	221	314	121	405	4,780
令和元年度	731	625	768	1,489	73	114	142	32	218	364	123	527	5,206

※入院と外来の手術室内手術件数(ただし、循環器内科と消化器内科については手術室外(カテ室、内視鏡センター)を含む)

麻酔（年度実績4-3月）

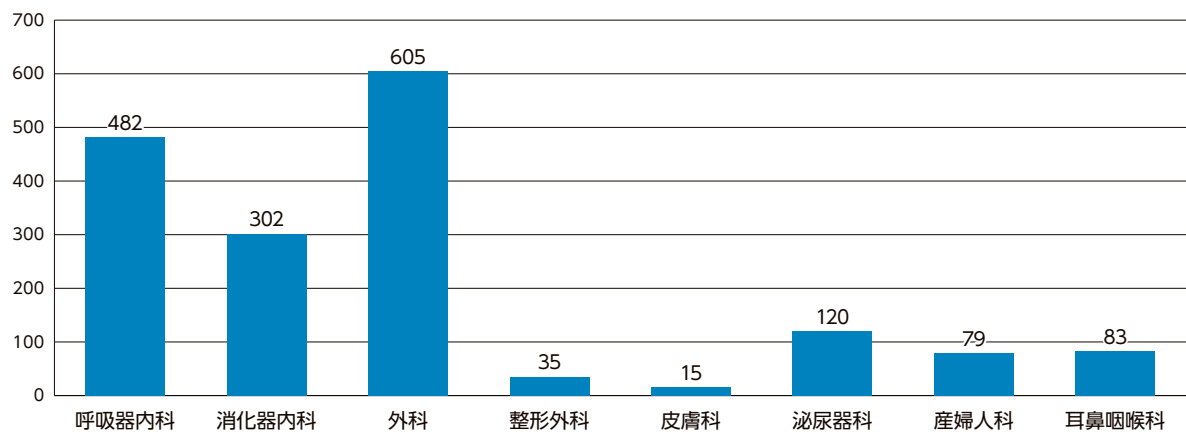
麻酔法別件数(令和元年度)



	全身	頸・胸部(硬膜外)	腰部	脊髄	局所	伝達	その他
令和元年度	2,364	43	0	436	427	2	22
※参考 平成30年度	2,232	41	4	404	441	8	19

外来化学療法加算（年度実績4-3月）

化学療法加算件数(令和元年度)

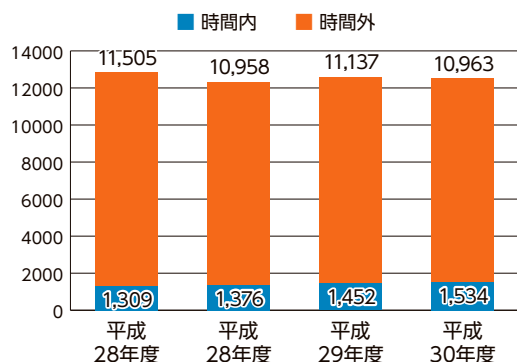


	呼吸器内科	消化器内科	外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科
令和元年度	482	302	605	35	15	120	79	83
※参考 平成30年度	495	246	508	36	18	88	30	53

救急医療

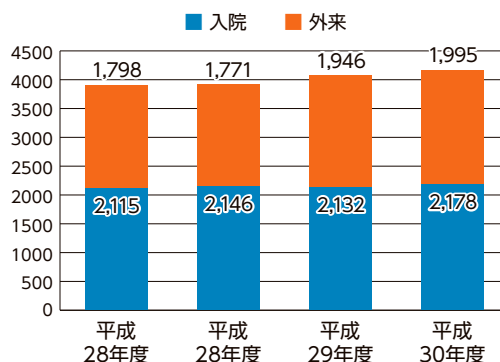
救急医療（年度実績4-3月）

救急患者数（時間内・時間外別）



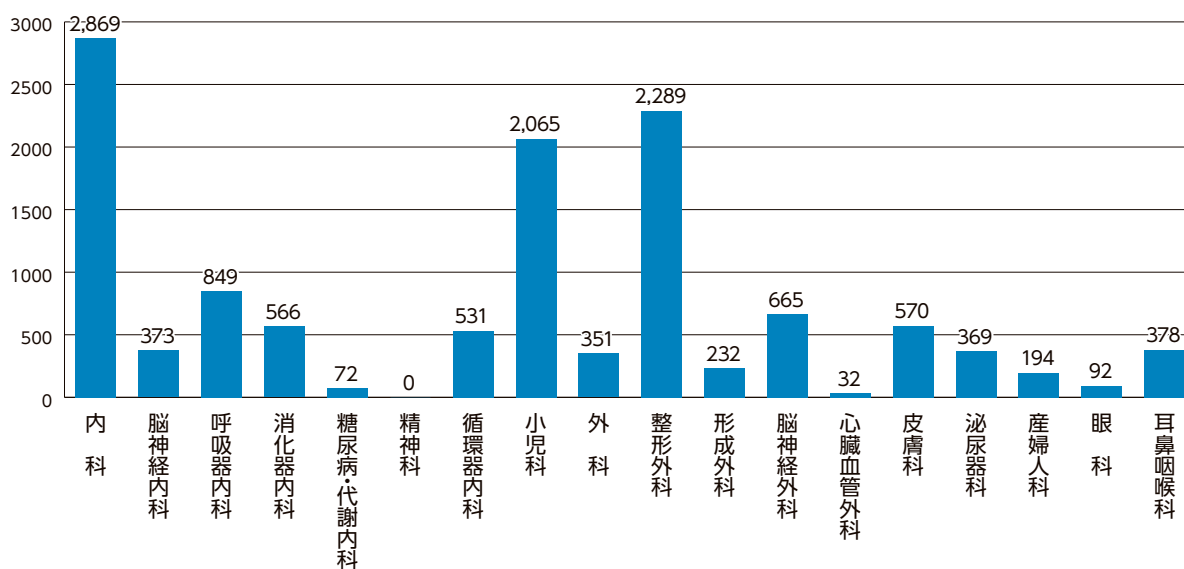
	時間内	時間外	合計
平成28年度	1,309	11,505	12,814
平成29年度	1,376	10,958	12,334
平成30年度	1,452	11,137	12,589
令和元年度	1,534	10,963	12,497

救急車搬送患者数（入院・外来別）



	入院	外来	合計
平成28年度	2,115	1,798	3,913
平成29年度	2,146	1,771	3,917
平成30年度	2,132	1,946	4,078
令和元年度	2,178	1,995	4,173

診療科別救急患者数（令和元年度）

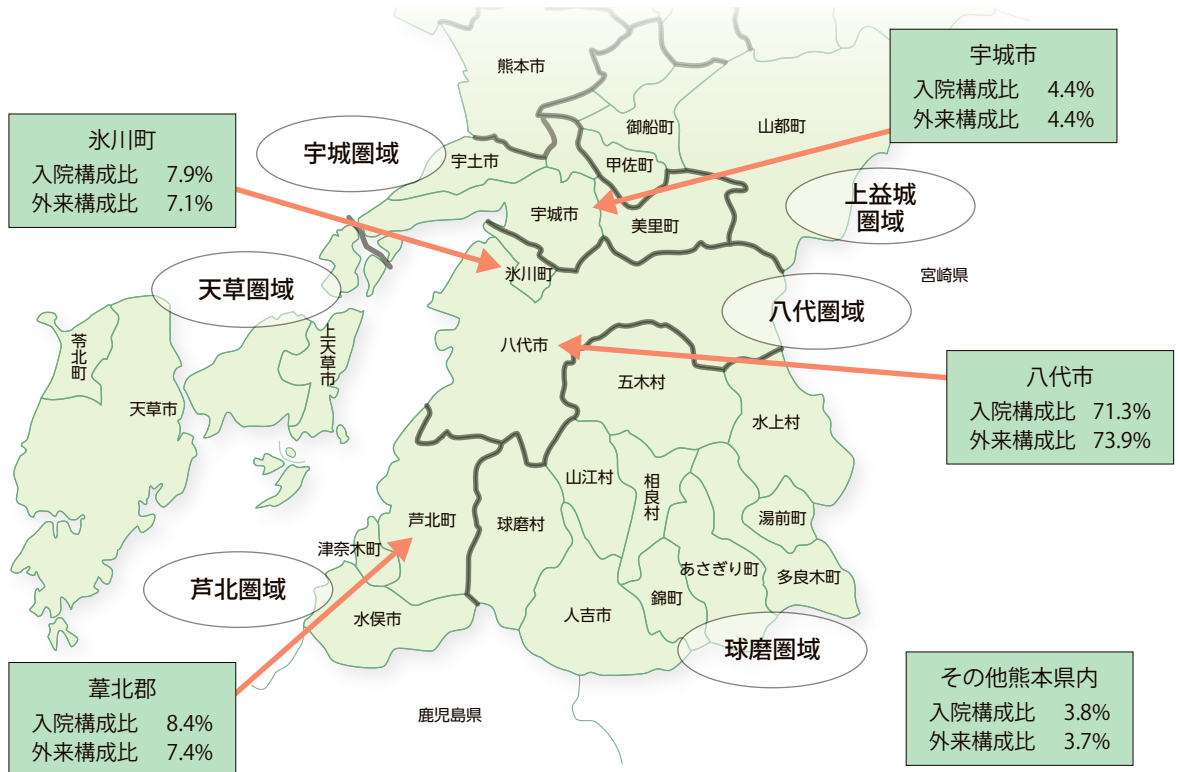


	令和元年度	※参考 平成30年度
内科	2,869	2,854
脳神経内科	373	354
呼吸器内科	849	949
消化器内科	566	499
糖尿病・代謝内科	72	58
精神科	0	1
循環器内科	531	481
小児科	2,065	1,988
外科	351	278
整形外科	2,289	2,430

	令和元年度	※参考 平成30年度
形成外科	232	235
脳神経外科	665	696
心臓血管外科	32	38
皮膚科	570	539
泌尿器科	369	398
産婦人科	194	201
眼科	92	99
耳鼻咽喉科	378	491
合計	12,497	12,589

地域医療

救急医療 (年度実績4-3月)



臨床業績

			入院患者				外来患者			
					労災患者				労災患者	
			延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)
熊本県	八代医療圏	八代市	94,490	71.3	1,024	60.2	104,040	73.9	1,148	75.6
		氷川町	10,424	7.9	129	7.6	10,049	7.1	80	5.3
		小計	104,914	79.2	1,153	67.7	114,089	81.0	1,228	80.8
		葦北郡	11,067	8.4	198	11.6	10,466	7.4	48	3.2
		宇城市	5,881	4.4	82	4.8	6,256	4.4	72	4.7
		球磨郡	3,010	2.3	51	3.0	2,473	1.8	31	2.0
		その他県内	5,015	3.8	90	5.3	5,146	3.7	127	8.4
		熊本県 計	129,887	98.0	1,574	92.5	138,430	98.3	1,506	99.1
	福岡県	199	0.2	40	2.4	322	0.2	8	0.5	
	鹿児島県	1,422	1.1	26	1.5	1,115	0.8	1	0.1	
	その他	1,002	0.8	62	3.6	982	0.7	4	0.3	
	合計	132,510	100.0	1,702	100.0	140,849	100.0	1,519	100.0	



診療情報



患者紹介について

当院では初診の紹介患者様について予約サービスを行っています。紹介元医療機関から地域医療連携室へあらかじめ情報提供書をファックスしていただくことにより、診察や検査のご予約が可能です。

受付・お問合せ先

地域医療連携室

TEL 0965-33-4151 (代表)

FAX 0965-34-5799 (直通)

入退院支援 相談窓口

TEL 0965-33-7231 (入退院支援担当者直通)

診察予約

精神科、一部の特殊外来：予約制です。

その他の診療科：予約は不要です。

かかりつけ医からの紹介状をお持ちになって、月～金の11時までにご来院ください。

ただし、小児科と整形外科の初診の受付につきましては完全紹介制となっておりますので、かかりつけ医からの紹介状を必ず持参ください。

また、ご紹介の患者様につきましては、ご希望があれば紹介予約をお取りできますので、紹介元よりFAXにてお申し込みください。

検査予約

放射線検査 予約

TEL 0965-33-7227 (直通)

お電話でご予約いただいた場合は、診療情報提供書を事前にFAXしていただく必要はございません。患者様が受診される際に持たせてください。

※緊急の場合は当日対応も可能です。

■ 電話では、こちらから以下の内容についてお尋ねいたします。

- 紹介患者様のお名前と生年月日
- 当院の受診歴がない場合には、事前にカルテ作成の準備をするためお名前の漢字表記をお尋ねいたします。
- 検査項目 (CT/MRI/RI)
- 検査部位
- 検査種別 (単純/造影)
- 造影検査の場合、直近の血液検査実施の有無についても、お尋ねいたします。
- ご希望の検査日時

■ お電話で予約後、当院からFAXにて「検査予約票」を送付します。

■ 食事制限の有無について記載しておりますので、ご確認の上、患者さまへお渡しください。

診療科へ紹介される場合

① 「放射線科検査希望」である旨ご記載のうえ患者様をご紹介ください。

② 各診療科の医師が診察を行います。

③ 検査を行います。^{*1}

④ 各診療科の医師より結果説明を行います。^{*2}

⑤ お返事をお送りします。

Point!

専門医による診察、結果説明を行ったうえで、ご紹介いただいた先生へお返しいたします。

※1 ※2 通常、それぞれ日を改めて行いますが、同日中に済まされたい場合にはその旨お申し付けください。診察/検査枠の状況によりですが、可能な限りご希望に沿えるよう対応いたします。

検査のみを依頼される場合

① 検査予約専用直通電話(0965-33-7227)もしくはFAXにて予約申込みを行ってください。

② 予約日に検査を行います。

③ 読影結果および画像のDVDを郵送いたします。^{*}

④ ご紹介いただいた先生より結果説明をお願いいたします。

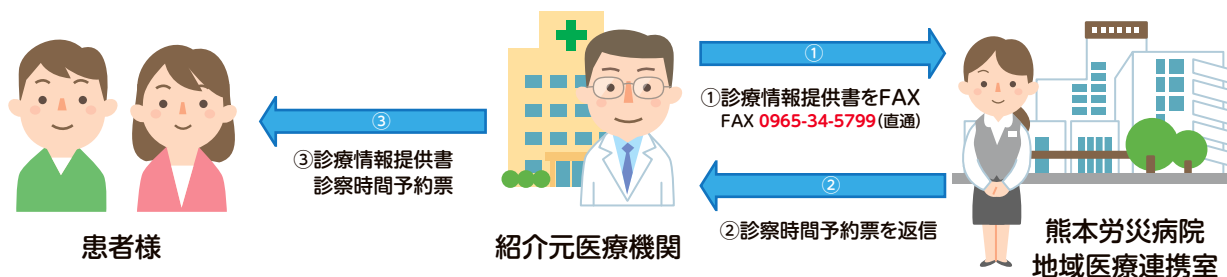
Point!

検査の実施および結果の確認を迅速に行うことができます。当院からの結果説明は行いませんので、結果確認のうえ、患者様へはご紹介いただいた先生より説明をお願いいたします。

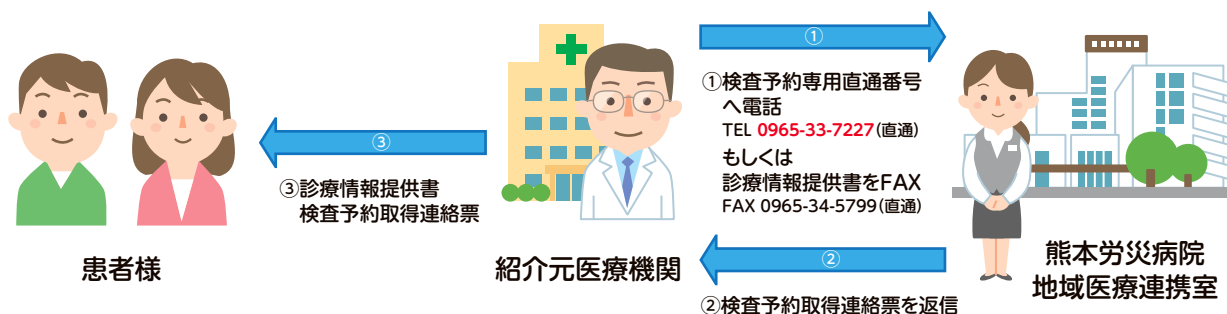
※通常、異常所見が見られない場合には郵送しておりますが、検査当日中の所見のFAXやDVDの患者様手渡しも可能です。希望される場合は予約の際にお申し付けください。

紹介予約の流れ

診察の場合



検査の場合



- ① 診療情報提供書(兼診察依頼票)を、ファックスにて地域医療連携室あてご送信ください。
FAX:0965-34-5799(地域医療連携室直通)
検査予約の場合は、予約専用電話でも受け付けしております。
TEL:0965-33-7227(地域医療連携室の担当へ直接つながります)
- ② 情報提供書の内容確認後、原則10分以内に当院から診察時間予約票をファックスします。
ご依頼内容・受診診療科によっては予約調整にお時間をいただく場合がございます。
- ③ 患者さまへ診療情報提供書(兼診察依頼票)、診察時間予約票をお渡しください。

受診当日は、①健康保険証、②診療情報提供書、③診察時間予約票、④お薬手帳 をご持参のうえ、総合受付1番窓口までお越しください。

診療情報提供書(兼診察依頼票)

熊本労災病院 地域医療連携室行
令和 年 月 日

FAX 0965-34-5799
(月～金 8:15～17:00)

ふりがな 患者氏名		貴医療機関名(住所、電話番号、FAX番号)			
生年月日 M・T・S・H・R 年 月 日 歳 性別 男・女		貴医師名			
電話番号					
住所	県 市・郡 町				
依頼 診療科	<input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 呼吸器外科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 消化器外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 泌尿器科	<input type="checkbox"/> 脳神経内科 <input type="checkbox"/> 血管内科 <input type="checkbox"/> 乳腺外科 <input type="checkbox"/> 形成外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科	<input type="checkbox"/> 糖尿病・代謝内科 <input type="checkbox"/> 血管外科 <input type="checkbox"/> 小児外科・移植外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 眼科	
希望日	①令和 年 月 日 ()	希望医師名			
	②令和 年 月 日 ()	医師			
	③令和 年 月 日 ()				
疾患名・症状					
紹介目的					
病状経過及び 検査歴・治療経過					
現在の処方					

診療情報

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670番地
電話 0965-33-4151(代表)
FAX 0965-34-5799(地域医療連携室)

独立行政法人 労働者健康安全機構
熊本労災病院

検査依頼書（兼 診療情報提供書）

依 頼 患 者			
フリガナ		住所	
氏 名		住所	
生年月日	MTSH 年 月 日 歳	電話	

検査項目	<input type="checkbox"/> CT （単純・造影）
	<input type="checkbox"/> MRI （単純・造影）
	<input type="checkbox"/> RI

検査部位	
医療機関名	
住 所	
医師名	
先生	TEL
	FAX

疾患名／既往歴
検査目的／ご紹介の主旨
症状の経過および検査結果／治療経過／薬物アレルギー（有・無）
検体採取日 年 月 日 BUN（ mg/dl） クレアチニン（ mg/dl）

熊本労災病院 地域医療連携室

TEL 0965-33-4151

FAX 0965-34-5799

検査を受けられる方へ

- 1 検査当日は総合受付へ検査依頼書(兼診療情報提供書)をご提出ください。
- 2 予約時間に遅れますと検査が遅れたり、当日実施できなくなることもあります。都合で検査に遅れたり、来院できない場合には、必ずご連絡をお願いいたします。なお、受付時刻のおよそ30分後が検査予定の時間です。
- 3 妊娠中、妊娠の可能性のある方は、必ず、お申し出ください。

あなたの検査は

CT

原則として、食事・水分制限はありません。

胃・胆嚢の検査の場合、検査3時間前から食事は摂らないでください。

下記に該当される方は、検査前に必ずかかりつけの先生にご相談ください。

- アレルギー、喘息、腎疾患のある方
- 過去に造影剤を用いた検査で気分不良などの問題のあった方

膀胱の検査の場合には、検査1時間前からトイレ(排尿)は控えてください。

MRI

原則として、食事・水分制限はありません。

胃・胆嚢の検査の場合、検査3時間前から食事は摂らないでください。

下記に該当される方は、検査前に必ずかかりつけの先生にご相談ください。

- 心臓ペースメーカーを装着されている方
- 体内に金属を留置されている方
- スtentを挿入されている方
- 脳動脈瘤手術後の方
- 心臓手術後の方
- 喘息の既往のある方
- アレルギー、喘息、腎疾患のある方
- 過去に造影剤を用いた検査で気分不良などの問題のあった方

膀胱の検査の場合には、検査1時間前からトイレ(排尿)は控えてください。

RI

検査開始時間、所要時間は検査の種類によって異なります。

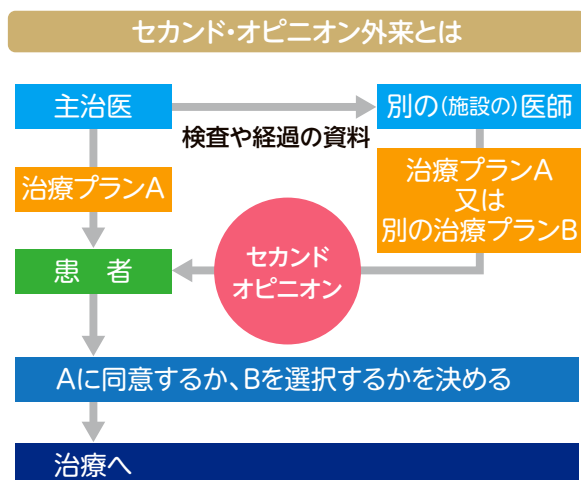
検査に用いる薬品は、当日しか使用できない高価な特殊薬品ですので、検査日程をお間違えにならないようお願いいたします。

お問合せ先

地域医療連携室 TEL 0965-33-4151(代表) FAX 0965-34-5799(直通)

お問合せ時間 平日午前8時15分から午後5時00分まで

セカンド・オピニオン外来



セカンド・オピニオン外来は、当院以外の医療機関に入院または通院されている患者様に対し、当院の専門医が診断・治療に関する意見や判断を提供し、今後の治療の参考にさせていただくことを目的としており、診療行為はいたしません。当院での治療を希望される場合は、一般外来を受診してください。

なお、セカンド・オピニオン外来は完全予約制です。相談希望の方は、事前にお申込みが必要となります。

■相談を実施する診療科

呼吸器内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、脳神経内科、循環器内科、小児科、心臓血管外科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科

セカンド・オピニオンの対象となる場合

相談は患者様本人を原則とします。ただし、ご本人の同意書があれば、ご家族(配偶者、親、子、兄弟に限る。)の方だけでも相談できますが、この場合、患者様との続柄を確認できる書類(住民票、健康保険証など)をお持ちください。また、現在受診中の医療機関からセカンド・オピニオンに関する紹介状(診療情報提供書)や検査結果等の資料をご用意いただく必要があります。

また、以下の場合は対象となりませんのでご注意ください。

- 最初から当院での治療などを希望される場合
- 現在受診中の医療機関に対する不満や苦情、医療訴訟を目的とした相談

- 診療費に関する相談
- 死亡した患者様を対象とした相談
- 主治医が了承していない場合
- 予約がない場合
- ご本人、ご家族以外からの相談(ただし、ご家族でも本人の同意書をお持ちでない場合)
- 相談内容が当院の専門でない場合

相談について

各診療科担当医と相談の上、相談の可否、追加で必要な資料、相談日時を決定し、電話及び予約決定通知書でご連絡いたします。

■相談時間

相談時間は、30分を原則とさせていただきます。

■費用

7,500円(消費税込)以後30分を超えるときは、30分ごとに7,500円(消費税込)が必要となります。全額自費となります。(健康保険は適用されません。)相談料金は、ご相談が終了した後に会計窓口でお支払いいただけます。

■持参していただくもの

- 予約決定通知書
 - 紹介状(診療情報提供書)
 - 相談者のご家族の場合、患者さまご本人の署名のある同意書
 - 検査データ(血液検査、心電図、レントゲンフィルム、超音波検査の結果と画像、MRI、CT等の画像、病理組織検査の報告書等)
 - その他当院が特に必要と認めて依頼した資料
- ※当日、主治医からの情報や検査資料をお持ちでない場合は、一般的なお話しができず、有効なセカンド・オピニオンが提供できないため、ご予約いただいても、ご相談に応じられない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

申込方法・お問合せ先

- すべて予約制です。
- 地域医療連携室にお電話ください。ご相談の概要をお伺いします。
- 予約申込書をダウンロードして印刷してください。
- 予約申込書に必要事項を記入の上、地域医療連携室あてにFAX又は郵送してください。
- ダウンロードや印刷ができない場合は、電話で予約申込書をご請求ください。

熊本労災病院地域医療連携室

TEL 0965-33-4151 (内線260、261)

FAX 0965-34-5799

受付時間 午前8時15分～午後5時

(土・日・祝日・年末年始を除く。)

熊本労災病院HPよりダウンロードできる資料

- セカンド・オピニオン外来のご案内
(PDF：約97KB)
- セカンドオピニオン申込書【様式2】
- 主治医の先生へのお願い【様式3】

お申込み手順

- 1 現在の主治医へセカンドオピニオンの相談を行い、了解を得てください。
- 2 患者様の現在の主治医に紹介状(診療情報提供書)・検査データ・フィルム等の資料をご依頼ください。その際、すべての資料が揃う日をご確認ください。
(注)紹介状をお持ちでない場合、セカンドオピニオンをお受けできません。
- 3 申込書を印刷してください。印刷できない場合は当院地域医療連携室へご請求ください。
(注)ご家族のみの場合、患者様本人の同意書も必要です。
- 4 相談者の方ご自身で申込書にご記入のうえ、地域医療連携室あてにFAXまたは郵送ください。
(注)申込みの内容により担当医師を決定しますので、なるべく具体的にご記入ください。
- 5 お送りいただいた申込内容により専門性を考慮し、相談の可否、相談医師、相談日を決定し、電話及びセカンド・オピニオン外来予約決定通知書によりご連絡いたします。
- 6 相談日当日は、セカンド・オピニオン外来予約決定通知書、診療情報提供書(患者様本人でない場合は同意書も持参)、検査データ、レントゲンフィルム等の資料をご持参いただき、正面玄関総合受付窓口へお越しください。
- 7 相談終了後、お会計をしていただき、資料をご返却いたします。
- 8 担当医から紹介元医療機関へ返書を作成し、郵送いたします。

両立支援相談窓口

“病気になっても働き続けたい”

熊本労災病院は、悩みをお持ちの方と共に考え、サポートしていきます。

治療と仕事の両立支援って？

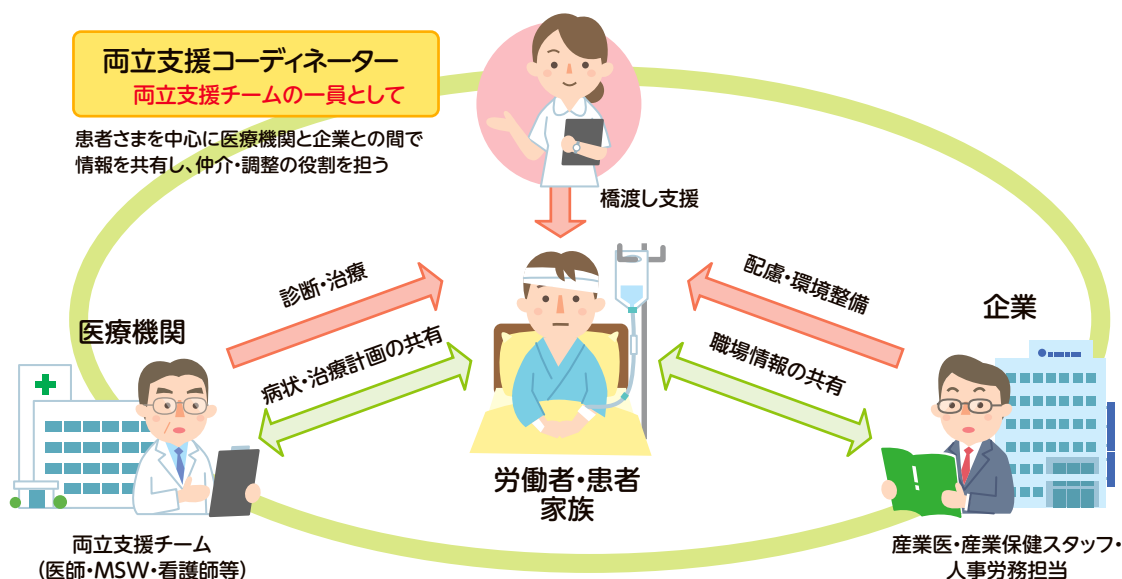
がんなどの病気になってしまった時、仕事を休めないといった理由で十分な治療ができなかったり、病気の治療を理由に仕事を辞めてしまったりすることがあります。

当院では、休業からの職場復帰や治療と仕事の両立をサポートすることを目的として、平成26年4月から「治療就労両立支援部」を設置し、専門の「両立支援コーディネーター」が支援を行っています。

両立支援コーディネーターの役割は？

患者さまやご家族が治療と仕事の両立を希望する場合、通常は、患者さまご自身が「医療機関」と「職場」と調整する必要がありますが、「自分の病状や今後の治療について、的確に職場に伝えられるだろうか?」「どのような業務内容であれば治療をしながら行ってもよいのだろうか?」…など、様々な問題や不安があり、十分に職場等と連携、情報共有ができず、結果として仕事を継続できないといったことにつながる可能性があります。

当院では、両立支援コーディネーターが、患者さまやご家族のお悩みを聞き同意を得た上で、「患者さま」を中心として、「医療機関」（診断・治療の見通しなどの情報）と、「企業」（職場環境の情報、業務内容の配慮等）との3者間をつなぎ、円滑な情報の共有と両立に向けた調整が行えるよう支援しています。

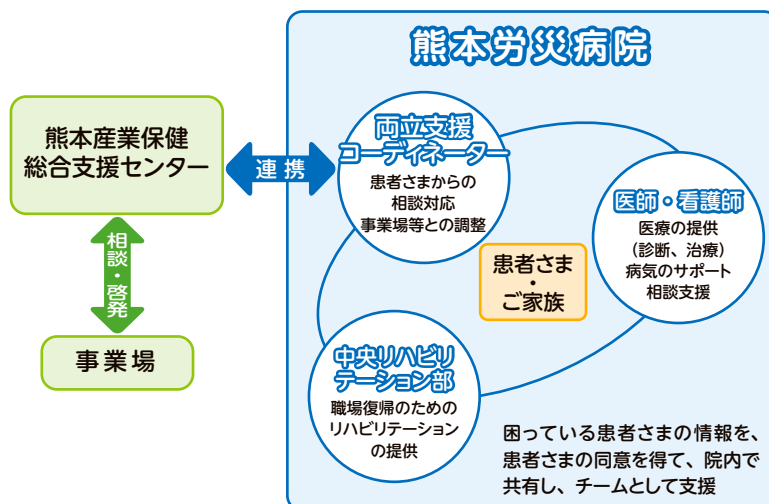


熊本労災病院の両立支援体制は？

両立支援コーディネーターは、医師（主治医等）、看護師（がん相談員等）、リハビリテーション部（職場復帰のためのリハビリ等）と連携し、「熊本労災病院両立支援チーム」として対応します。

また、患者さまの同意を得た上で、熊本産業保健総合支援センターとも連携し、必要に応じて事業場との調整等も行います。

仕事との両立でお困りの方は、両立支援コーディネーターだけでなく、院内の医師や看護師、リハビリテーション技師等へもご相談できます。



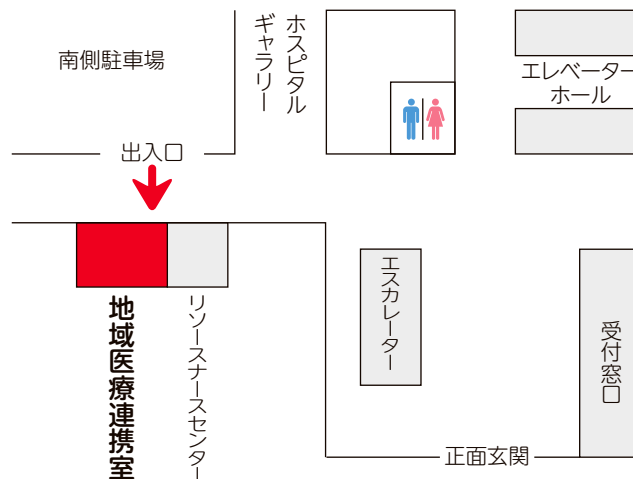
両立支援相談窓口について

平成29年4月から、熊本産業保健総合支援センターと連携して、がんや難病等で治療されている方からの相談対応を行うため、地域医療連携室に「両立支援相談窓口」を下記の時間帯で開設しています。お気軽にご相談ください。

日時 平日 8:15～17:00

場所 地域医療連携室
(両立支援コーディネーター)

※お電話での相談も可能です



お問い合わせ先
熊本労災病院 治療就労両立支援部
(地域医療連携室)
TEL (0965) 33-4151

両立支援に関する情報は以下のサイトでも紹介されています。

●独立行政法人労働者健康安全機構ホームページ

<https://www.johas.go.jp/ryoritsumodel/tabid/1013/Default.aspx>

●熊本産業保健総合支援センターホームページ

https://kumamotos.johas.go.jp/ryouritsu/ryouritsu_a.htm



独立行政法人労働者健康安全機構
熊本労災病院

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670
TEL 0965-33-4151 FAX 0965-32-4405

<https://kumamotoh.johas.go.jp>



HP



フェイスブック
熊本労災病院公式